

クボタトラクタ

取扱説明書

A **15**
17
19



F-5903

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ + 安全五憲章

- 1・道路を走行するときは、
ブレーキペダルを連結します。
- 2・農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。
- 3・ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角に走行します。
- 4・トラクタや作業機を点検調整するときは、
必ずエンジンを止め、油圧ロックをします。
- 5・補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は、安全五憲章のとおりですが、これ以外にも本文の中で **安全ポイント** として説明のつどとり上げております。

更に、安全のポイントを抜粋した **安全注意ポスタ**・**納入品安全説明書** を別冊にして添付しておりますので、よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買いあげの製品がいつまでもすぐれた性能を発揮するようこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、わからないことがあったとき取出してお読みください。

なお、製品の仕様変更などにより、お買いあげの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

また、この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので、お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ、おまちがいのないようお願いいたします。

- マイコンモンローマチック付き……………「M仕様」
- マイコンモンローマチックオート付き……………「MA仕様」
- 倍速ターン付き……………「B仕様」
- レインガードキャビン付き……………「W仕様」
- ロータリ駆動方式によって……………「サイドドライブ仕様」
「センタドライブ仕様」
- ロータリのリヤカバーの種類によって……………「標準カバー仕様」
「Vカット仕様」
- Aフレームなし……………「N仕様」
- Aフレーム付き……………「S仕様」
(スーパージョイント仕様)
- 延長カバーなし・後2輪付き……………「標準仕様」
- 延長カバー付き・後2輪なし(スタンド付き)…「MAY仕様」
- 延長カバー付き・後2輪付き……………「MAYB仕様」
- 前輪フェンダ付き……………「Z仕様」
- 低床タイプ……………「K仕様」
- 安全フレーム付き……………「Y仕様」

説明は、A-19・RSP13を基本とし、取扱いが異なる場合は、そのつど追加説明してあります。

目次

サービスと保証について	1
小型特殊自動車について	2
運転に必要な装置の取扱い	3
スイッチとメータの取扱い	3
運転装置の取扱い	5
前輪駆動レバー・倍速ターンレバーの取扱い	7
作業機昇降装置の取扱い	8
モンローマチック【M仕様】・ モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い	10
輪距の調整	13
レインガードキャビンの取付け、取外し【W仕様】	14
前輪フェンダ【Z仕様】の取扱い	14
上手な運転のしかた	15
エンジンの始動と停止	15
ならし運転と暖機運転	16
走行運転のしかた	17
安全フレームとシートベルトについて【Y仕様】	20
上手な装置の使い方	21
ロータリ装置について	22
耕うん爪の取付け方	22
ロータリの調整	25
ロータリの着脱のしかた	29
ロータリ耕うん法	35
ロータリ畝立て作業	36
トラクタ使用前の点検について(仕業点検)	37
トラクタの簡単な手入れと処置	38
定期点検箇所一覧表	39
給油(水)一覧表	40
燃料について	41
各部への給油と交換(トラクタ, ロータリ)	43, 45
グリースの注入箇所	46
フィルタの交換と洗浄	48
各部の点検・調整	49
電気系統について	52
長期格納時の手入れ	55
エンジンの不調と処置	56
付表	57
主要諸元	57
標準付属品	59
推奨オイル・グリース一覧表	59
主な消耗部品一覧表	60
アタッチメント一覧表	64
作業ごとの一般的な調整要領	68

サービスと保証について

この製品には、サービスブックが添付してあります。アフタサービスなどの詳細についてはサービスブックをご覧ください。

なお、ご使用中に万一故障した場合やご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協・弊社支店又は(株)クボタアグリに設けております「ご相談窓口」にお気軽にご相談ください。

●ご相談の際には

- (1)トラクタ名称と車台番号
- (2)エンジン名称とエンジン番号
- (3)ロータリ名称と機械番号

を併せてご連絡ください。

◆安全鑑定適合番号

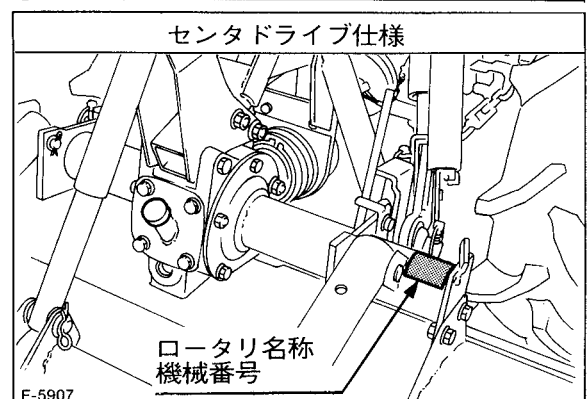
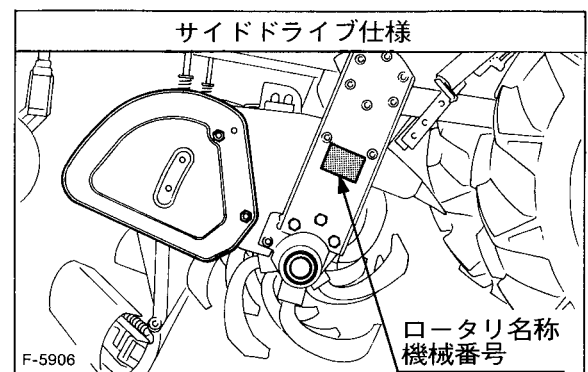
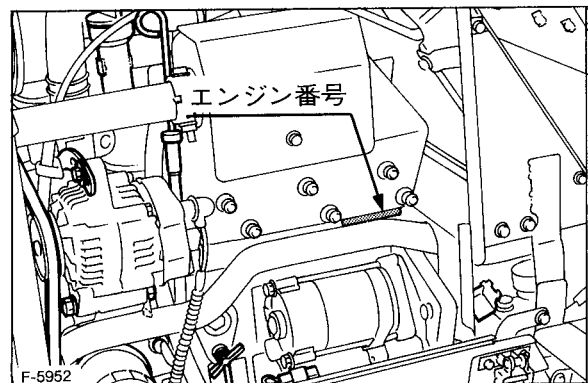
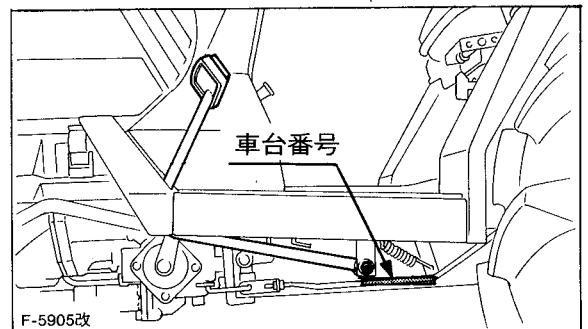
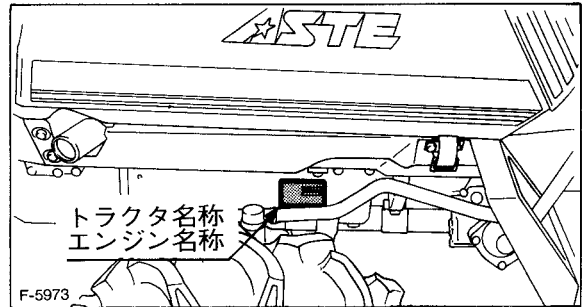
クボタA-15……………1301015
クボタA-17……………1301016
クボタA-19……………1301017

◆型式認定番号

クボタA-15……………農1782
クボタA-17……………農1783
クボタA-19……………農1784

◆型式検査(国検)合格番号

クボタSF-A15……………89001
(安全フレーム)



小型特殊自動車について

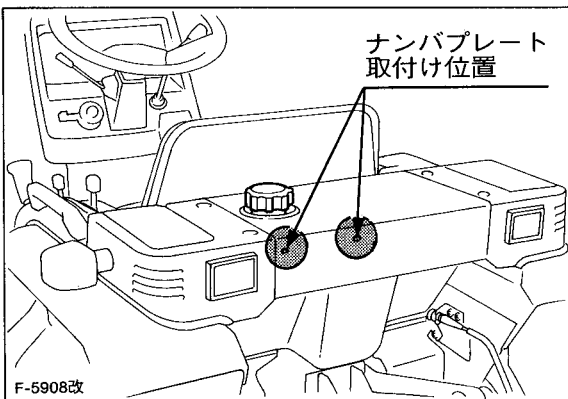
このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届出、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

(手続きは市町村により多少異なりますので)
(詳細は、販売店・農協にご相談ください。)

- ①小型特殊自動車取得の証明書など(販売店・農協で発行)に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
- ②届出が済むとナンバープレートが交付されます。
- ③ナンバープレートを車体の取付け位置に取付けてください。



■運転免許

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最高速度	15km/時以下	
原動機の総排気量	1500cc以下	

上記の条件を有する自動車で、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご留意ください。

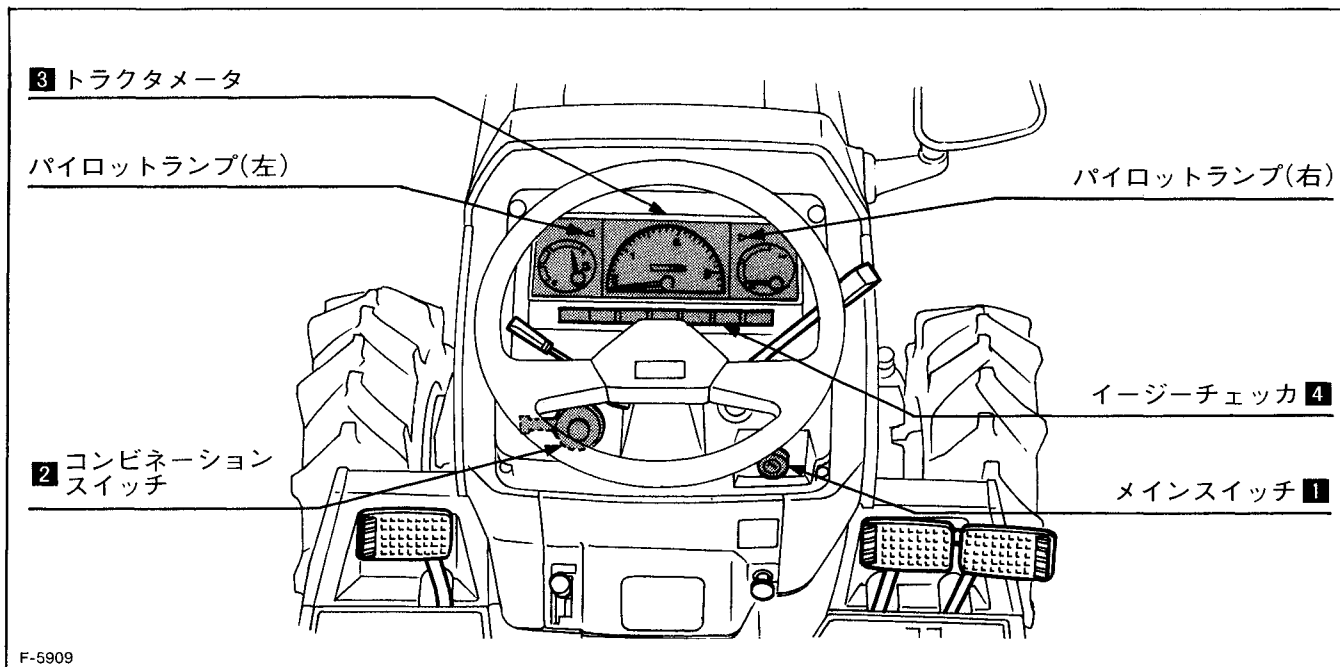
- (1)認定を受けた以外のエンジンを搭載して運行することはできません。
- (2)認定時の構造を変更(例えば大径車輪やドッキングローダなどを装着)した状態では、運行することはできません。
- (3)エンジン及び車体の封印は外さないでください。封印が外されたら認められる場合は、一切の保証はできませんのでご注意ください。

注意

- 作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯火の色等の制限)において、「走行中に使用しない灯火」とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

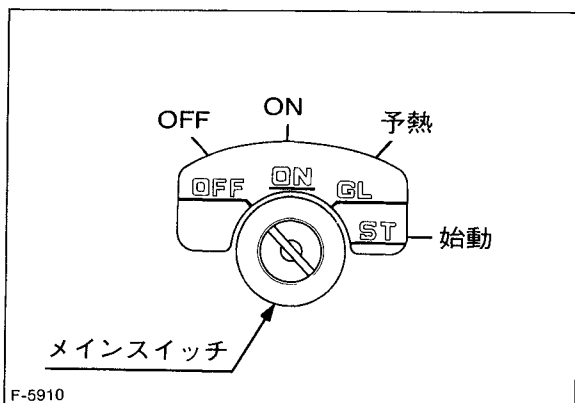
運転に必要な装置の取扱い

スイッチとメータの取扱い

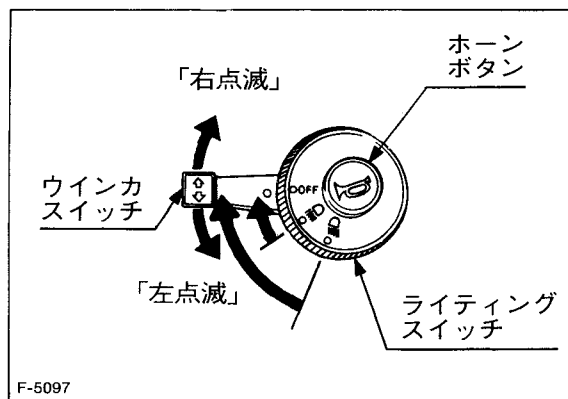


1 メインスイッチ

- OFF ……キーが抜き差しできる位置。
 ON ……エンジン回転中の位置。
 GL(予熱) ……燃焼室内を予熱する位置。
 ST(始動) ……クラッチペダルをいっぱい踏込んで、
 エンジンを始動する位置。
 手を離せば自動的に「ON」に戻ります。



2 コンビネーションスイッチ



◆ライティングスイッチ

- OFF ……ヘッドランプ消灯位置
 ☉ ……ヘッドランプ上向き照射位置
 ☽ ……ヘッドランプ下向き照射位置

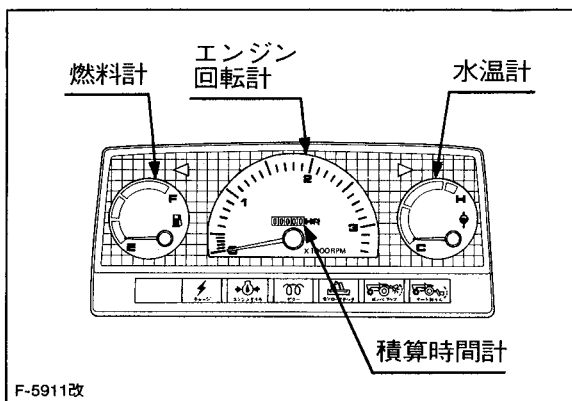
◆ウインカスイッチ

- (1) スイッチを操作すると、ウインカランプ及び計器盤のパイロットランプが点滅します。
 (2) 右折又は左折が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。

◆ホーンボタン

- メインスイッチを「ON」にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

3 トラクタメータ



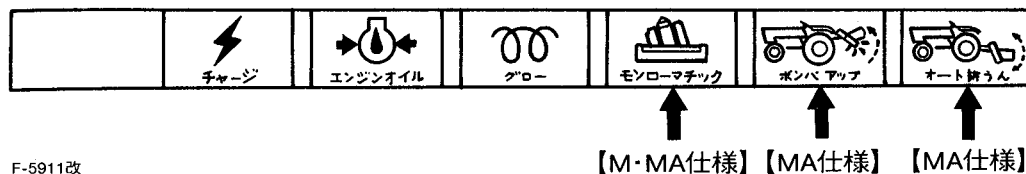
◆積算時間計

積算時間計は5桁になっており、初めの4桁は時間、最後の1桁は $\frac{1}{10}$ 時間(6倍すると「分」単位)を示します。

4 イージーチェッカ

注意

●日常点検はイージーチェッカのみで済ませないで作業点検に準じた確実な点検を行なってください。



バッテリーチャージ警告灯

エンジン回転中、充電系統が異常のとき点灯して警告します。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し、始動すると消灯します。



エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、エンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。



グローランプ

メインスイッチを「予熱」にすると約5秒間点灯し、始動可能になります。寒冷時には始動を容易にするため消灯後5秒程度「予熱」位置を保持してください。

◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転速度を示します。

◆燃料計

メインスイッチ「ON」「OFF」に関係なく、燃料の残量を示します。

◆水温計

メインスイッチが「ON」のとき、冷却水の温度を示します。「C」は低温、「H」は高温です。

指針が「H」(レッドゾーン)を示すときは、オーバーヒート状態ですから20ページ「◆オーバーヒートしたときの処置」をご参照のうえ点検してください。



モンローマチック表示灯【M・MA仕様】

メインスイッチが「ON」で、モンローマチックが作動状態のとき、点灯します。
モンローマチック切換スイッチが「切」のときは消灯します。



ポンパアップ表示灯【MA仕様】

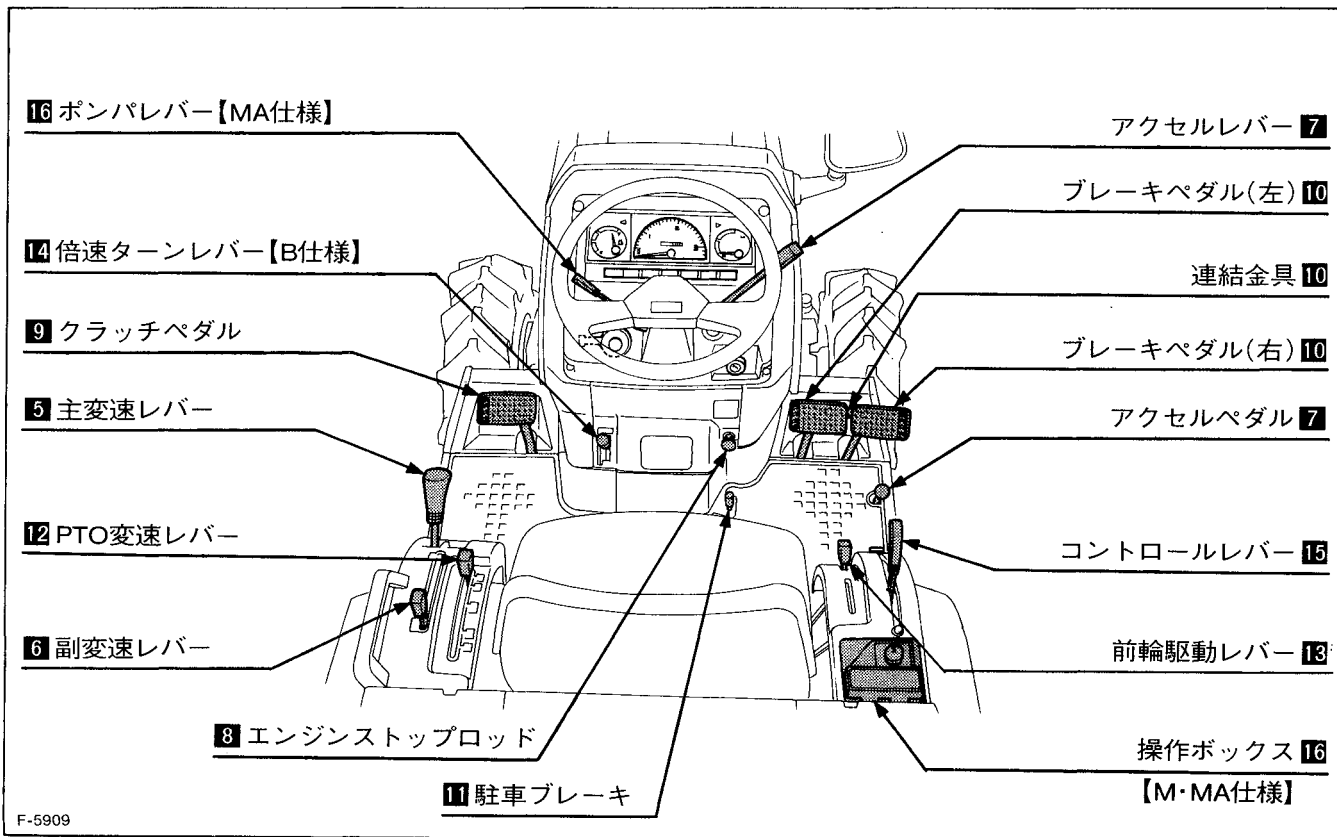
メインスイッチが「ON」で、ポンパレバーが「上」位置のとき、点灯します。
ポンパレバーを「下」位置にすると消灯します。



オート耕うん表示灯【MA仕様】

メインスイッチが「ON」で、オート機能が作動状態のとき、点灯します。
オート切換えスイッチが「切」又は「入」でもオート耕深調節スイッチが「尾輪」のときは消灯します。

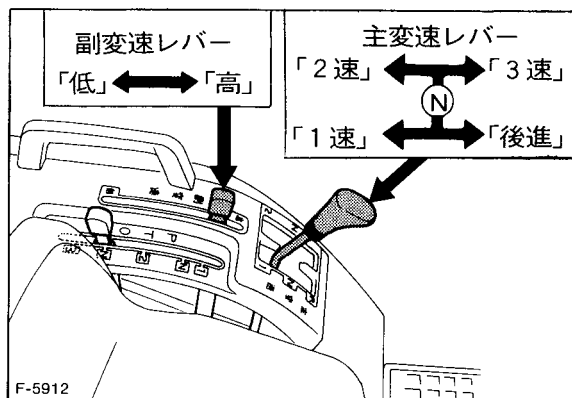
運転装置の取扱い



5 主変速レバー

6 副変速レバー

2本のレバー操作を組合せることにより、前進6段・後進2段の車速が得られます。

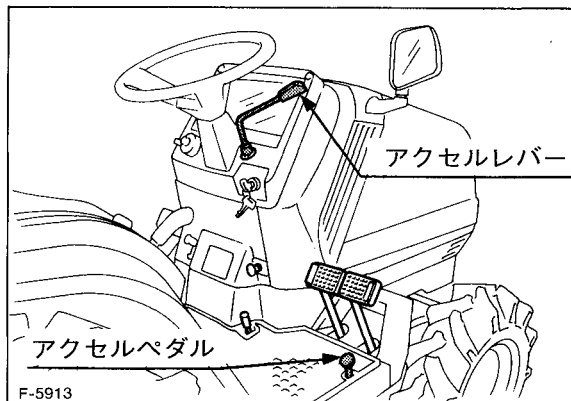


注意

- 操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行ってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

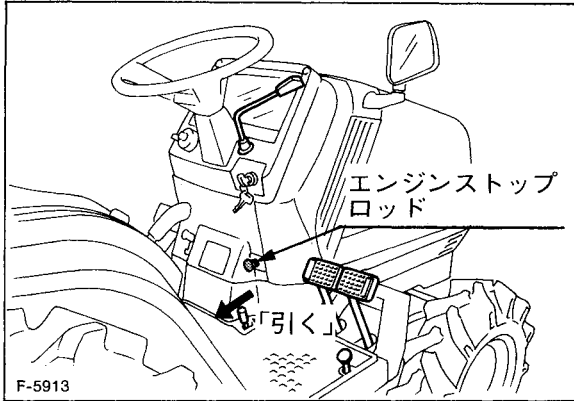
7 アクセルレバーとアクセルペダル

アクセルレバー……主に農作業時に使用します。
 アクセルペダル……主に道路走行時に使用します。
 アクセルペダルは、アクセルレバーと連動しており、ペダルを踏込む……エンジン回転が上がります。
 ペダルから足を離す…アクセルレバーのセット位置まで戻ります。



8 エンジンストップロッド

- (1) エンジンストップロッドをいっぱい「引く」とエンジンが「停止」します。
- (2) エンジンの始動は、ストップロッドを押込んで行なってください。引っ張ったままでは始動しません。又、途中のままではエンジン出力が出ません。



9 クラッチペダル

- ペダルを踏込む……………クラッチが切れます。
- ペダルから足を離す……………クラッチがつながります。

10 ブレーキペダル

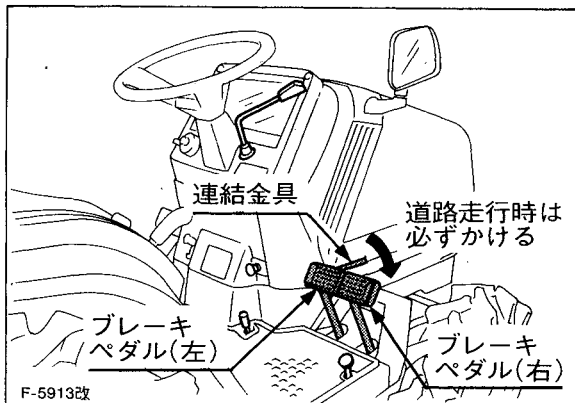
ブレーキは、一般の自動車などと異なり、左右それぞれ独立しており、後輪の片方だけブレーキをかけることができます。

連結金具をかけた状態

(左右同時にブレーキがかかる)……………道路走行時。

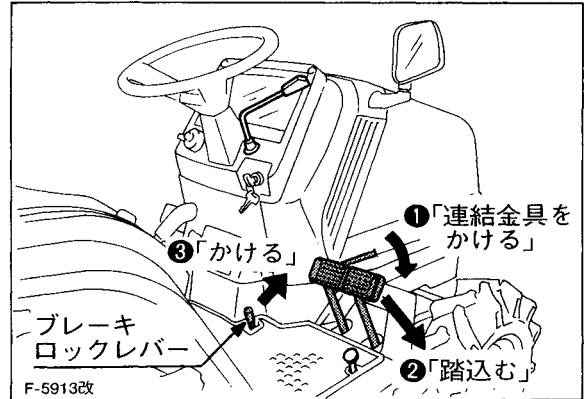
連結金具を外した状態

(左右片輪ずつブレーキがかかる)……………農作業時。



11 駐車ブレーキ

- ブレーキペダルを左右連結して踏込み、ブレーキロックレバーを「上げる」と爪がみぞにかみ合い、ブレーキがかかります。
- 外すときは、ペダルを踏込めば外れます。

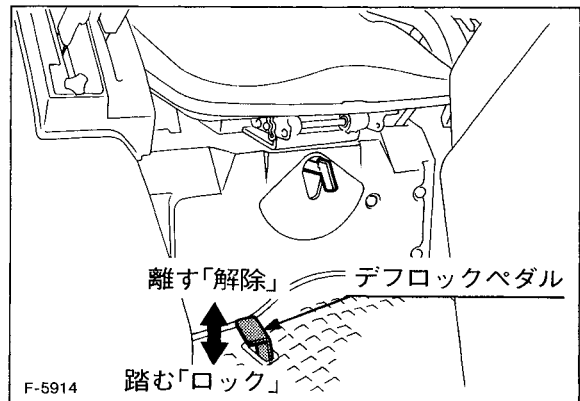


■ デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置で、片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏込めばスリップが防止できます。

ペダルを踏込む……………ロックされます。

ペダルから足を離す……………自動的にロックが外れます。

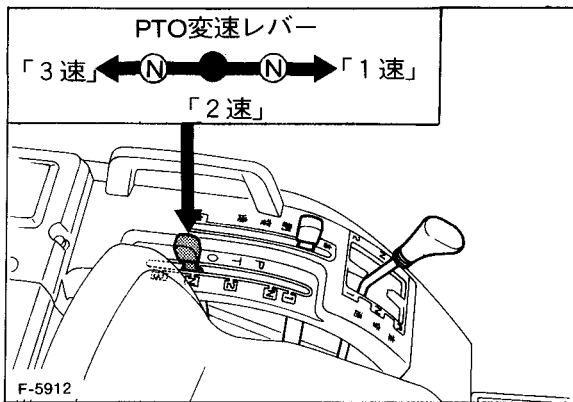


注意

- (1) デフロック使用後ペダルが確実に戻っているか確認してください。
- (2) 高速での使用はしないでください。

12 PTO変速レバー

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は、レバー操作により3段階に変速できます。

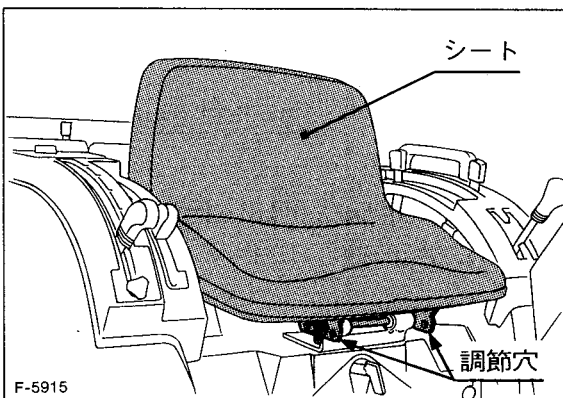


安全ポイント

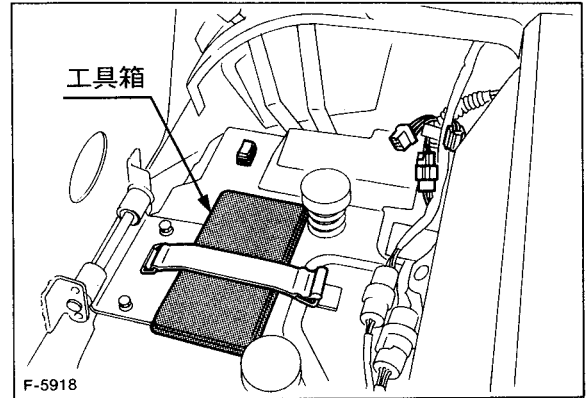
- 作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用するべき作業機を、高速回転で使用すると非常に危険です。

■シート

- (1) シート下のピン穴を移動すると、前後3段階に調節できます。
- (2) 雨のときは、シートを前に倒しておくと座席がぬれません。



■工具箱



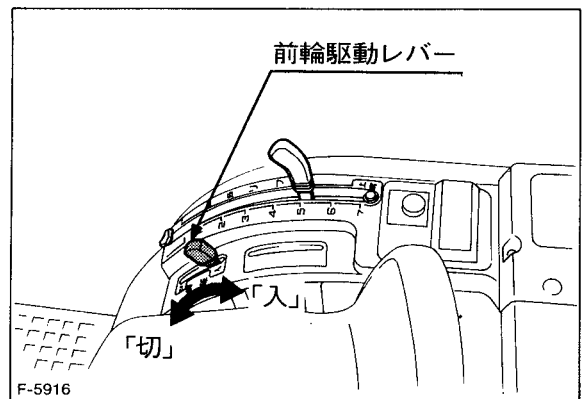
前輪駆動レバー・倍速ターンレバーの取扱い

13 前輪駆動レバー

前輪駆動を断続するレバーで、クラッチペダルを踏み込み、

レバーを「入」にする……四輪駆動になります。

レバーを「切」にする……二輪駆動になります。



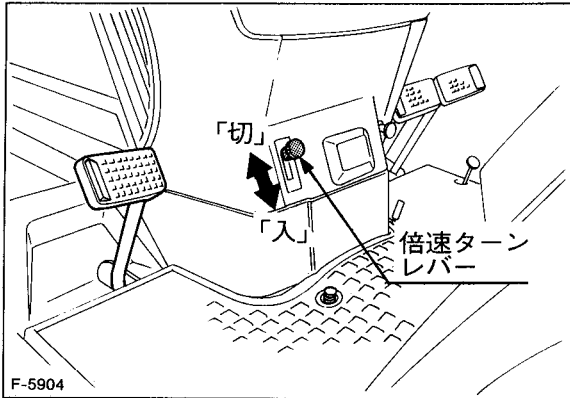
注意

- 前輪駆動レバーは、「入」か「切」の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

14倍速ターンレバー【B仕様】

倍速ターンを断続するレバーで、必ず前輪駆動レバーを「入」にしてから操作してください。

レバーを「入」にする……倍速ターンが入ります。
レバーを「切」にする……倍速ターンが切れます。



注意

- (1)倍速ターンレバー「入」・「切」は、前輪タイヤが直進の状態から、左右各30°の間で行なってください。
- (2)倍速ターンの高速けん制……倍速ターンレバー「入」の状態ですら副変速レバーを「高」にすると、倍速ターンは自動的に「切」となり、副変速レバーを「低」に戻すと倍速ターンは「入」に復帰します。この使用法はほ場内だけにし、道路走行では倍速ターンレバーを「切」にしてください。(21ページ参照)

作業機昇降装置の取扱い

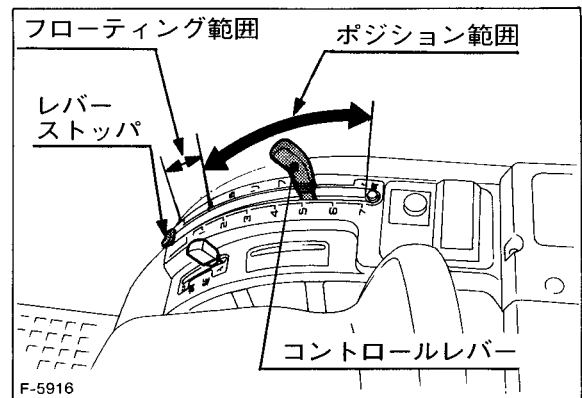
油圧装置は、エンジン回転中クラッチの断続に関係なく作動します。

15コントロールレバー

コントロールレバーは、油圧によって作業機を上下させる装置です。

レバーを後方に引く……作業機が上昇します。
レバーを前方に倒す……作業機が下降します。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポ範 ジ シ ヨ ン 罫	下げ方向に移動させる	下げる	この範囲では、作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フ範 ロ ー テ ィ ン グ 罫	下げ位置	下がる	この範囲では、作業機は止まらずにっぱいまで下がります。MA仕様ではオート耕うん作業ができます。



◆コントロールレバー【MA仕様】

安全のため、次の取扱い特性があります。

- (1)エンジン始動後、コントロールレバーを元の位置（エンジン停止時の位置）又はそれ以上に上昇側へ操作しないと作業機は昇降しません。
- (2)エンジン停止後、メインスイッチを「ON」にしてコントロールレバーを下げると、作業機は下降します。

◆レバーストップの使い方

- ①コントロールレバーで、希望する作業位置を決めます。
- ②その位置にレバーストップを固定します。
- ③その後は、コントロールレバーをレバーストップに当るまで動かすことにより、同一の作業位置が得られます。

注意

- レバーガイド上昇側の端部にある固定ストップは動かさないでください。動かすとコントロールレバーによる正常な昇降ができなくなります。

16ポンパレバー【MA仕様】

作業機を自由に上下させる装置で、ほ場内での旋回操作が便利になります。

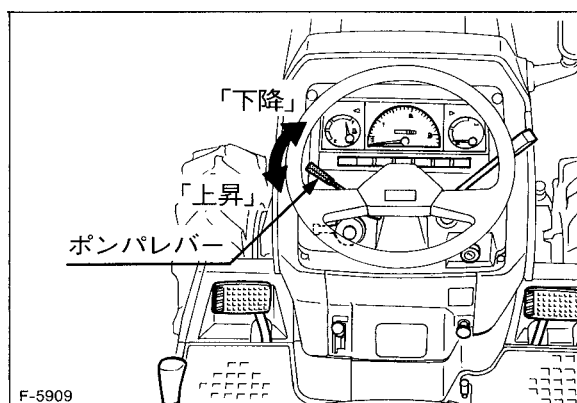
ポンパレバーを後ろへ引く…作業機が上昇します。

(ランプ点灯)

ポンパレバーを前へ押す……作業機が下降します。

(ランプ消灯)

ポンパレバーを前へ押したときの下降位置はコントロールレバーで設定した位置になります。



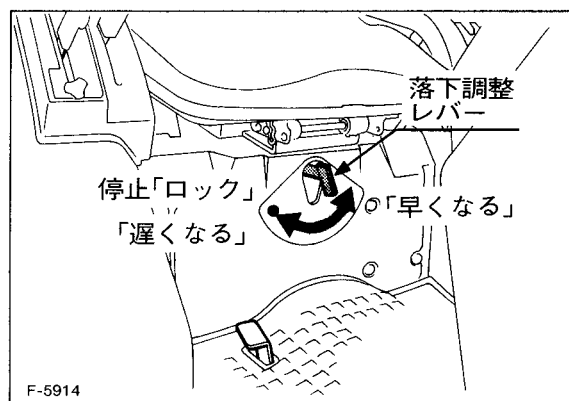
注意

- 危険防止のため、ポンパレバーの使用は、ほ場内作業のみにしてください。ほ場外(移動など)では必ずポンパを下降位置にし、コントロールレバーで作業機の上昇、下降を行なってください。また、移動に際しては、コントロールレバーが上昇位置にあることを、確認してください。

■作業機落下速度の調整

落下調整レバーを回すことにより調整できます。

落下調整レバー	落下速度
右に回す(閉)	遅くなる
左に回す(開)	早くなる
右にいっぱい回す	ロックされる



ロータリの落下速度は、上昇位置から接地するまで2～3秒が適当です。

特にオート耕うん時、落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

注意

- レバーは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

安全ポイント

- ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず落下調整レバーで、作業機が落下しないようにロックしてください。落下調整レバーでロックした後、コントロールレバーを「下がる」の方向に動かして、作業機が落下しないことを必ず確認してください。

モンローマチック【M仕様】・モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは、マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。

正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

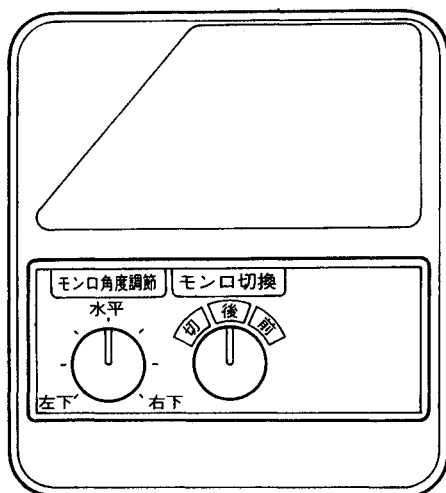
16 スイッチの取扱い

スイッチは、メインスイッチが「ON」でないとモンローマチックは作動しません。

注意

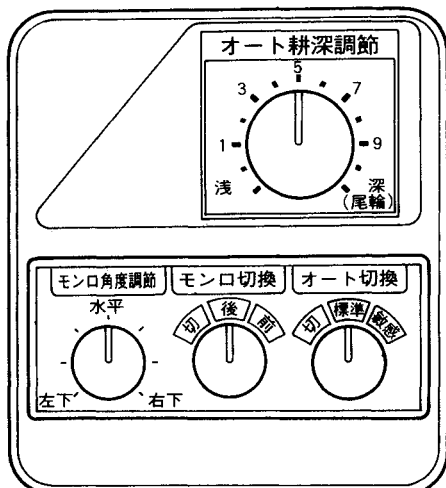
- スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

【M仕様】



F-5917改

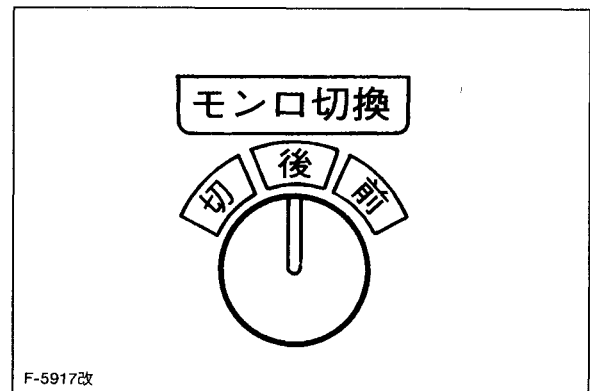
【MA仕様】



F-5917

◆モンローマチック切換えスイッチ

モンローマチックの「入」、「切」及びロアーリンク穴を選択するスイッチです。



「後」……モンローマチックが作動します。

ロアーリンクの後側の穴を使うときに選択します。(標準ロータリ使用時)

「前」……モンローマチックが作動します。

ロアーリンクの前側の穴を使うときに選択します。

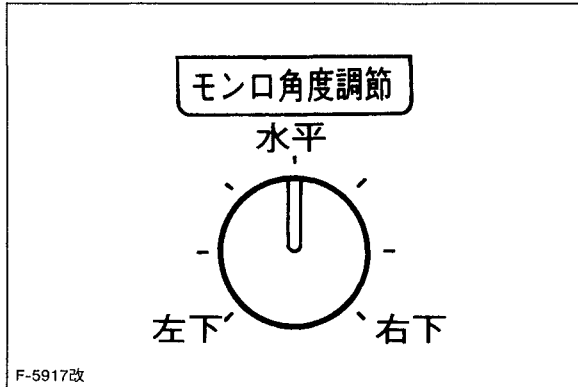
「切」……モンローマチックが解除され、座席下の手動スイッチにより作業機を傾けることができます。

安全ポイント

- 道路走行時は必ず「切」にして走行してください。
- また、落下調整レバーを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

◆モンローマチック角度調節スイッチ

モンローマチック切換スイッチが「後」又は「前」の場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。



- (1) スイッチを「水平」位置にすると、作業機は水平に保持されます。
- (2) スイッチを「左下り」方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
- (3) スイッチを「右下り」方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。

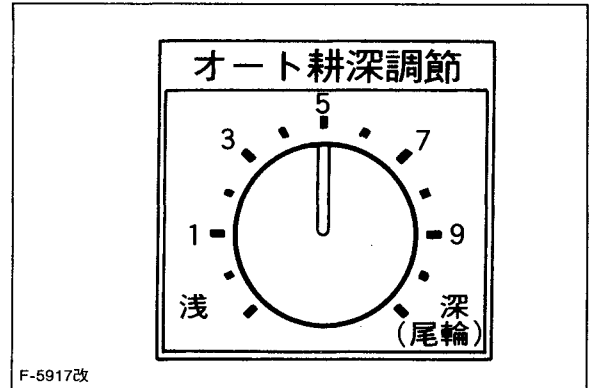
なお、作業機を上端付近まで上げたときは、作業機は車体と平行に保持されます。

●次のような作業に効果があります。

- (1) モンローマチック角度調節スイッチが「水平」の場合(トラクタ本体の傾きにかかわらず、作業機は水平になります。)
 - ① 水田でのあぜ際耕うん、枕地、凸凹地での均平耕うん。
 - ② 整地板、ドライブハローなどによる均平作業
 - ③ 畑での畝立て、畝崩し作業、その他
- (2) モンローマチック角度調節スイッチが「水平」以外の場合
 - ① 広幅畝立て
 - ② 傾斜地作業、その他

◆オート耕深調節スイッチ【MA仕様】

オート切換えスイッチが「標準」又は「敏感」の場合、ロータリの耕うん深さを調節するときに使用します。



- (1) スイッチを「浅」方向へ回すと、ロータリの耕深が浅く保持されます。
- (2) スイッチを「深」方向へ回すと、ロータリの耕深が深く保持されます。
- (3) スイッチを「尾輪」位置まで回すと、オートが作動しない状態になります。

●下表を参考にしてください。

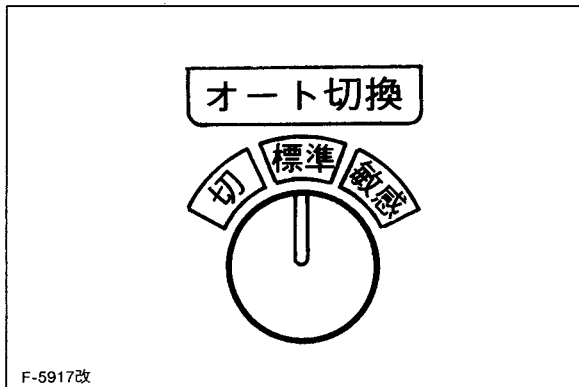
目盛り位置	作業内容
0～4	浅起し・代かき
3～7	一般耕うん
6～9	深起し

注意

- (1) 目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でもほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
- (2) オート耕うん時の深さ調節は必ずこの「オート耕深調節スイッチ」を使用してください。コントロールレバーによるオート耕うんの深さ調節はできません。

◆オート切換えスイッチ【MA仕様】

オートの「入」、「切」及びオート耕うんの感度を調整するスイッチです。



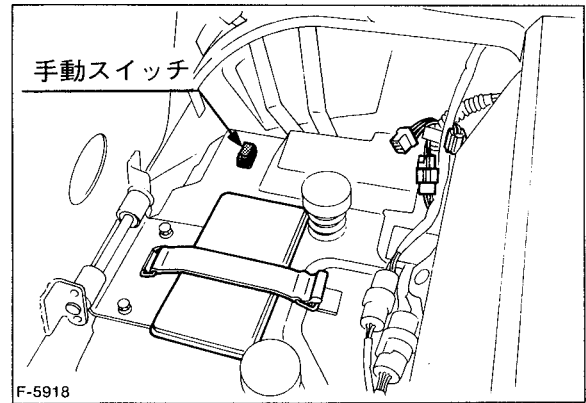
「標準」……標準的なほ場では大部分がこの位置で使用できます。

「敏感」……ほ場の硬軟あるいは凹凸の変化が激しく、エンジンに無理がかかるとき、この位置で使用します。代かき作業や強湿田耕起では、この感度が有効です。

「切」……オート耕うんは作動しません。

■手動スイッチ

モンローマチックシリンダの伸縮、又は緊急用としてコネクタを差換えることにより作業機の昇降ができます。



◆モンローマチック手動スイッチとして使用する場合

モンロー切換えスイッチが「切」のとき、手動スイッチにより作業機を任意の角度に保持できます。

◆作業機の昇降(緊急用)スイッチとして使用する場合【MA仕様】

コントロールレバーやポンパレバーで作業機の昇降ができないとき、緊急用として手動スイッチのコネクタ(青色)をワイヤハーネスの白色コネクタに接続してください。

使用後は、販売店の診断を受けてください。

安全ポイント

- コントロールボックスが故障し、緊急昇降スイッチとして使用したときは、作業終了後、速やかに修理して、緊急時以外は絶対に昇降スイッチとして使用しないようにしてください。通常はモンローマチック手動スイッチとして使用してください。

▶もし怠ると……

スイッチの誤操作によりロータリが落下し、傷害事故を引起すことがあります。

■モンローマチック・オートの適合作業

作業内容	作動する装置	
	モンローマチック	オート
ロータリ耕起, 整地作業など	○	○
ロータリ耕起, 培土, マルチなど	○	—
傾斜地の耕起など	—	○

- (1)尾輪を取付けてロータリ作業を行なうときは、オートを「切」にしてください。
(オート耕深調節を「尾輪」位置にする。)
- (2)畝立て作業や片培土作業などロータリリヤカバーを持上げて作業を行なうときは、オートを「切」にしてください。
(オート耕深調節を「尾輪」位置にする。)
- (3)モンローマチック・オートが不要な作業(フロントローダ作業など)では、モンロー、オートを「切」にしてください。
(モンローマチック切換えスイッチ, オート切換えスイッチを「切」にする。)
- (4)センサなど電子部品にはスチームクリーナなどでの直接洗浄は避けてください。

安全ポイント

- 道路走行時には必ずモンローマチック切換えスイッチを「切」にして走行してください。
又、落下調整レバーを回して作業機の落下を防止してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

■インプレメントの取扱い

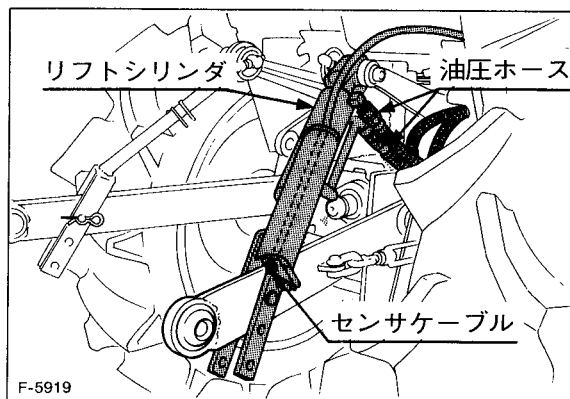
◆インプレメントの装着について

モンローが働き、リフトシリンダが伸縮するとトラクタと作業機が接触する場合がありますので、作業前に接触しないことを確認してから作業してください。

◆リフトシリンダを取外す場合

リフトシリンダを取外すときは、次の要領で行なってください。

- ①センサケーブルを、リフトシリンダ側で外します。
- ②油圧ホース2本をリフトシリンダ側で外し、先端どうしを接続してください。
- ③外したセンサケーブルと油圧ホースを、タイヤに巻込まないように固定してください。
- ④リフトシリンダを取外してください。



輪距の調整

安全ポイント

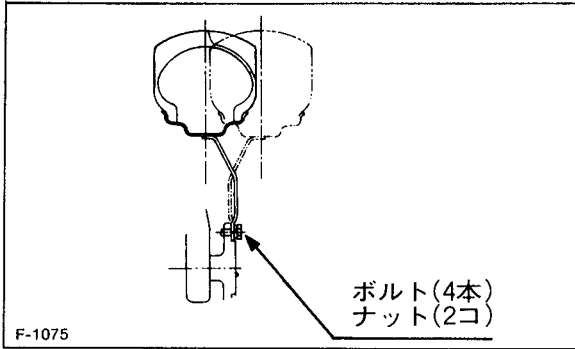
- けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。
最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。
▶輪距が狭いと……
転倒による傷害事故を起すことがあります。

■前輪

前輪輪距は変更できません。

■後輪調節のしかた

後輪輪距は2段階に調節できます。



◆後輪の交換

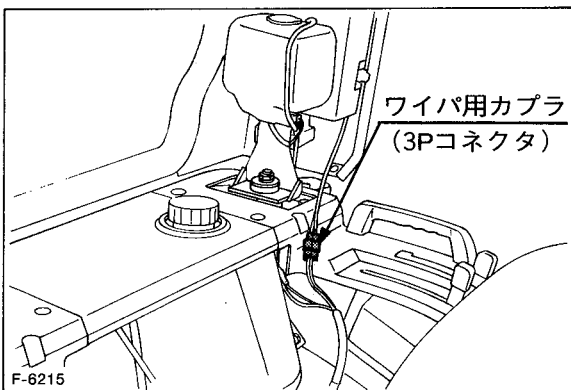
- ① ボルト・ナットをゆるめた後、ジャッキで左右の後輪を浮かします。
- ② ボルト・ナットをはずし、左右のタイヤを入換えます。
- ③ 交換後はボルト・ナットを確実に締付けてください。

注意

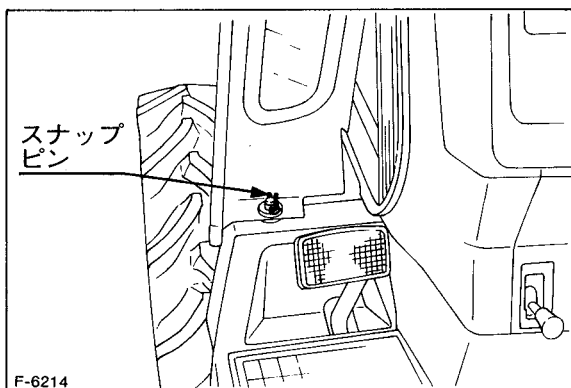
- (1) タイヤは側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
- (2) ストレークは、最小輪距のときだけ取付けられます。

レインガードキャビンの取付け, 取外し【W仕様】

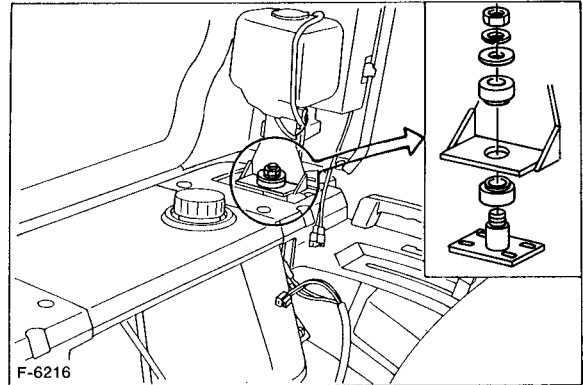
- ① ワイパ用カプラを外します。



- ② 左右のスナップピンを外します。



- ③ 左右のナット(M12)を外します。



- ④ キャビンを持上げて取外してください。
- ⑤ 取付けは取外し順序の逆に行なってください。

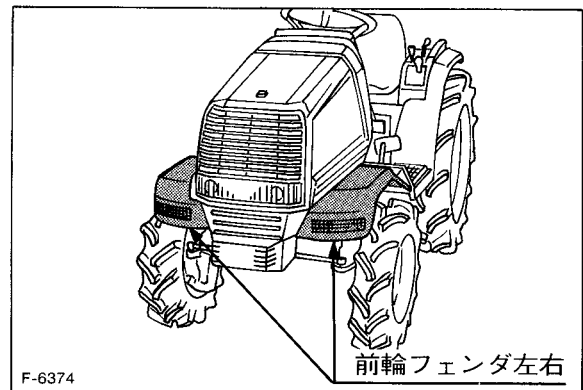
注意

- (1) トラクタから降りるときやはなれるときはエンジンを停止してください。(変速レバーなどにさわると発進して危険です。)
- (2) レインガードキャビンの汚れは水洗いしてください。(ワックス掛けには自動車用ワックスを使用しシンナーなど溶剤系の物は使用しないでください。)

前輪フェンダ【Z仕様】の取扱い

安全ポイント

- 前輪フェンダの上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
- ▶ フェンダの強度だけでするので損壊することがあり、危険です。



上手な運転のしかた

エンジンの始動と停止

安全ポイント

(1)必ず座席に座って始動してください。

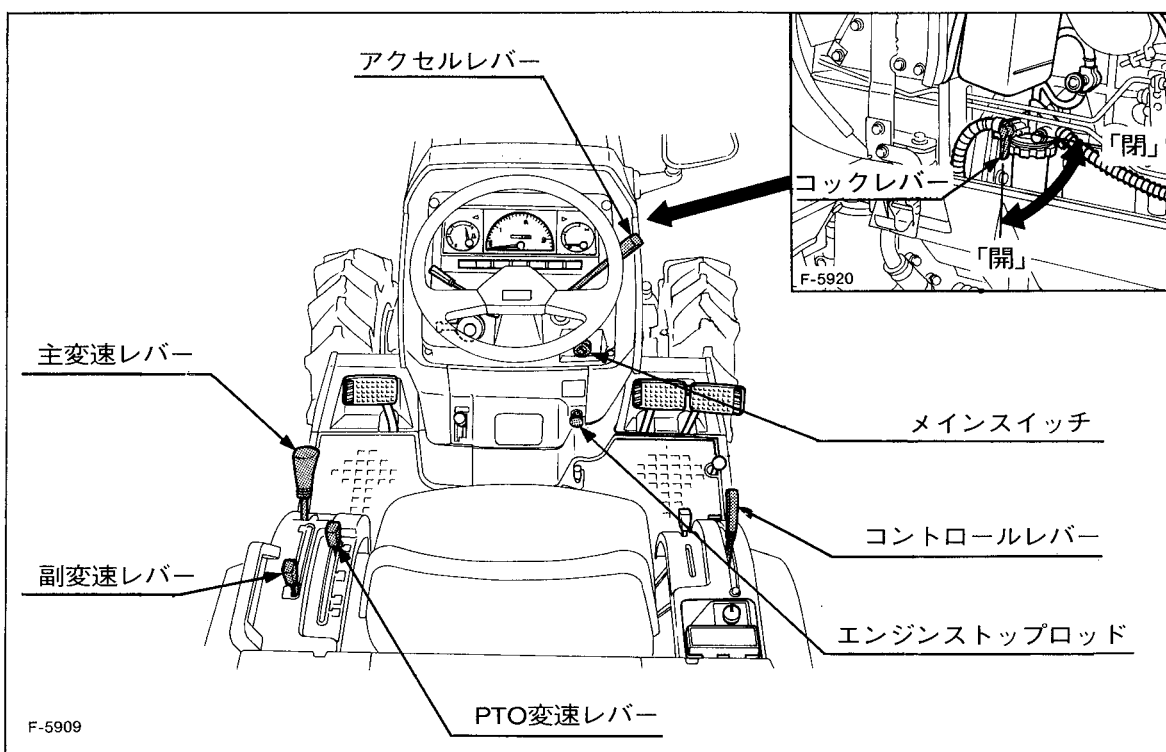
エンジンの始動と同時にトラクタが動きだし、また正常な運転ができなくて危険です。

(2)閉めきった室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気を十分に行なってください。

排気ガスは、人体に有害です。

▶換気が不十分であると……

排気ガス臭のため、気分が悪くなったり、目が痛くなったりすることがあります。



■始動のしかた

- ①燃料コックを「開」にします。
- ②エンジンストップロッドを押込みます。
- ③主変速レバー、副変速レバー及びPTO変速レバーを「中立」にします。
- ④コントロールレバーを「前方に倒し」作業機を下げます。
- ⑤アクセルレバーを「中程」まで引きます。

- ⑥メインスイッチにキーを差込み、「GL」(予熱)位置に回し、グローランプが消灯すれば予熱完了です。但し、外気温が -5°C 以下のときは、消灯後も約5秒間予熱してください。
 - エンジンが暖まっている場合「GL」(予熱)は、不要です。
- ⑦クラッチペダルを「踏込み」ます。
- ⑧キーを「ST」(始動)位置に回します。
- ⑨エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。自動的に「ON」にもどります。
- ⑩クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま5分程度暖機運転しましょう。

注意

- (1)クラッチペダルを踏込まないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
- (2)セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内に始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。
- (3)エンジン回転中は、キーを「ST」(始動)位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

■停止のしかた

- ①アクセルレバーをいっぱい前へ「押し」てアイドル状態にします。
- ②エンジンストップロッドをいっぱい引張ると、エンジンは停止します。

注意

- エンジンストップロッドは、エンジンが完全に停止した後、元の位置まで押戻しておいてください。エンジンストップロッドを引張った状態ではエンジンは始動しません。
- ③キーを「OFF」にし、必ずキーは「抜き」ましょう。

ならし運転と暖機運転

**■ならし運転について
(最初の約60時間)**

この期間中は、特に次のことを守ってください。

- (1)急なスタート、急ブレーキは避けてください。
- (2)フルスピードや無理な負荷をできるだけかけないようにしましょう。
- (3)作業は、エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
- (4)悪路や傾斜地では、速度を落としゆっくりと走行しましょう。

■暖機運転について

始動後、約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

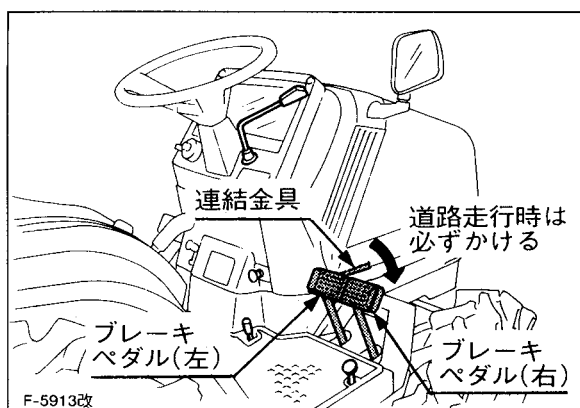
注意

- 暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけましょう。

走行運転のしかた

安全ポイント

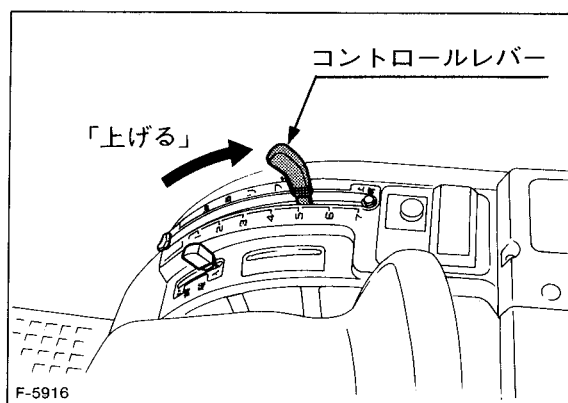
- (1)道路走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
 ▶連結しないで走行すると……
 ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。



- (2)道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。
 ▶解除しないと……
 傷害事故を引起すことがあります。
- (3)トラクタを動かす前には、前後左右に注意し、トラクタの近辺に人を近づけないようにしてください。
 ▶十分注意しないと……
 傷害事故を引起すことがあります。
- (4)道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。

■発進・走行のしかた

- ①左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。
- ②エンジン回転をアイドリングから「中速」回転にします。
- ③コントロールレバーを「後方に引き」作業機を上げます。



- ④クラッチペダルを「踏込み」、主変速レバー及び副変速レバーを希望する位置に「入れ」ます。

注意

- 走行中は変速することはできません。必ずクラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから、変速操作をしてください。
- ⑤駐車ブレーキを解除し、クラッチペダルをゆっくり離せば、トラクタが動き始めます。

注意

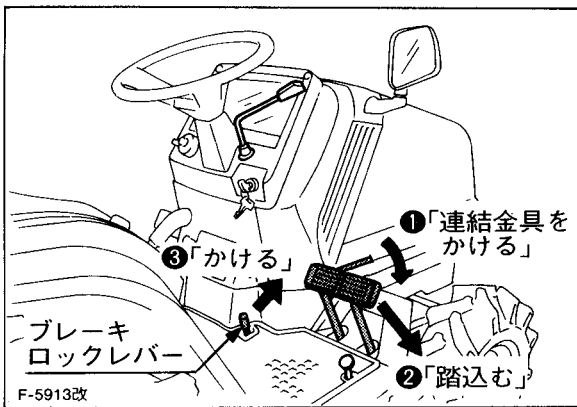
- (1)走行中は、クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
 足を乗せるとクラッチがすべっている状態になり摩耗が早くなります。
- (2)クラッチペダルの操作は、切るときは早く、つなぐときはゆっくり操作してください。
 半クラッチ操作は、クラッチの摩耗を早めますので、できるだけ避けてください。

■停車のしかた

安全ポイント

- (1)トラクタを坂道の途中で止めておく場合は、必ずタイヤに車止めをしておきましょう。
- (2)トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火する恐れがあります。
- (3)作業を終えてシートをトラクタにかけるときは、エンジンが十分冷えてからにしてください。

- ①アクセルレバーを前方に押し、エンジン回転をアイドル状態にします。
- ②クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
- ③トラクタが完全に停止してから、主変速レバーを「中立」にします。
- ④作業機を取付けている場合は、コントロールレバーをゆっくり「前方に倒し」作業機を下げます。
- ⑤駐車ブレーキを確実にかけてください。



■旋回のしかた

旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくり旋回してください。

■坂道での運転

- (1)坂道状況に応じた安全なスピードで、走行しましょう。
- (2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
- (3)下り坂ではエンジンプレーキを使いましょう。エンジンプレーキは車速を下げるほどよくききます。

安全ポイント

- (1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
- (2)坂道では主変速を中立にしたり、クラッチを切ったりしないようにしましょう。
- (3)下り坂では、エンジンプレーキを使用し、クラッチペダルは踏込まないようにしましょう。

▶これらを守らないと……

傷害事故を引起すことがあります。

■公道走行中の注意

- (1)公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
- (2)夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ライティングスイッチを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意しましょう。
- (3)左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。
- (4)ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると、「道路運送車両法」に違反することもあるので注意しましょう。
- (5)踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。

注意

- 作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯火の色等の制限)において、「走行中に使用しない灯火」とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。

安全ポイント

- (1) ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
- (2) 道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転を心がけましょう。
 - ▶ 法規を守らないと……
交通事故を引起すことがあります。
- (3) 運転者のほかは乗せないようにしましょう。
 - ▶ 運転者以外の人を乗せると……
傷害事故を引起すことがあります。
- (4) 道路ぎわに溝や傾斜のある農道を走行するときは、特に路肩に注意しましょう。
 - ▶ 十分注意しないと……
転落による傷害事故を引起すことがあります。
- (5) ロータリなど作業機を装着して道路走行すると、トラクタの前部が軽くなって、ハンドルの切れが悪くなり危険です。

■トラックへの積み・降ろし

トラックへの積み込みは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」しバックで行なってください。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

■ほ場への出入り時の注意

- (1) 左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。
- (2) ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
- (3) ほ場への出入りは、あぜと直角に行なってください。
- (4) 登り始めは、作業機を下げに進むと、前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
- (5) 4WDは、あぜなどバックで上がると格段に能力が増します。

安全ポイント

- 傾斜地で作業する場合は転倒しやすくなりますので、前後左右のバランスに注意して作業してください。

■運転中の作動点検

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかを、絶えず注意してください。

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒート(水温計の針が「H」にあるとき)したときは、

- ①作業を中止し、
- ②エンジンを約5分間アイドリング回転してから、
- ③エンジンを停止し、安全ポイントに注意して、次の点検・整備をしてください。

- (1)冷却水の量(不足)、及び水もれがないか。
- (2)防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に、泥やゴミが付着していないか。
- (3)ファンベルトのゆるみがないか。

安全ポイント

- ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、停止後10分以上たって冷えてからにしてください。

▶すぐ開けると……

熱湯によりヤケドすることがあります。

◆次の場合には、直ちにエンジンを止めてください。

- (1)回転が急に下降したり上昇したりする。
- (2)突然、異常な音をたてた。
- (3)排気色が急に黒くなった。
- (4)運転中、オイルランプが点灯した。

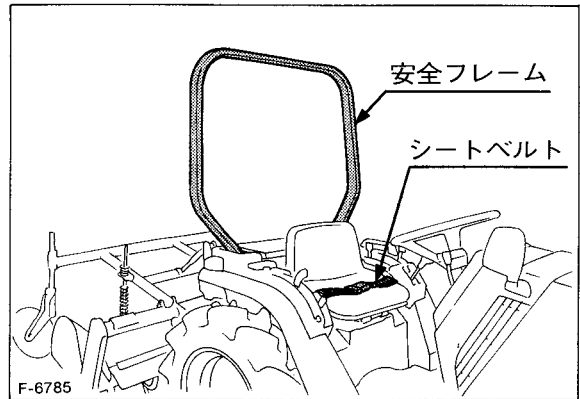
- 点検整備は、販売店又は農協にご相談のうえ、その指示にしたがってください。

安全フレームとシートベルトについて【Y仕様】

Y仕様は安全フレームを標準装備しております。

安全フレームは、万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって、すべての傷害を防げるものではありません。

運転中は、安全フレームと合せ、必ずシートベルトを着用し、常に安全運転を心がけてください。



安全ポイント

- トラクタを使用するときは、安全フレームを外して運転しないでください。また、運転中は必ずシートベルトを着用してください。

▶シートベルトを着用しないと……

転倒したときに重大事故を起こすことがあります。

上手な装置の使い方

■前輪駆動の使い方

前輪駆動は、次のような場合に特に効果があります。

- (1) 傾斜地、湿田、トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
- (2) 砂地で作業をする場合。
- (3) 固い農場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

■倍速ターンの使い方【B仕様】

倍速ターンは、畑、水田などのロータリ耕作に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してお使いください。

注意

- ローダ、トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業やプラウなど速度の速い作業には、使用しないでください。

安全ポイント

- (1) 倍速ターンに入れたままでは場外を走行すると危険です。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを「切」にしてください。
- (2) ほ場内であっても区画整理されていない変形ほ場では、必ず倍速ターンを「切」にしてください。
 - ▶ 倍速ターンのまま走行すると……
傷害事故を引起すことがあります。

■デフロックの使い方

デフロックは、次のような場合には非常に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してお使いください。

- (1) 農場への出入りやフロントローダ作業時などで、片車輪がスリップして直進できないとき。
- (2) 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行できなくなったとき。
- (3) プラウ作業など大きいけん引力を必要とする作業で、車輪がスリップしたとき。

注意

- (1) デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてください。
- (2) 抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- (3) デフロックを使用しないときは、足をペダルにのせないでください。

安全ポイント

- デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず解除してください。
 - ▶ 入れたまま旋回すると……
傷害事故を引起すことがあります。

■けん引ヒッチ(別途購入品)

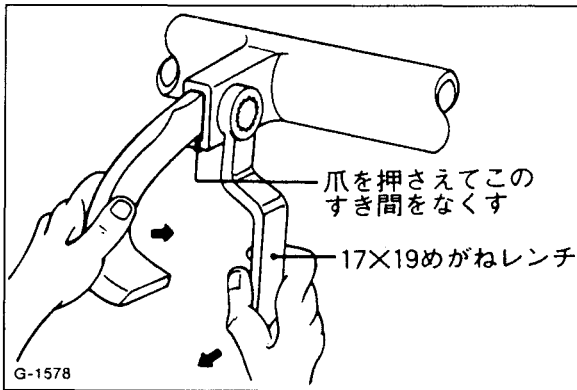
けん引ヒッチを装着するときは、トラクタ側に採用しているヒッチ支点ピンを使用してください。

安全ポイント

- (1) けん引作業をする場合は、必ずけん引ヒッチを使用し、トップリンク取付け台でけん引しないでください。
 - ▶ けん引ヒッチを使わないと……
転倒による傷害事故を引起す恐れがあります。
- (2) 3点リンクに取付け、PTO軸からユニバーサルジョイントで駆動するインプルメント(ロータリ、ブロードキャストなど)を使用するときは、けん引ヒッチを外してください。
 - ▶ けん引ヒッチを付けたまま作業すると……
ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し、災害を起す危険があります。

ロータリ装置について

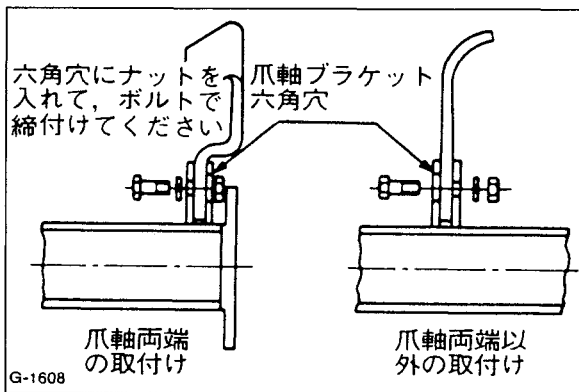
耕うん爪の取付け方



注意

- めがねレンチで、力いっぱい締付けてください。

■サイドドライブ仕様



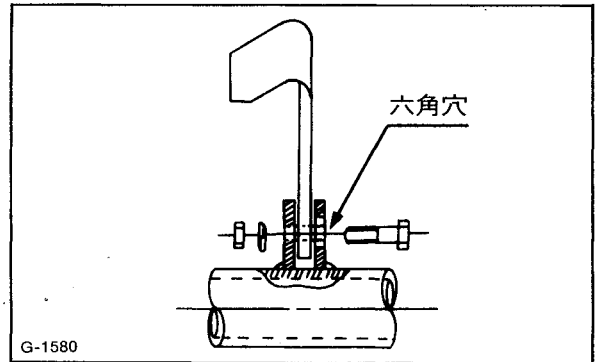
[サイドドライブロータリ]

爪軸両端 (白ペンキを塗ったブラケット)	爪軸両端以外
322号爪	321号爪

■センタドライブ仕様

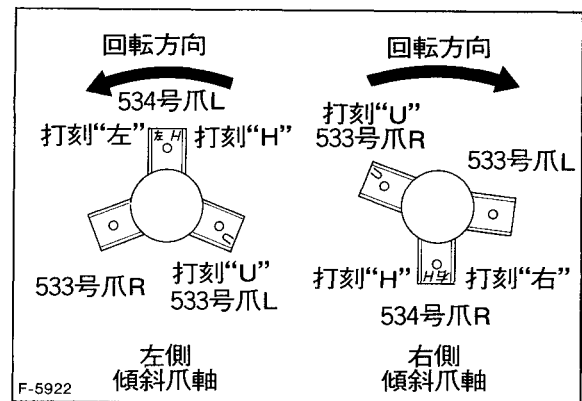
◆爪軸

- (1)321号爪を取付けます。
- (2)ブラケットの六角穴と逆方向に、曲がりがるようにして取付けてください。
- (3)ボルトは六角穴側より入れ、反対側よりバネ座金を入れ、ナットで締付けてください。



◆傾斜爪軸

- (1)“H”の刻印のあるブラケットには、534号爪を内向きに取付けてください。
- (2)“U”の刻印のあるブラケットには、533号爪を下図のように取付けてください。



- (3)残りのブラケットには、533号爪を上図のように取付けてください。

▶安全ポイント

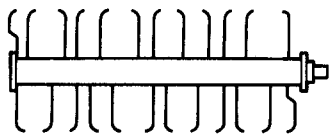
- 爪の交換及び増締めするときは、
 - ①トラクタを平たんな広い場所に置く。
 - ②エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
 - ③落下調整レバーを、右いっぱいに戻し、ロータリの落下を防止する。
 - ④爪軸の下に木の台などをし、より安全性を確保してから行なってください。
 ▶もし怠ると……
 傷害事故を引起すことがあります。

注意

- (1)爪を抜いて作業すると、爪のバランスが狂い、振動や騒音がでることがありますので、ご注意ください。
- (2)耕うん爪は、クボタ純正部品を使用してください。

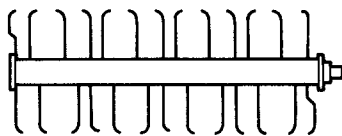
均平耕法の配列

◆RSP10



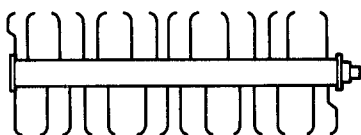
F-5974

◆RSP11



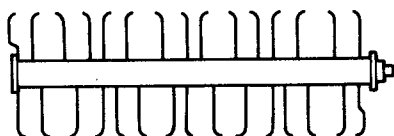
F-5975

◆RSP12



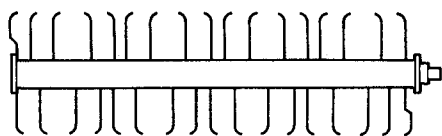
F-5976

◆RSP13



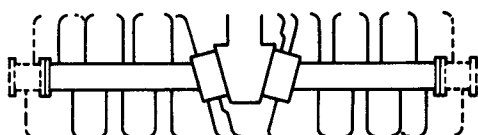
F-5977

◆RSP15



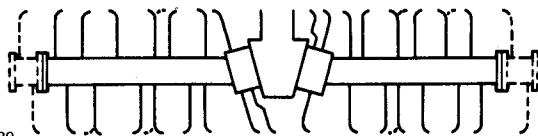
F-5978

◆RKP10

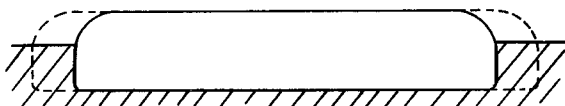


F-5979

◆RKP12



F-5980



G-1583

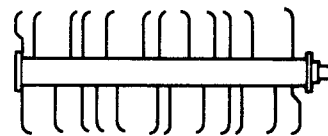
(点線は延長爪軸付きの場合を示す。)

1つ盛り耕法の配列

爪軸中央を基準とし他の爪はすべて内向きになるように取付けてください。

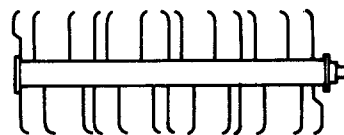
このとき、ロータリカバーを上げて、カバーが耕うんした土壌に当たらないようにします。

◆RSP10



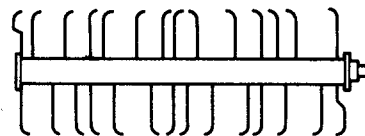
F-5981

◆RSP11



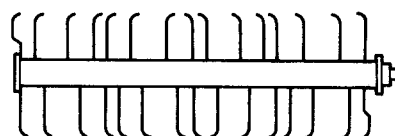
F-5982

◆RSP12



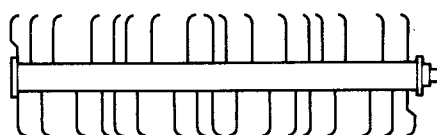
F-5998

◆RSP13



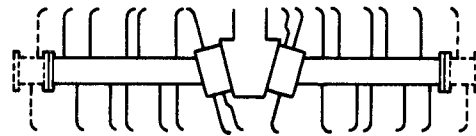
F-5999

◆RSP15



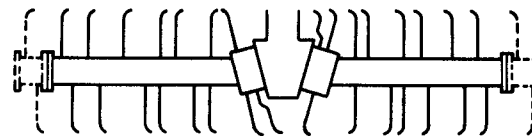
F-6000

◆RKP10

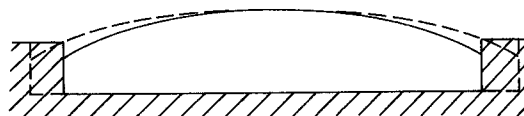


F-6001

◆RKP12



F-6002



G-1586

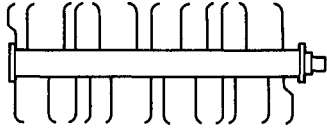
■ 2つ盛り耕法の配列

〔畝立て作業(1連畝立て)の配列〕

爪の配列は下図のように取付けてください。

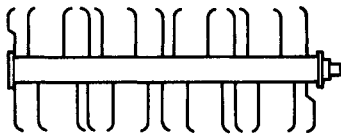
このとき、ロータリカバーを上げて、カバーが耕うんした土壤に当たらないようにします。

◆RSP10



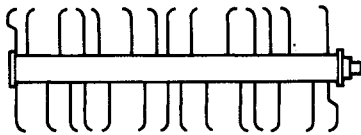
F-6003

◆RSP11



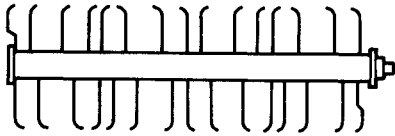
F-6004

◆RSP12



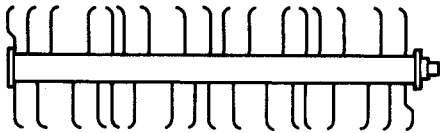
F-6005

◆RSP13



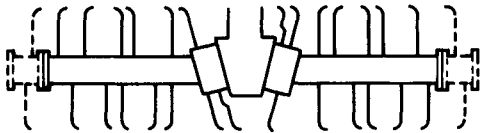
F-6006

◆RSP15



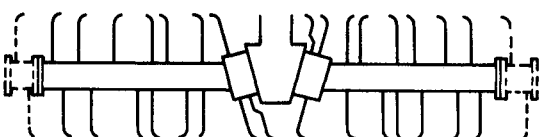
F-6007

◆RKP10

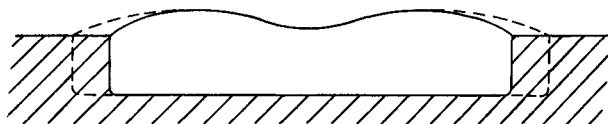


F-6008

◆RKP12



F-6009



G-1589

ロータリの調整

■適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合わせて、車速を決めてください。

右表は、作業のめやすとして参照してください。

変速レバー位置と作業			
PTO 車速	1 段	2 段	3 段
1 速	水田 畑作 (荒起し 畝立て)	水田畑作 (細土耕うん 一般耕うん 畝立 て)	
2 速			
3 速			
4 速	代かき作業		

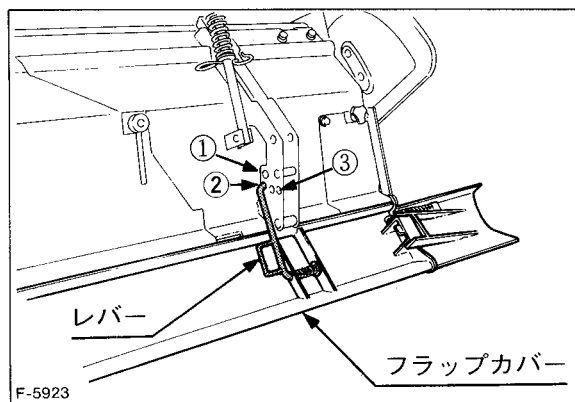
■ロータリカバーの調整

◆フラップカバーの使用法

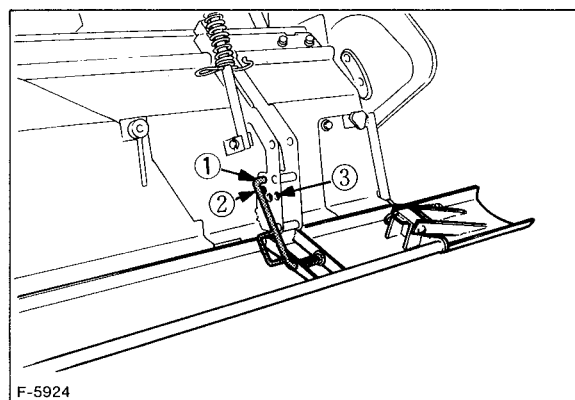
作業により、下図を目安に使い分けてください。

特にオート作业时、進行方向に凹凸ができる場合は、①穴(一番上げた位置)で使用してください。

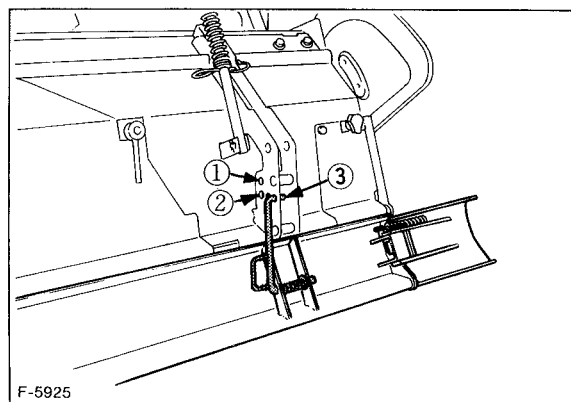
一般耕うん作業 —— ②位置(中間位置)



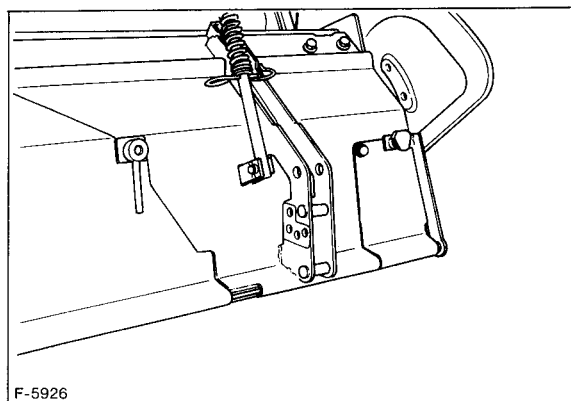
深起し・細土耕うん作業 —— ①位置(一番上げる)



浅起し・荒起し作業 —— ③位置(一番下げる)

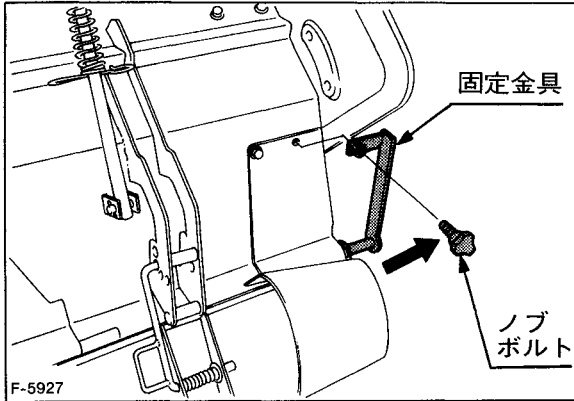


深起し・荒起し作業 —— オート作业时は、カバーを取りはずさないでください。

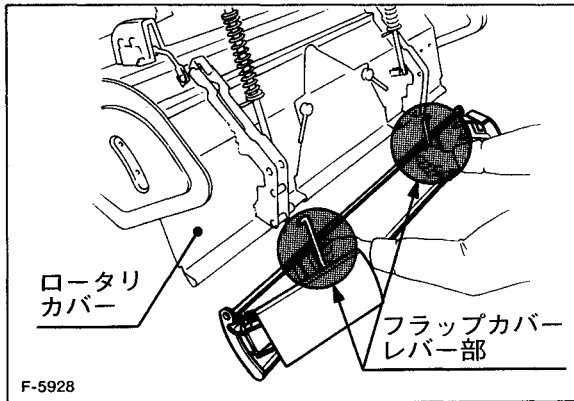


◆フラップカバーの取外し方

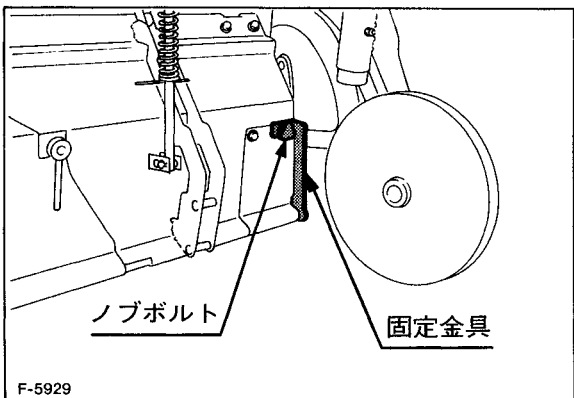
- ① ノブボルトを外します。(左右2カ所)
- ② 固定金具を➡の方向に抜きます。



- ③ レバーをロータリの中心方向に引張って穴から外します。
- ④ フラップカバーのレバー部を持上げて、ロータリカバーから取外します。

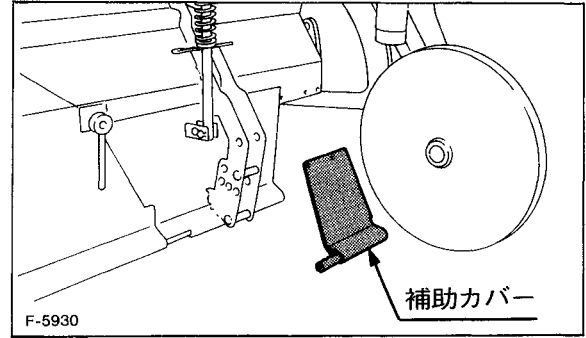


- ⑤ 固定金具を元の位置に差込み、ノブボルトで固定します。



◆補助カバーL・Rの取外し

後2輪併用で枕地を少なくする、又は片培土作業をするため、補助カバーを取外す場合は、ノブボルトと固定金具及びボルトを取外し、補助カバーを外してください。



注意

- 補助カバーを取外した後、ノブボルトと固定金具及びボルトは紛失しないように保管しておいてください。

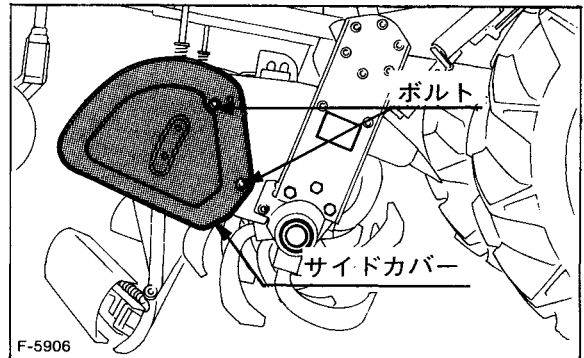
◆ロータリカバーを持上げて使用する場合【MA仕様】

荒起し・極浅起し・特殊培土作業等で、カバーを持上げて使用する場合は、オート機能が發揮出来ませんので、後2輪を使用してください。

◆サイドカバーの調整

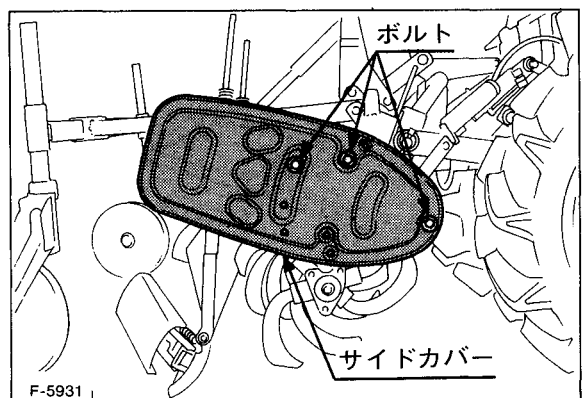
【サイドドライブ仕様】

荒起し耕うんを行なう場合は、左右のサイドカバーを上を上げて使用してください。
細土耕うんを行なう場合は、左右のサイドカバーを下に下げて使用してください。



【センタドライブ仕様】

石の多いほ場・草地で作業を行なう場合は、左右のサイドカバーを上を上げて使用してください。



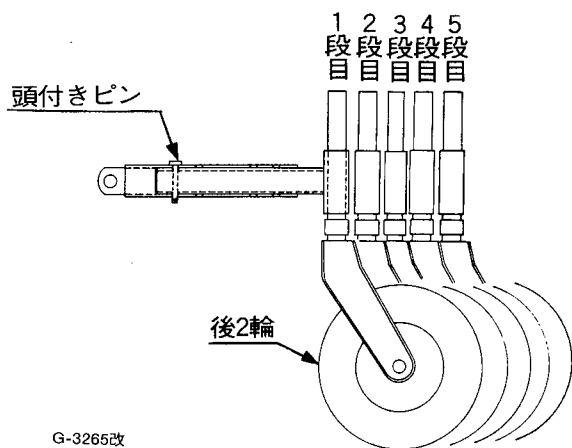
◆後2輪の調整

後2輪は前後方向に5段階、上下方向に5段階の調整ができますので、作業に合わせて調整してください。

◆後2輪ホルダの前後調整

作業により次のように調整してください。

後2輪無	培土作業	Vカット無カバー	1段目
		Vカット付カバー	1段目
後2輪使用	一般耕うん作業 (12cm以下)	フラップカバー無し 補助カバー付	2・3段目
		フラップカバー付 補助カバー付	4・5段目
	フラップカバー付、補助カバー付	5段目	
	フラップカバー無し、補助カバー無し	1段目	



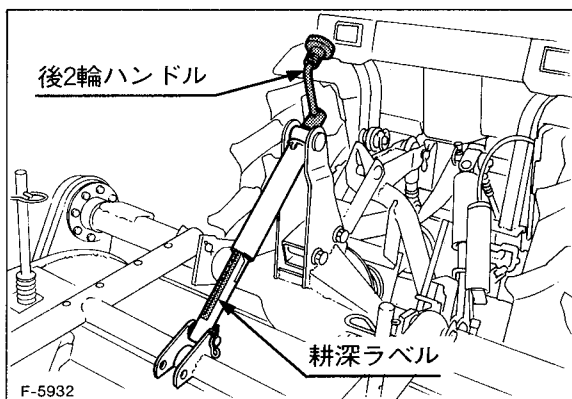
G-3265改

注意

●水田(湿田)で、トラクタの性能を十分発揮させるため、後2輪はロータリカバーに接触しない範囲で、接近させて使用してください。

◆後2輪ハンドルによる調整

後2輪ハンドルを回すことにより、耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として、耕深ラベルの目盛りをご使用ください。



F-5932

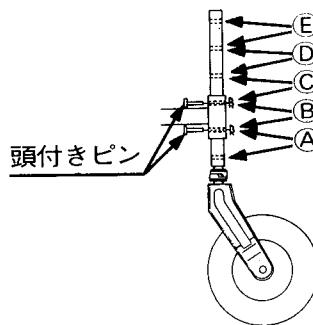
安全ポイント

- トラクタを前進させながらの耕深調整は、絶対にさけてください。
もし側方及び前方から調整する場合は、トラクタを止めてから行なってください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

◆後2輪の上下調整

(66ページ「作業ごとの一般的な調整要領」参照)

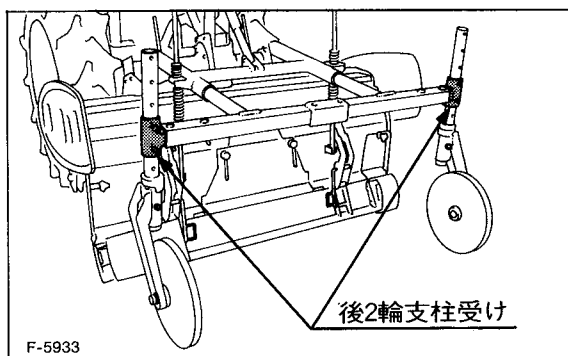
- (1)一般耕うんの場合
ピンを⑥の位置に、取付けてください。
- (2)代かき・湿田耕うんの場合
ピンを③～⑤の位置に、取付けてください。
- (3)ピンは必ず前方から挿入してください。カバーと接触して、スナップピンが抜ける恐れがあります。



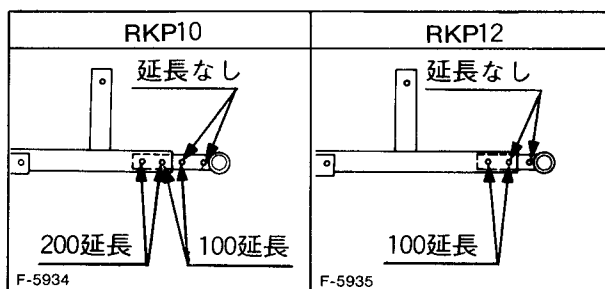
F-5972

◆後2輪幅の調整【センタドライブ仕様】

延長爪軸(片側100mmまたは200mm)を取付けたときは、それぞれ耕幅に合わせて、後2輪を外側に移動させてください。



F-5933



F-5934

F-5935

■ 畝立器の取付け

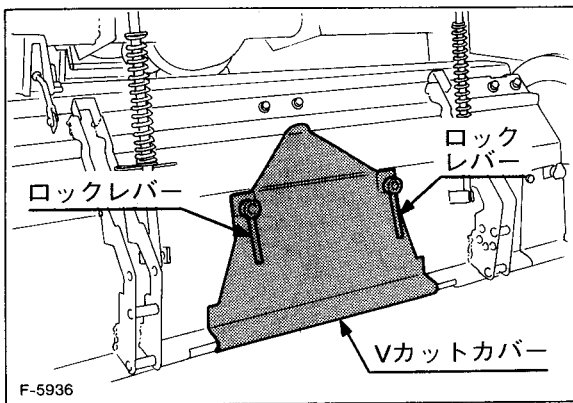
畝立器は、畝立て金具の穴に下から差込み、作業状態に応じて取付け高さを変え、ボルトで取付けてください。
(畝立器と畝立て金具は別途購入品)

◆ Vカットカバーの場合

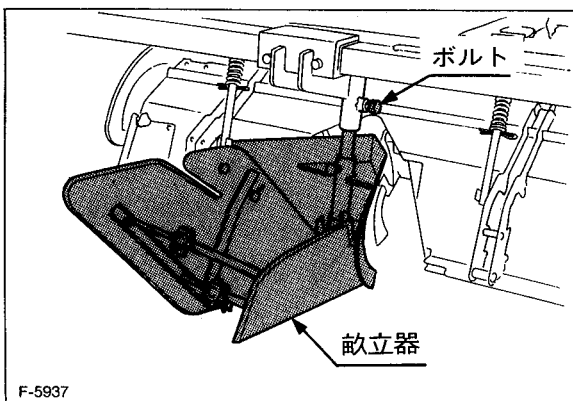
- ① 爪の配列は外向きにします。
- ② 後2輪は取外します。
- ③ 後2輪ホルダは、前後調整の1段目の位置にしてください。(27ページ参照)
- ④ フラップカバーを取外します。(26ページ参照)
- ⑤ ロックレバーをゆるめ、Vカットカバーを下方方向に動かして取外します。

注意

- Vカットカバーを取外した後、ロックレバーと座金は紛失しないように保管しておいてください。

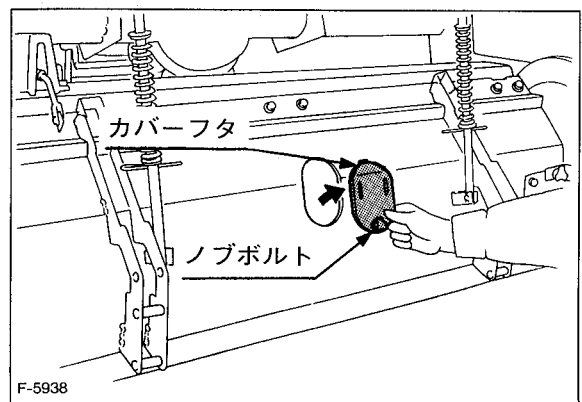


- ⑥ ロータリカバーのVカット形状に、畝立器を添わせて取付け、ボルトで締付けてください。
- ⑦ ロータリカバー押えバネを、フリーにするか又は少し縮めて、後部カバーを軽く地面に接触させてください。

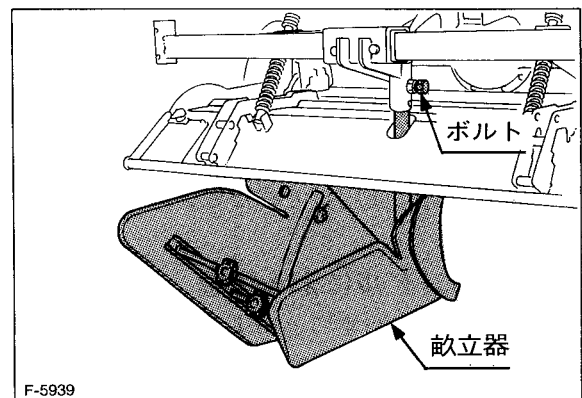


◆ 標準カバーの場合

- ① 爪の配列は外向きにします。
- ② 後2輪は取外します。
- ③ 後2輪ホルダは、前後調整の1段目(1番縮めた状態)にしてください。(27ページ参照)
- ④ フラップカバーを取外します。(26ページ参照)
- ⑤ ノブボルトをゆるめ、カバーフタを取外します。取外したカバーフタは、紛失しないように工具箱に入れておきます。

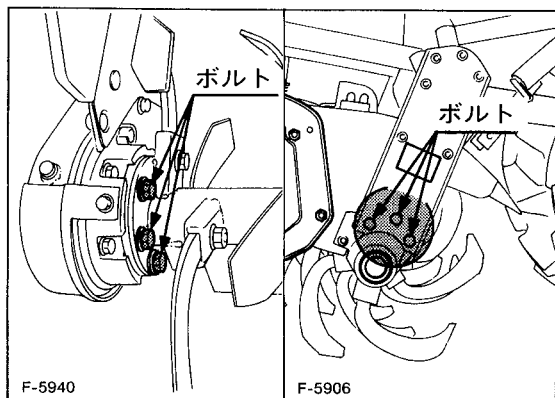


- ⑥ ロータリカバーを上げます。
- ⑦ ロータリカバーの下側から畝立器を取付け、ボルトで締付けてください。



■爪軸交換のしかた 【サイドドライブ仕様】

- (1)ロータリを持ち上げ、落下調整レバーを回して、油圧をロックします。
- (2)チェーンケース側爪軸取付けボルト(4本)、及びサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト(3本)をゆるめます。



- (3)落下調整レバーを少し左に回し、耕うん爪が水平地面上に付くまでゆっくりと降ろした後で、ボルトを外して、爪軸を交換します。
- (4)このとき、別売りの爪軸交換スタンドアッシ(品番98606-48430)を使用すると、より簡単です。

注意

- 取付けは、外したボルト、ゆるめたボルトが作業中にゆるまないように、確実に締付けておいてください。

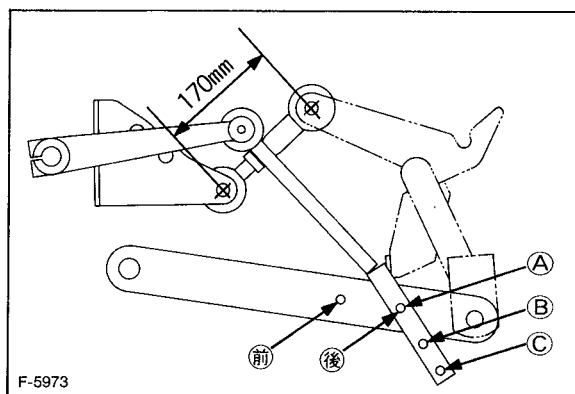
ロータリの着脱のしかた

安全ポイント

- ロータリの取付け・取外しは、平坦な場所を選び、トラクタとロータリの間立たないようにしましょう。
- ▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

■取付け前の準備

- ①リフトロッドとロアーリンクを④と⑥の取付け穴で接続します。(下図参照)
- ②トップリンクの長さを170mmに調整してください。

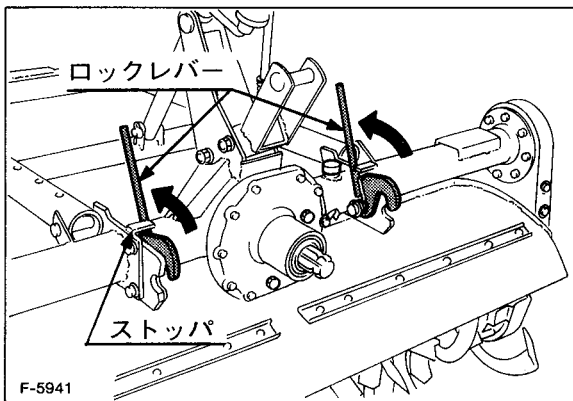


注意

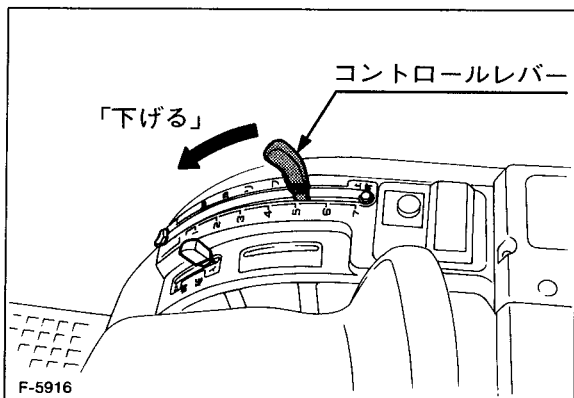
- トップリンクの長さは、標準セット時の寸法を表示しておりますので調整を必要とする場合は、振動や騒音が少なくなるように調整してください。

■ロータリを取付け方【S仕様】

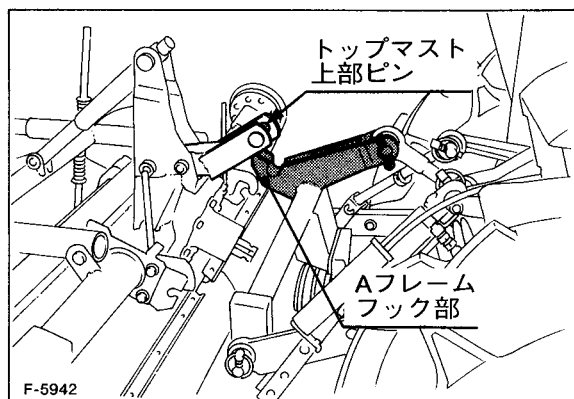
- ①ロータリの取付け姿勢を確認してください。
(34ページ参照)
- ②ロータリの前部にある左右のロックレバーをストップにかけてください。



- ③トラクタに乗車して、コントロールレバーを「下げ」方向に操作し、Aフレームを降ろしてください。

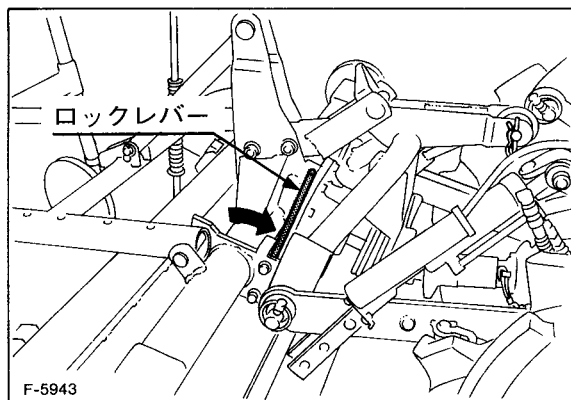


- ④Aフレームのフック部先端が、トップマスト上部ピンのやや下(1~2cm)にくるように、ゆっくりバックしてください。
- ⑤コントロールレバーを、ゆっくり「上げ」方向に操作し、Aフレームのフック部がトップマスト上部ピンに、確実に引掛ったことを確認してから、ロータリを吊上げてください。



注意

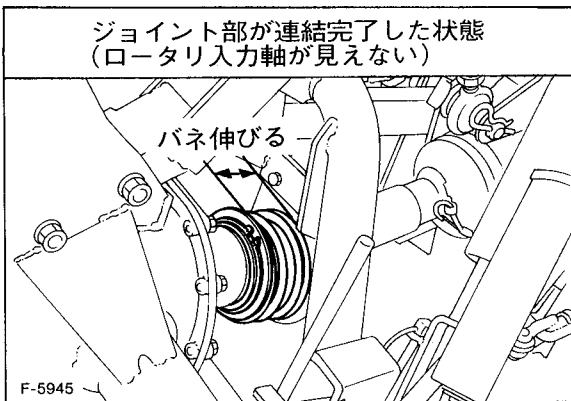
- (1)バックするとき、Aフレームを下げすぎると、AフレームのU字金具とロックレバーが当るので注意してください。
- (2)トラクタとロータリのセンタが同一直線上に重なり合うよう、トラクタをバックしてください。
- ⑥左右のロックレバーをストップから外して、トラクタ側に倒します。
このとき、左右のロックレバーのフック部が、AフレームのU字金具内側のピンに確実に引掛っているか確認してください。



注意

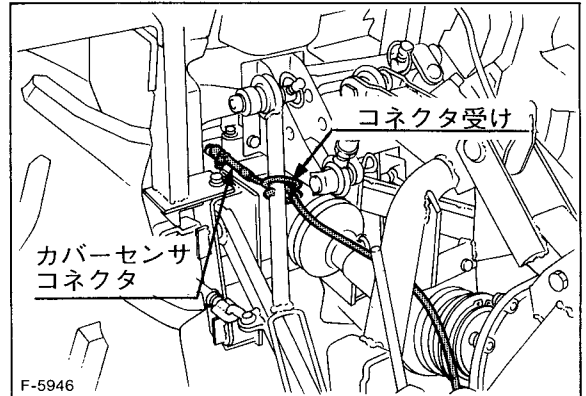
- トラクタとロータリを接続後、次の要領でジョイントが確実にセットされているか、確認してください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。
- ⑦コントロールレバーを操作し、ロータリの爪先端を地上から約10cm浮かせます。

- ⑧ PTO変速レバーを1段に入れ、アイドリング状態でジョイントを回転させると、ジョイント部がロータリ入力軸に自動的に連結されます。連結される時、「カチッ」という音がします。

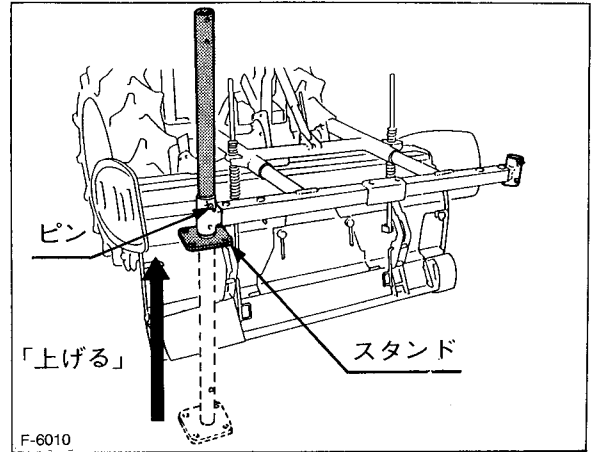


- ⑨ カバーセンサコネクタをリフトロッドのコネクタ受けに通し、トラクタに接続してください。

【MA仕様】



- ⑩ スタンドを上げます。【MAY仕様】



■ロータリの取付け方【N仕様】

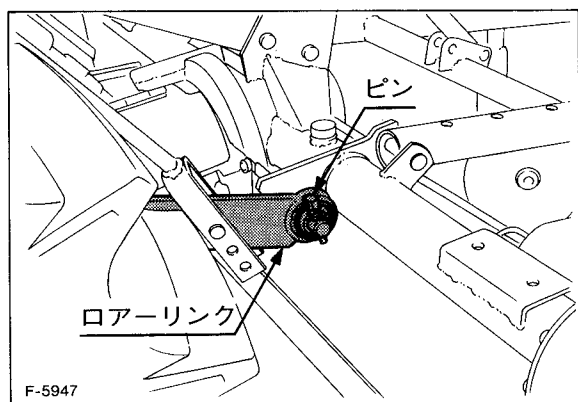
ロータリをトラクタに取付ける場合、まずトラクタをロータリの接続部と合うところまでバックさせ、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。

①ロアーリンクとリフトロッド取付け位置を確認してください。(29ページ「取付け前の準備」参照)

②ロアーリンクにロータリを取付けます。

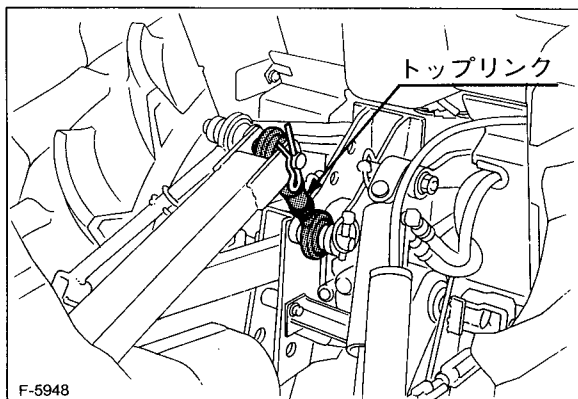
まずロアーリンク(左)を取付け、次にリフトロッド(右)のハンドルを回して、長さを調整しながらロアーリンク(右)を取付けてください。

(モンローマチック付トラクタの場合は、モンローマチックを手動に切換え、リフトロッド(右)を上方向に調整しながら取付けてください。)



③トップリンクにロータリを取付けます。

後2輪ハンドルで調整しながら取付けます。



注意

- トップリンクは上図のように、必ず径の細い方をトラクタ側に取付けてください。

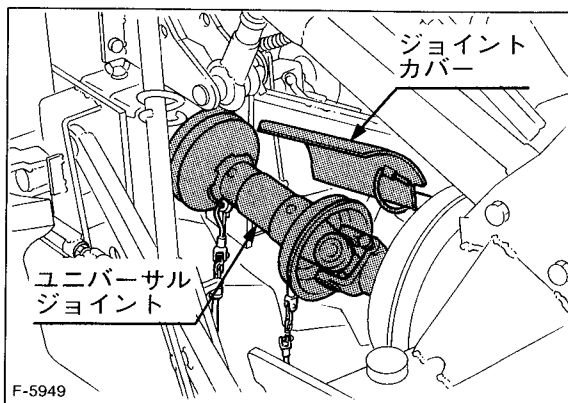
④ユニバーサルジョイントを取付けます。

ロータリのジョイントカバーを上にあげます。ユニバーサルジョイントのオス側のロックピンを指で押えながら、トラクタのPTO軸ケースに当るまで差込みます。

次にメス側をロータリの入力軸に差込んで、ロックピンでロックします。

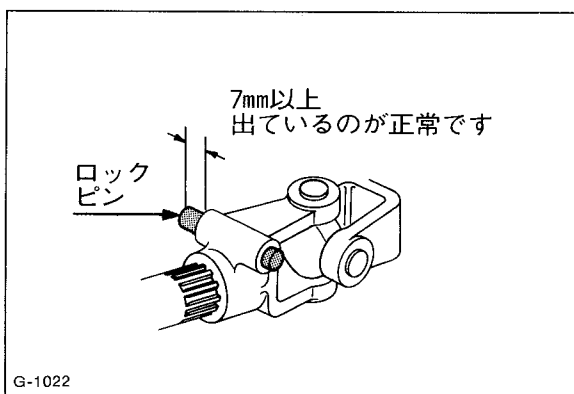
そしてトラクタ側を手前に引き、ロックピンを溝に確実に入れてください。

セットが終わったら、ジョイントカバーを必ず下げたおいてください。



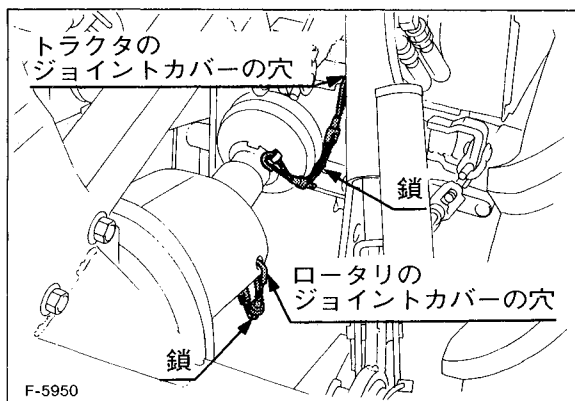
注意

- (1)ユニバーサルジョイントの取付けは、必ずオス側をトラクタ側に、メス側をロータリ側に取付けてください。
- (2)ユニバーサルジョイントのロックピンが、正確に溝にはまったかどうかの確認は、ピンの頭が7mm以上出ているかどうかで確認してください。



⑤安全カバー回転止め鎖を取付けます。

トラクタ側の鎖は、トラクタのジョイントカバーの穴に、ロータリ側は、ロータリのジョイントカバーの穴に取付けてください。

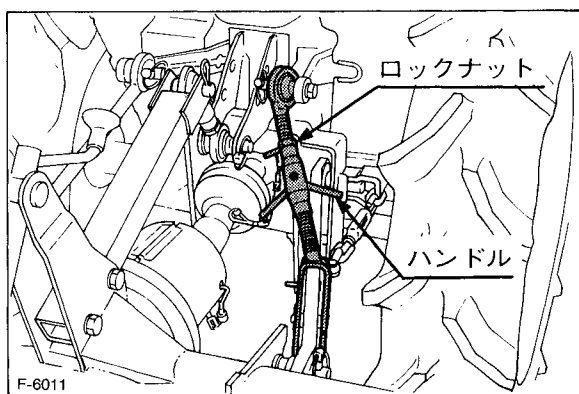


⑥リフトロッド(右)を調整します。

トラクタのコントロールレバーでロータリを持上げて、ロータリの爪軸がトラクタの車軸と平行になるように、ハンドルを操作して調整してください。

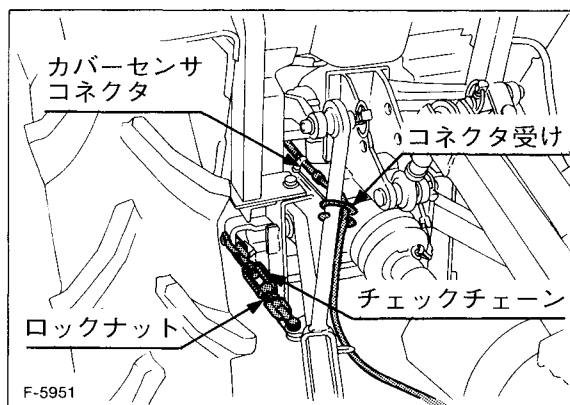
調整後は、ロックナットで固定してください。

【モンローマチック付は調整不要】



⑦チェックチェーンを張ります。

ユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるように、チェックチェーンを左右均等に張り、ロックナットでロックして、ロータリの横振れを防止してください。

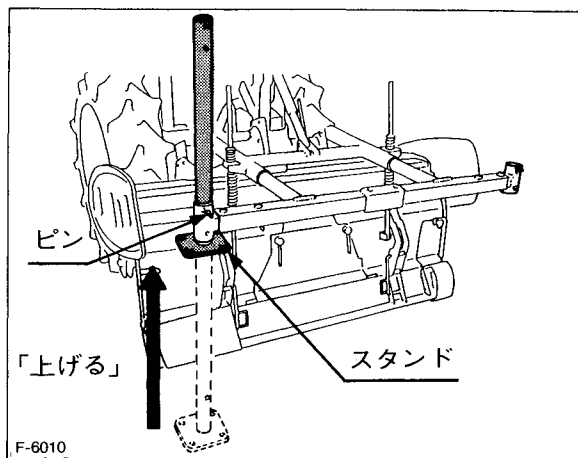


注意

- モンローマチック付の場合は、チェックチェーンを張りすぎないように注意してください。チェックチェーンが切れる恐れがあります。
- ⑧ロータリを持上げて、エンジンを止め、PTO変速レバーを「中立」にして、ユニバーサルジョイントが手で、軽く回るかを確認してください。
- ⑨カバーセンサコネクタをリフトロッドのコネクタ受けに通し、トラクタに接続してください。

【MA仕様】

⑩スタンドを上げます。【MAY仕様】

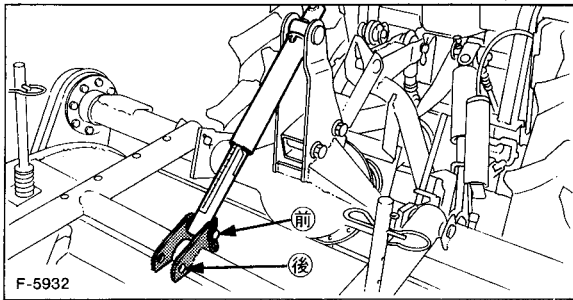


■ロータリの取外し方

取付け順序の逆に行なってください。

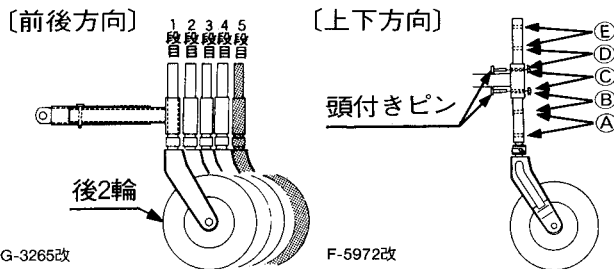
注意

- (1)着脱は平らな場所で行なってください。
- (2)ロータリの着脱時は必ず後2輪(MAY仕様はスタンド)を取付けてください。
- (3)カバーセンソコネクタをトラクタから取外してください。【MA仕様】
- (4)後2輪調整ネジを、後2輪ホルダ1の④の穴に取付けてください。【S仕様】



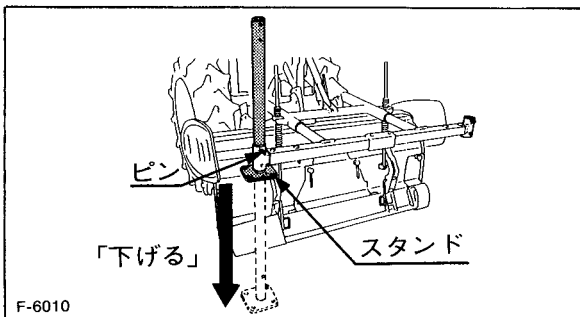
◆後2輪位置の調整

後2輪の前後方向の位置は5段目、上下方向は◎の位置にしてください。



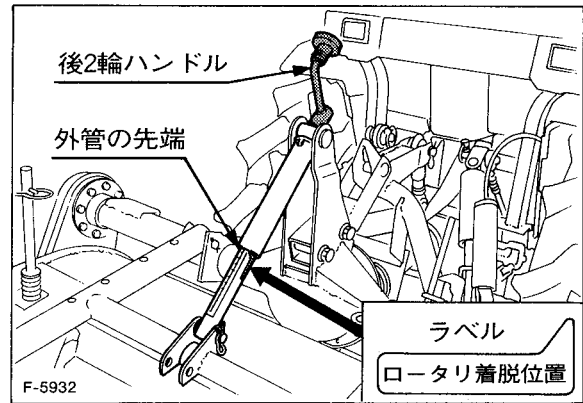
◆スタンド位置の調整【MAY仕様】

スタンドを下げ、2本のピンで固定します。
スタンドの前後方向の位置は、後2輪と同じく5段目にします。



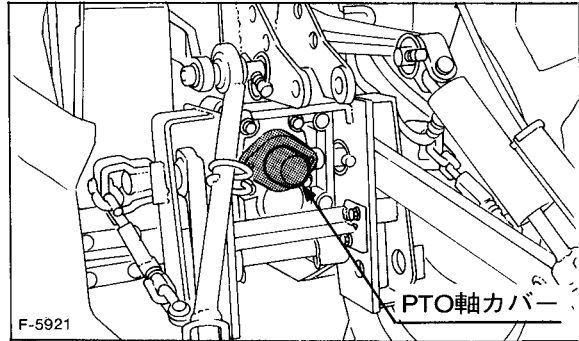
◆後2輪ハンドルの調整

- (1)ロータリの後2輪ハンドルを回し、後2輪(MAY仕様はスタンド)が地面に接地するように調整してください。【N仕様】
- (2)ロータリの後2輪ハンドルを回し、外管の先端を内管に貼ってあるラベルの「ロータリ着脱位置」に合せてください。【S仕様】



- ◆S仕様の場合は、ロータリを吊上げた状態で左右のロックレバーをロータリ側に倒し、ストップに引掛けておきます。(30ページ参照)

安全ポイント

- (1)ロータリを外した状態で、PTO軸を回転させないでください。【S仕様】
 - ▶もし守らないと……
 - 傷害事故を引起すおそれがあります。
 - (2)PTO軸を使わない場合は、PTO軸カバーを取付けておきましょう。
 - ▶カバーを取付けないと……
 - 傷害事故を引起すおそれがあります。
- 
- (3)ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。
 - ▶もし守らないと……
 - 傷害事故を引起すおそれがあります。
 - (4)ロータリ着脱時は必ず後2輪(又はスタンド)を取付けてください。
 - ▶もし守らないと……
 - 傷害事故を引起すおそれがあります。

注意

- 作業終了後、長期間保管するときや洗車された後は、必ず一度ロータリを取外し、①スーパージョイント側ジョイントスプライン部、②ロータリ側入力軸、③ユニバーサルジョイントのしゅう動部にグリースを塗布してください。

ロータリ耕うん法

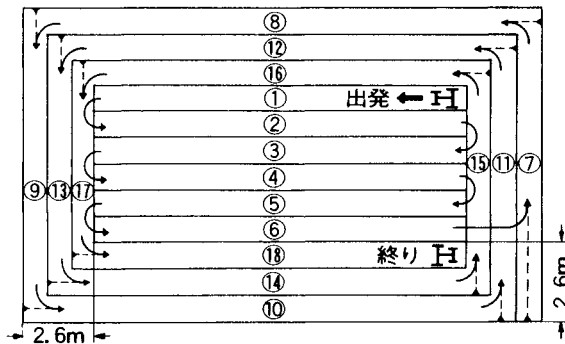
■隣接耕うん法

耕作地の条件が良い場合は、隣接耕うんが能率的で作業も簡単です。

- ①前輪タイヤ・後輪タイヤは最小幅にします。
- ②速度は1～2速で爪回転を1～3段にして、図のような要領で耕うんを始めます。
- ③耕作地の周囲を約2.6m残して、直進耕うん後3回の回り耕を行ないます。
- ④耕うん順序は隣り合せに進め、前・後輪タイヤがいちど耕うんした所に落ちないように、気をつけながら運転します。
- ⑤サイドドライブロータリ(RSP形)は、サイドフレーム側があぜぎわになるようにして、あぜぎわ耕うんを行ないます。

◆隣接耕うんの順序

←進行方向 ←……いったんバック



G-1008

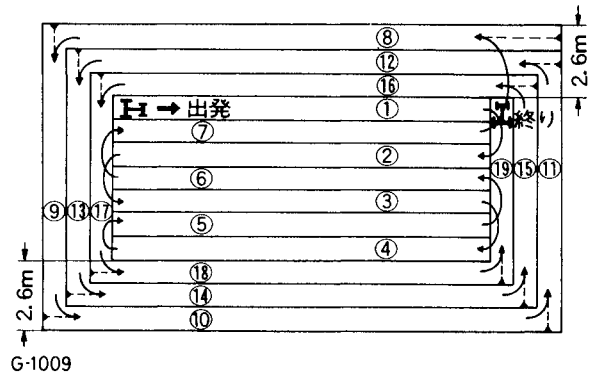
- (1)図の長方形部分1枚が、直進1回で耕うんされる耕作地を示します。
- (2)図のような順序をとるのは、いちど耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- (3)したがって出発点は、トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。
- (4)直進が終って、つぎの直進に移るまでは、ロータリを必ず上げて旋回します。

■一畝おき耕うん法

この方法は、従来の耕うん機と同じ要領で、取扱いも簡単なため、よく用いられます。

- ①耕作地の周囲を約2.6m開けて耕うんを始めます。
- ②最初直進して一畝おきに耕起した後、残りを耕起し、最後に回り耕3回で仕上げます。
- ③一畝おきに残す幅は、タイヤの内側面より幾分少ない方が、残耕を少なくし美しく仕上がります。又前輪は、後輪の中心線上又は外側に合すように調節すれば、作業が楽です。

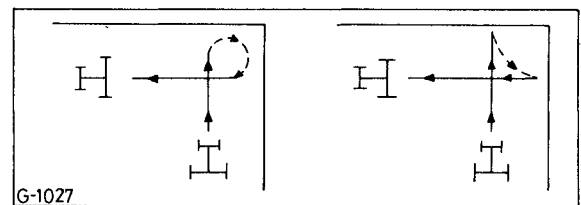
◆一畝おき耕うんの順序



G-1009

- (1)一畝おき耕うんは、小回りのむずかしい場合用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。
- (2)図では、バックによる方向転換を示していますが、回転して方向を変えることもできます。

■トラクタの方向転換



G-1027

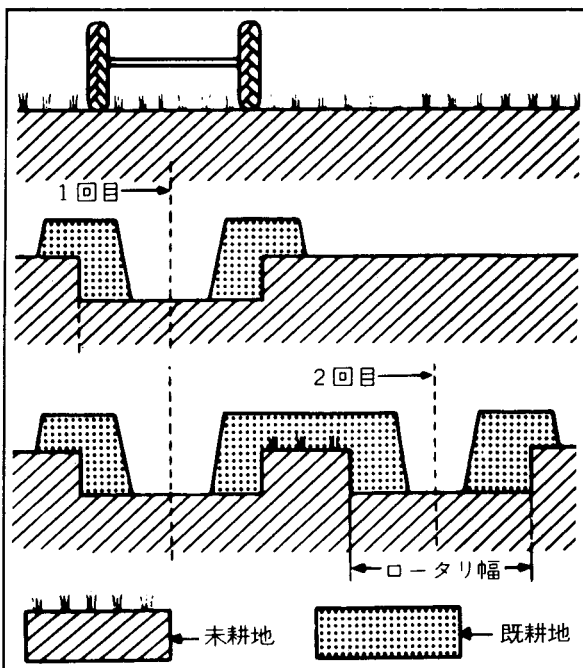
ロータリ畝立て作業

■作業方法

◆有心畝立て法(一畝おき畝立て法)

この方法は最も能率的ですが、一畝おき全面耕うん畝立て法と同じく、耕うん幅によって畝幅が制限されます。

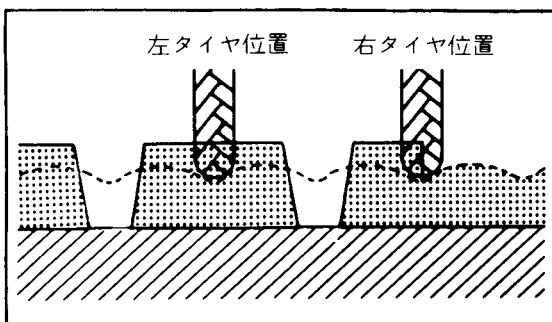
- ①畝立て器を取付けて、
- ②一畝おき耕うんをします。



◆全面耕うん後の畝立て法

この方法は、畝幅を自由に選ぶことができ、土塊が均一で細い畝もできます。

- ①まず、ロータリで全面耕うんを行なってから、
 - ②畝立て器を取付けて、畝立て作業をします。
- この場合は、畝立てをするほ場全部を荒起しした後、爪を外向きに付け直してから、畝立て作業を行なうと美しく仕上がります。

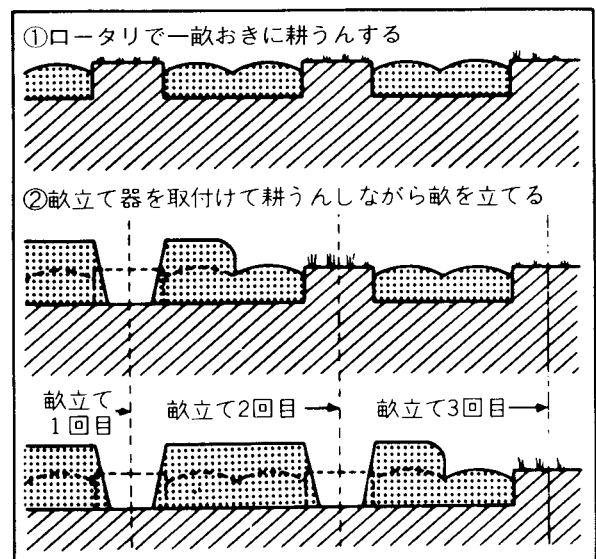


◆無心畝立て法

(一畝おき全面耕うん畝立て法)

この方法は、全面耕うん後の畝立て法に比べて能率的です。しかし、耕うん幅によって畝幅が制限されます。

- ①まず、畝幅を決めると、一畝おきに耕うんします。
- ②畝立て器を取付けて、残しておいた部分を耕うんしながら、畝立て作業をします。



以上はほんの一例です。地方によって条件が異なりますから、土地条件に合った方法をお考えください。

注意

- (1)畝立て作業を行なうとき、MA仕様では必ずオート耕深調節スイッチを「尾輪」位置にしてください。その他の位置(オートが作動している位置)では、作業機の昇降に支障をきたすことがあります。
- (2)耕うん状態のまま、無理にハンドルを切って旋回すると、爪を曲げたり、後2輪やチェーンケースを破損する原因になりますから注意してください。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書12ページ参照

- 爪の交換・爪取付けボルトの点検などは、安全のため、必ずエンジンを止め、落下調整レバーを回して油圧ロックし、ロータリの落下を防止してから、作業を始めてください。

トラクタ使用前の点検について(作業点検)

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。作業点検は毎日欠かさず行なってください。

安全ポイント

- 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日、異常のあった箇所

(2)トラクタの回りを歩いて

- ランプ類の点灯及び汚れ、損傷
- ナンバプレートの汚れ、損傷
- タイヤの空気圧、き裂、損傷、摩耗……50ページ
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 反射器の汚れ、損傷
- ミッションオイルの量及び汚れ……44ページ
- 燃料フィルタの水抜き、沈澱物の点検
- 冷却水、オイル、燃料漏れの点検
- 前車軸ケースオイルの量……45ページ

(3)ボンネットを開けて

- エンジンオイルの量及び汚れ……43ページ
- リザーブタンクの冷却水の量、ラジエータキャップのしまり……41ページ
- エアークリーナの詰まり……49ページ
- ファンベルトの張り具合、損傷……50ページ
- バッテリー、配線、マフラ部の清掃……52ページ
- 防虫網の清掃……43ページ

(4)運転席に座りエンジンを始動して

- 燃料計の作動
- 燃料は十分か、燃料キャップの締付け
- イージーチェッカの点滅具合
- ヘッドランプの作動
- トラクタメータの作動

●ウインカランプの点滅

●ホーンの作動

●バックミラーの写影

●ブレーキペダルの遊び……49ページ

●クラッチペダルの遊び……50ページ

●ハンドルの遊び・ガタ

●コントロールレバーによる油圧昇降及び作業機取付ピンの脱落

●排気ガスの色、異常音……52ページ

(5)エンジンを始動して、徐行しながら

●水温計の作動

●ブレーキの効き、片効き

●ハンドルの重さ、振れ、取られ

(6)ロータリの回りを歩いて

●耕うん爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ

●ギヤケースのオイル量

【サイドドライブ仕様】……45ページ

●チェーンケースのオイル量

【サイドドライブ仕様】……45ページ

●ロータリケースのオイル量

【セントドライブ仕様】……46ページ

●ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ

●ユニバーサルジョイントのロックピン

のロック状態の確認……52ページ

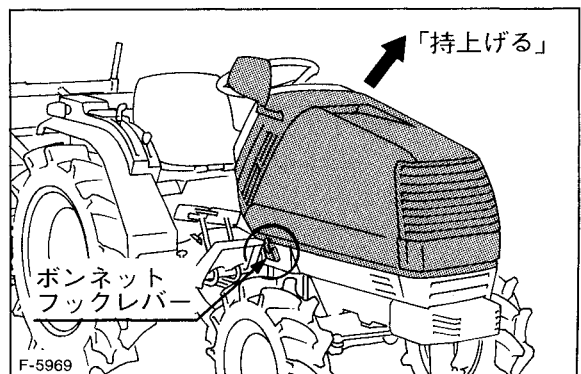
●油もれ

■ボンネットの開閉

ボンネットを開けるときは、両側のボンネットフックレバーを上げてフックを外し、ボンネット上面中央部を持上げると開きます。

注意

- ボンネットは遮音効果を高めるため密閉方式となっております。作業時は必ずボンネットを閉じてください。



トラクタの簡単な手入れと処置

安全ポイント

- 給油及び点検整備するときは、①トラクタを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③駐車ブレーキをかけ、④落下調整レバーを回して油圧をロックし、⑤さらに爪軸の下に木の台を置く、など十分安全を確認してから行なってください。

▶安全を確認せずに点検整備すると……傷害事故を引き起こすことがあります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・農協・弊社支店又は(株)クボタアグリにご相談ください。

次の定期点検箇所一覧表に従って、定期点検を実施しましょう。

■トラクタの定期点検箇所

点 検 項 目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参 照 ペ ー ジ	
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年		
ミッションオイルの交換		○					○								44
エンジン オイルの 交 換	年間使用時間が 100時間以上の場合	○	○			○		○		○					43
	年間使用時間が 100時間以内の場合	○	1 年 ごと										○		
フロントギヤケースのオイル交換		○					○								44
前車軸ケースのオイル交換		○					○								45
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換		○				○				○					48
油圧オイルフィルタカートリッジの交換		○					○						○		48
油圧ストレーナの洗浄		○					○								48
燃料フィルタエレメントの交換										○					48
冷却水の交換													○		41
ラジエータ内部の洗浄													○		43
エアークリーナエレメントの清掃			○		○		○		○		○				49
エアークリーナエレメントの交換													○ 6回 清掃毎		49
油圧ホース取付けねじのゆるみ点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				—
油圧・燃料パイプ締付けバンドのゆるみ点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				—
ラジエータホース締付けバンドのゆるみ点検				○			○			○					—
燃料パイプの交換													○		—
ラジエータホースの交換													○		—
バッテリー液点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				52

点 検 項 目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参 照 ページ
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
車体各部のボルト, ナットのゆるみ, ピンなどの脱落		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
燃料タンクの清掃											○			—
グリースの注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			46
ファンベルトの調整		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50
クラッチハウジングの水抜き		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			51
ワイヤハーネス, バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			53

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。

■ロータリの定期点検箇所

点 検 項 目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参 照 ページ
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
ギヤケースのオイル交換 【サイドドライブ仕様】		◎					○			○				45
チェーンケースのオイル交換 【サイドドライブ仕様】		◎		○			○			○				45
ロータリケースのオイル交換 【センタドライブ仕様】		◎		○			○			○				46
グリースの注入 ・後2輪 ・ユニバーサルジョイント しゅう動部 ・アウトスリーブ, ロータリ入力軸 【S仕様】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			46
注油 ・内管(後2輪調整ネジ部)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			46
グリースの交換 ・爪軸ベアリングケース				○			○			○				47

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。

給油(水)一覽表

■トラクタの給油(水)

給油(水)項目	容 量 (ℓ)	使 用 オ イ ル
燃 料	17.0	クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油
冷却水(ラジエータ)	3.5	清水又はクボタ不凍液(50%)
冷却水(リザーブタンク)	0.6	
エンジンオイル	3.7 (オイルゲージ上限全量, フィルタ部も含む。)	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30
ミッションオイル	12.0(K仕様14.0)	クボタ純オイルM80B
フロントギヤケースオイル	2.7	
ステアリングギヤボックス オイル	0.3	
前車軸ケース	4.0	
グリースの注入 ・クラッチペダル ・ブレーキペダル	少 量	シャーシグリース
グリースの塗布 ・関節球	塗 布	

■ロータリの給油

給油(水)項目	容 量 (ℓ)	使 用 オ イ ル
ギヤケースオイル 【サイドドライブ仕様】	RSP10, RSP11 …… 1.4 RSP12, RSP13 …… 1.5 RSP15 …………… 1.6	クボタ純オイルM80B
チェーンケースオイル 【サイドドライブ仕様】	1.2	
ロータリケースオイル 【センタドライブ仕様】	1.2	
グリースの注入 ・後2輪支柱左・右 ・ユニバーサルジョイント ・爪軸ベアリングケース 【サイドドライブ仕様】 ・アウタースリーブ, ロータ リ入力軸【S仕様】	適 量	シャーシグリース
注油 ・内管(後2輪調整ネジ部)	適 量	クボタ純オイル

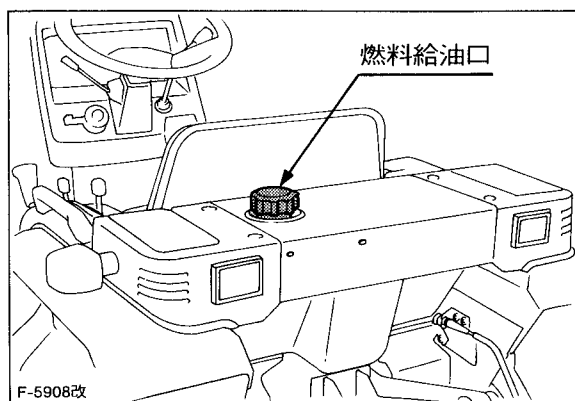
燃料について

注意

- 燃料計の針が「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統にエアが入るので、エア抜きが必要です。

燃料

燃料は、「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」を使用してください。



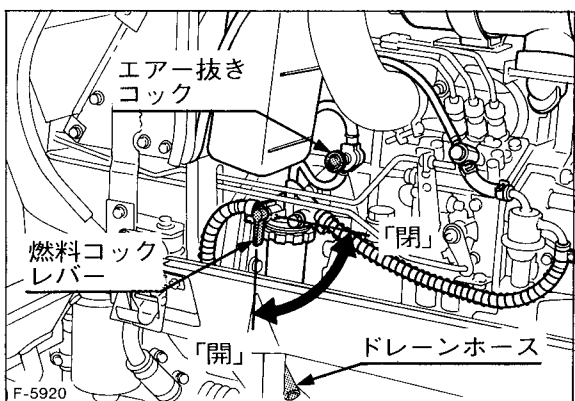
注意

- (1) 燃料中にゴミや砂が混入すると、燃料噴射ポンプが作動不良になりますので、必ずこし網を通して補給してください。
- (2) 燃料キャップが締まっているか確認してください。

エア抜きのしかた

燃料のエア抜きは、

- 燃料フィルタ及び配管を外したとき
 - 燃料切れが起きたとき
 - トラクタを長時間使用しなかったとき
- などに行なう必要があります。
- ① タンクに燃料を満たします。
 - ② 燃料コックレバーを「開」にします。



- ③ エア抜きコックを開き、フィルタカップ内に燃料が満たされたのを確認してから5～10秒後コックを閉じます。
- ④ エンジンストップロッドを引き(エンジン停止の状態)、セルモータを約10秒間回します。(セルモータを連続10秒間回せば30秒休む、この操作を1～2回くり返します。

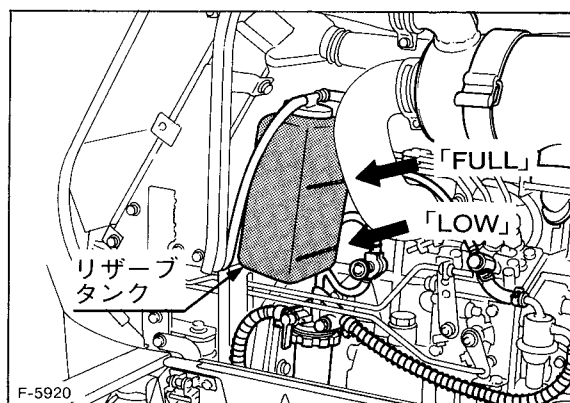
注意

- 燃料フィルタの頭上のコックは、エア抜きするとき以外は必ず閉じておいてください。

冷却水

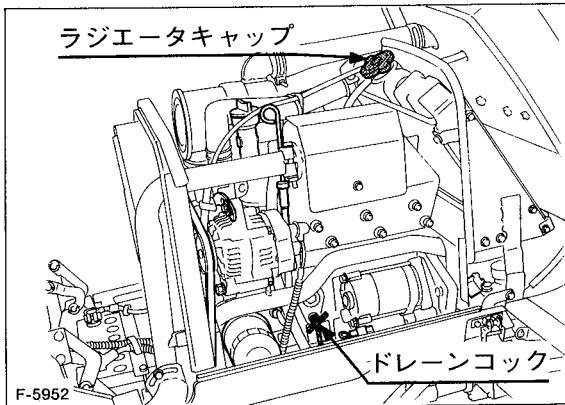
◆点検

ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給する構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。「FULLからLOWの範囲」であれば適量です。冷却水が「LOW」以下の場合、「FULLのレベルのすぐ下」まで補給してください。「FULL」以上は入れないでください。



◆交換

- ①冷却水を抜くときは、エンジンのドレーンコックを開くと共にラジエータキャップを外して、冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は、タンクを外し排水します。



- ②水道の水でラジエータ内を洗浄し、ドレーンコックを閉めオーバーフローパイプを取付けます。
③ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に締めてください。
④エンジンを始動すると冷却水がエンジン内に送られ、ラジエータ内の冷却水が少し減少しますので、再度エンジンを止めて給水してください。

安全ポイント

- ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けると、熱湯が噴出しますので、停止後10分以上たって冷えてから開けてください。
▶運転中や停止直後に開けると……
熱湯によりヤケドをします。

■不凍液の使い方

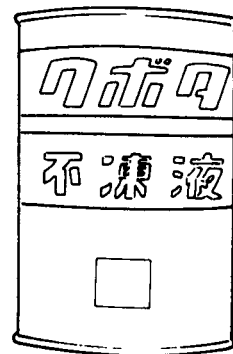
不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは、必ず不凍液(ロングライフクーラント)をあらかじめ清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は、長期保管する場合は冷却水を完全に排水してください。

[工場出荷時は、不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。]

注意

- (1)冷却水には、不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れて、よくを混ぜ合せてからお使いください。
- (2)不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。
- (3)不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。
- (4)クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

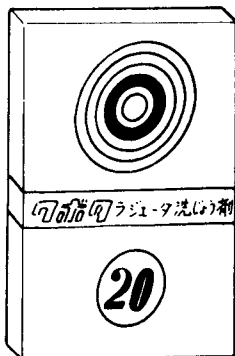


Z-1007

■ラジエータの洗浄

ラジエータ内は、クボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。

- 500時間運転ごと
 - 不凍液を使用するとき
 - 不凍液から水だけに変えるとき
- などに使用してください。



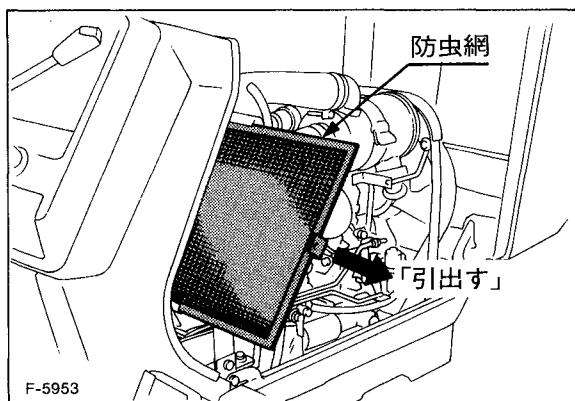
Z-1009

■防虫網の清掃

安全ポイント

- エンジンは必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に草の実やこん虫などが付着し詰まることがありますので、必ず防虫網を清掃してください。



■ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水(圧力水)で流してください。

注意

- ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。フィンを傷めラジエータの機能を低下させる原因になります。

■ラジエータから水漏れした場合

- (1)少しの水漏れの場合は、クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば止まります。
- (2)水漏れが激しい場合は、お買あげの販売店・農協にご相談ください。

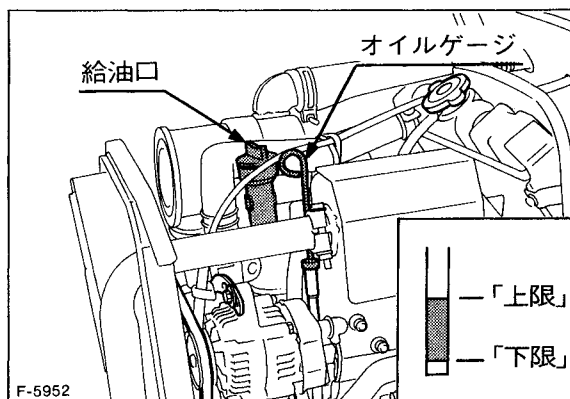
各部への給油と交換(トラクタ)

使用するエンジンオイル、ミッションオイル、ギヤオイルは、必ず「クボタ純オイル」を使用してください。(59ページ参照)

■エンジンオイル

◆点検

- ①オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ②「下限」以下の場合は補給してください。ただし、「上限」以上には入れないでください。

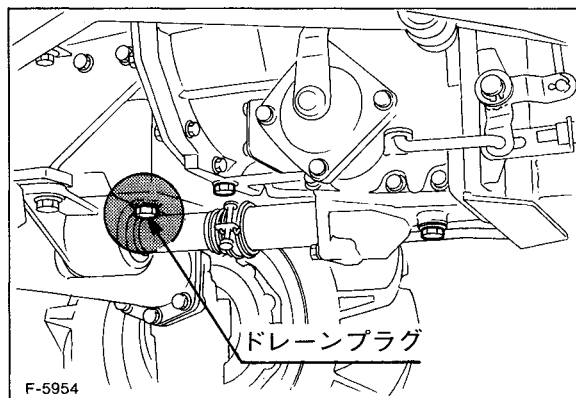


注意

- (1)点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- (2)オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約3分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆交換

- ① ドレインプラグを外してオイルを排出します。

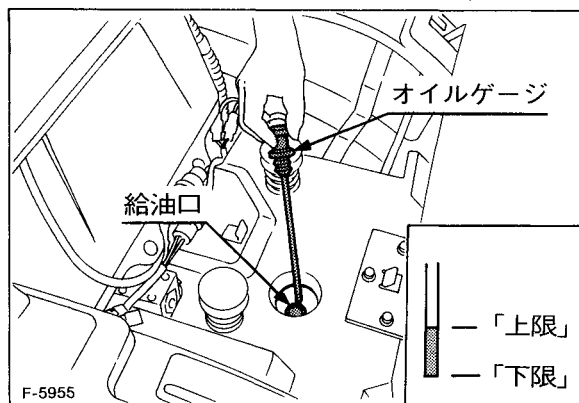


- ② 給油口からエンジンオイルを、規定量入れてください。

■ミッションオイル

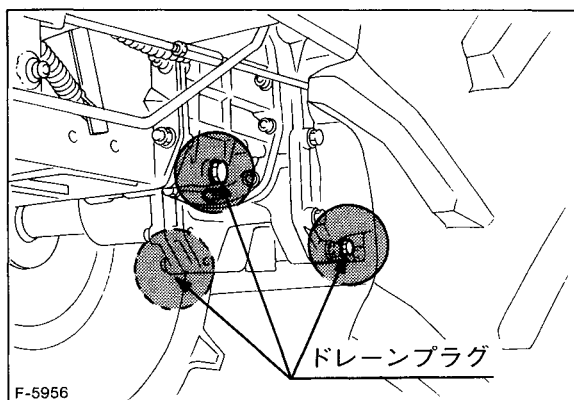
◆点検

- ① バンドを外し、工具箱を取外します。
- ② オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ③ 「下限」以下の場合は補給してください。ただし、「上限」以上には入れないでください。



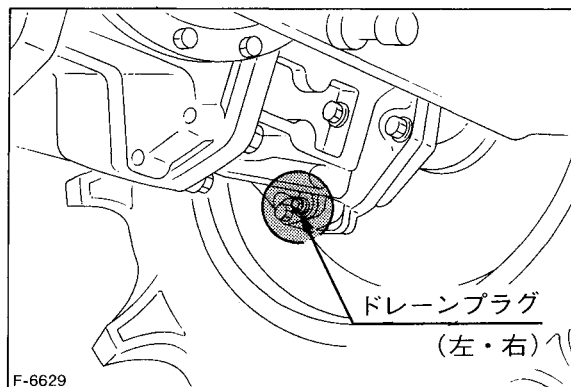
◆交換

- ① ドレインプラグを外してオイルを排出します。



【K仕様】

ケース(L1)のドレインプラグ(左・右)も外してオイルを排出してください。

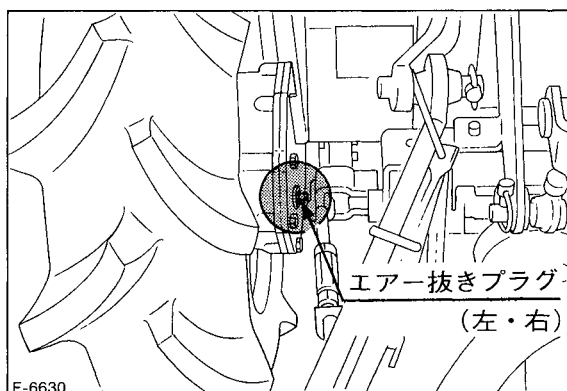


【注意】

- 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。
- ② 給油口からミッションオイル(約12ℓ, K仕様は約14ℓ)を入れてください。

【K仕様】

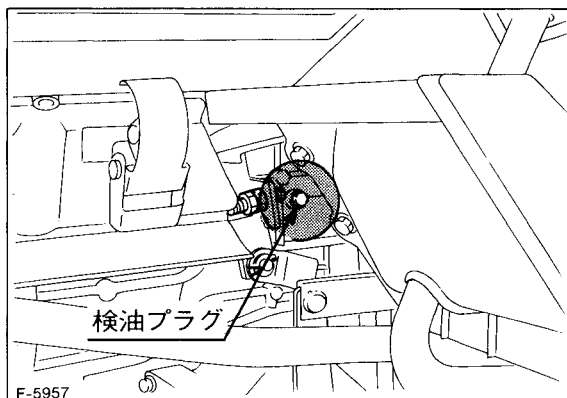
ケース(L1)のエア抜きプラグ(左・右)を外して給油してください。給油後はエア抜きプラグを確実に締めてください。



■フロントギヤケースのオイル

◆点検

検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。

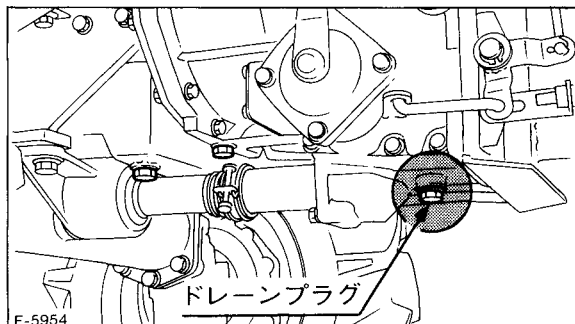


◆交換

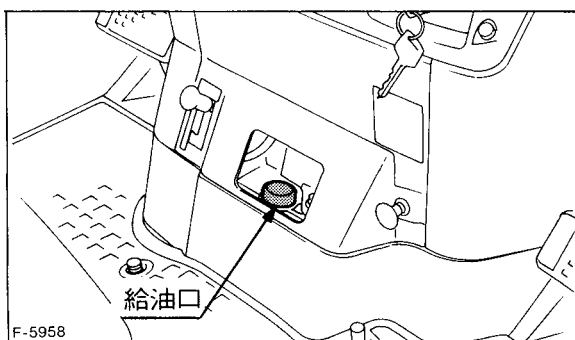
- ① ドレインプラグを外してオイルを排出します。

注意

- 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。



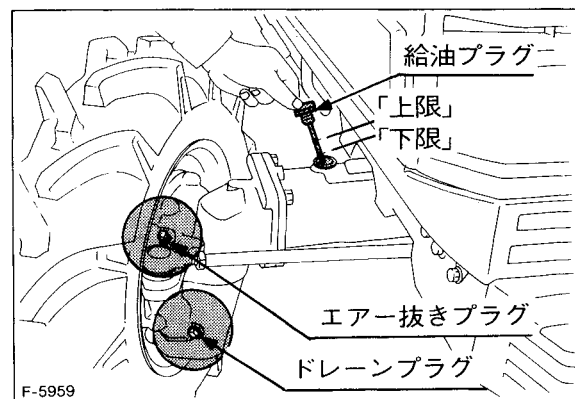
- ② 給油口からミッションオイル(約2.7ℓ)を入れてください。



■前車軸ケースオイル

◆点検

- ① 給油プラグを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ② 「下限」以下の場合は補給してください。ただし「上限」以上には入れないでください。



◆交換

- ① ドレインプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。
- ② エア抜きプラグを外し、給油口から新しいオイルを規定量入れてください。
- ③ エア抜きプラグを確実に閉めてください。

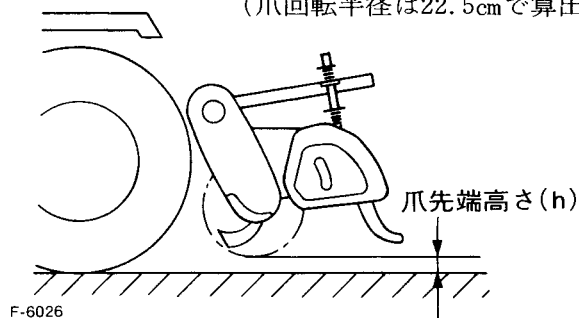
各部への給油と交換(ロータリ)ー

注意

- ロータリのオイル量を点検するときは、トラクタの形式によってロータリの爪先端高さを調整して行ってください。

		トラクタの形式	爪先端高さ(h)
サイドドライブ	ギヤケース	A-15, A-15K, A-17K, A-19K	0 cm (接地させる)
		A-17(標準タイヤ~大径タイヤ)	2.5cm~4.5cm
		A-19(標準タイヤ~大径タイヤ)	4.5cm~8 cm
サイドドライブ	チェーンケース	A-15, A-17, A-15K, A-17K, A-19K	0 cm (接地させる)
		A-19	4.5cm
セントラドライブ	ロータリケース	A-15(標準タイヤ~大径タイヤ)	4.5cm~7.5cm
		A-15K, A-17K, A-19K	
		A-17(標準タイヤ~大径タイヤ)	6.5cm~10cm
		A-19(標準タイヤ~大径タイヤ)	10cm~13cm

(爪回転半径は22.5cmで算出)

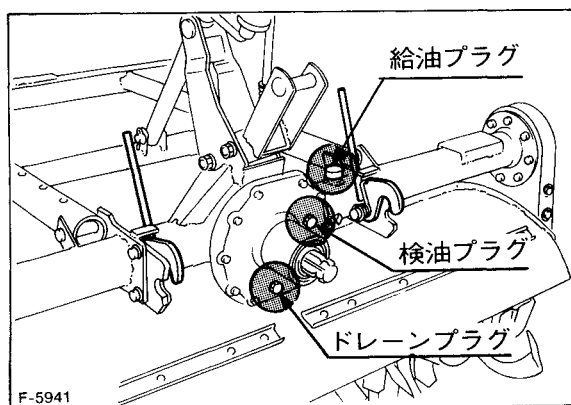


■ギヤケースオイル

【サイドドライブ仕様】

◆点検

- ① ロータリの爪先端高さを調整します。(左表参照)
- ② 検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。
- ③ 検油口以下の場合には補給しますが、検油口以上には入れないでください。



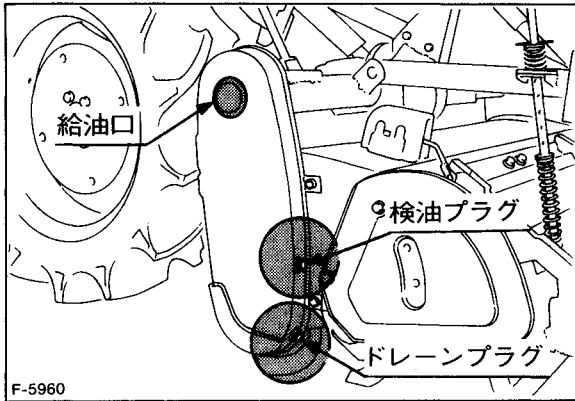
◆交換

- ① ドレインプラグを外してオイルを排出します。
- ② ギヤオイルを給油口から、規定量入れてください。

■チェーンケースオイル 【サイドドライブ仕様】

◆点検

- ①ロータリの爪先端高さを調整します。(左表参照)
- ②検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。
- ③検油口以下の場合は補給しますが、検油口以上には入れないでください。



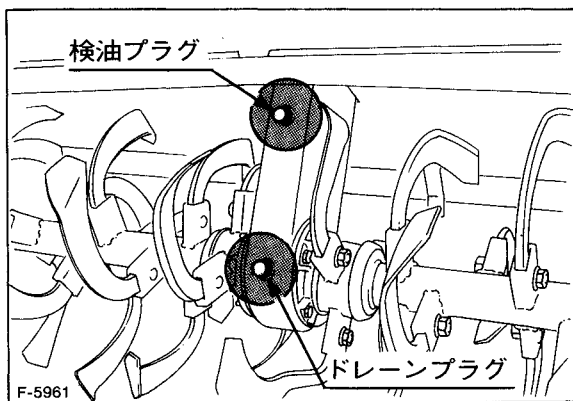
◆交換

- ①ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
- ②ギヤオイルを給油口から、規定量入れてください。

■ロータリケースオイル 【センタドライブ仕様】

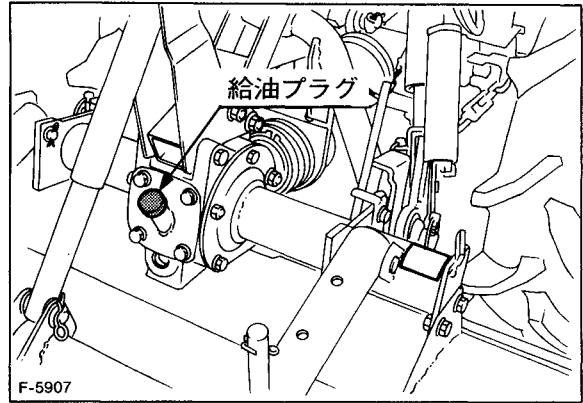
◆点検

- ①ロータリの爪先端高さを調整します。
(45ページ **注意** 参照)
- ②検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。
- ③検油口以下の場合は補給しますが、検油口以上には入れないでください。



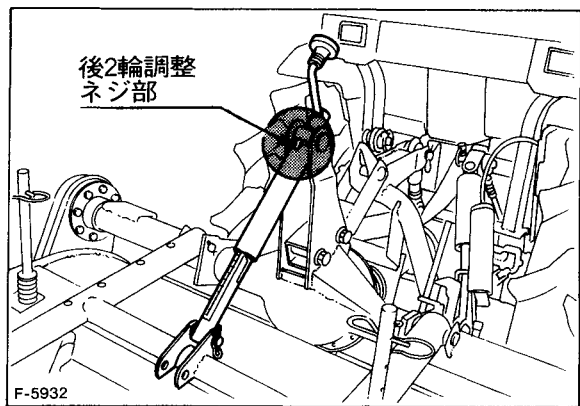
◆交換

- ①ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
- ②ギヤオイルを給油口から、規定量入れてください。



■内管(後2輪調整ネジ部)

オイルを適量注油します。



グリースの注入箇所

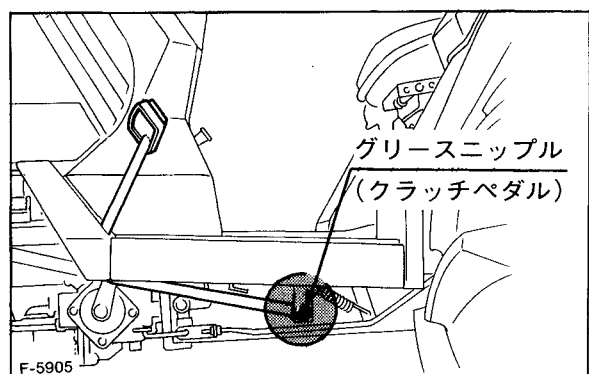
通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などで泥水の中に入ったときは1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。

グリースは、「クボタ推奨グリース」を使用してください。(59ページ参照)

■各部へのグリース注入

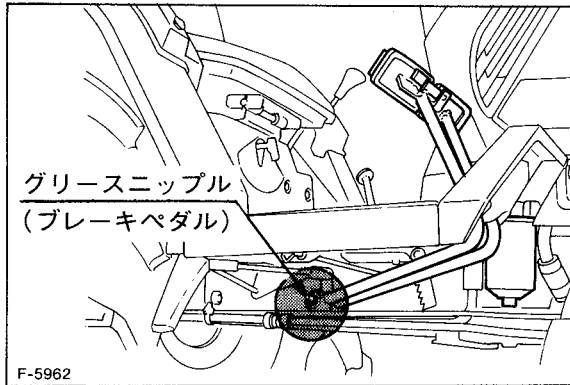
◆クラッチペダル

シャーシグリースを少量注入します。



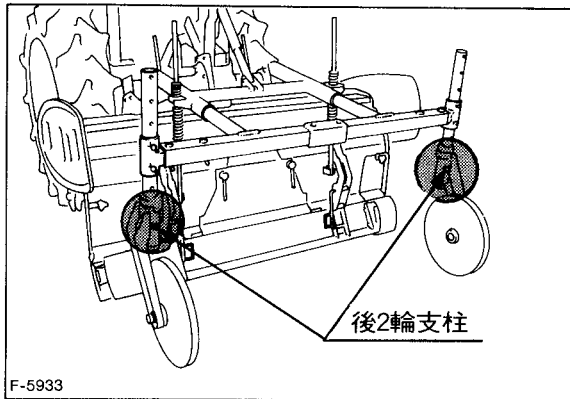
◆ブレーキペダル

シャーシグリースを少量注入します。



◆後2輪(2カ所)

シャーシグリースを適量注入します。



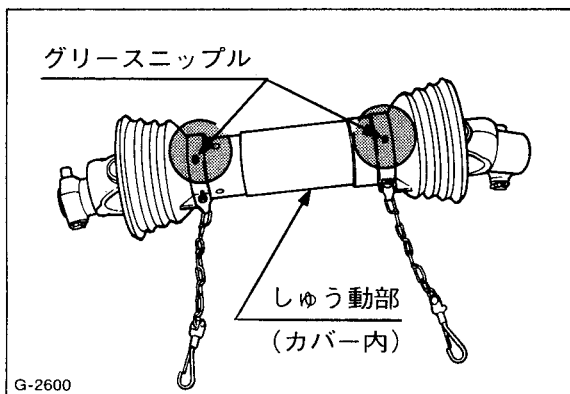
◆ユニバーサルジョイント

しゅう動部及びグリースニップルに、ベアリンググリースを適量注入してください。

また、しゅう動部は、ジョイントのオス・メス部を切離して補給してください。

【注意】

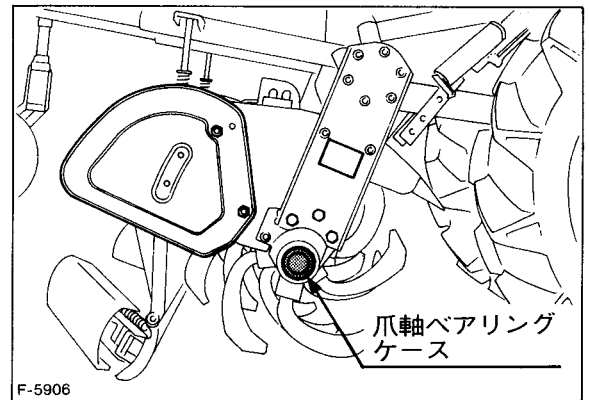
- PTO軸・ロータリ側の軸にも、薄く塗布してください。



◆爪軸ベアリングケース

【サイドドライブ仕様】

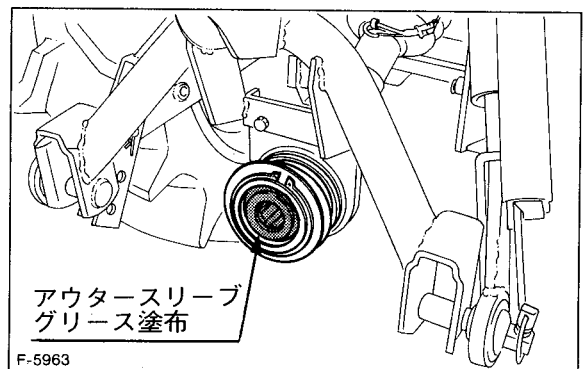
サイドフレームのベアリングケースふたを外し、ベアリンググリースを交換します。



◆アウトスリーブ、ロータリ入力軸

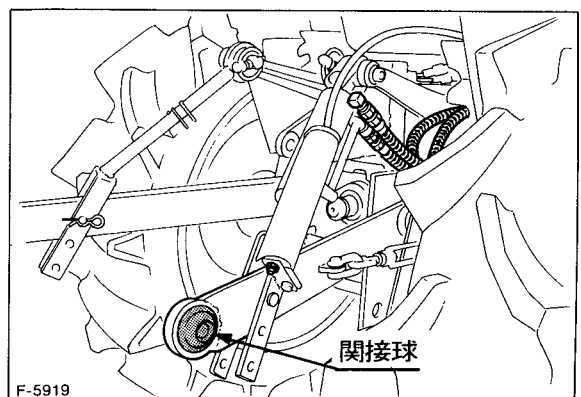
【S仕様】

- ① 湿田耕うんや代かき作業後は、必ずロータリを切離し、アウトスリーブ内とロータリ入力軸の、泥をきれいに水で洗い流し、下図箇所にグリースを適量塗布してください。
- ② 定期的にロータリを切離し、アウトスリーブの、下図の箇所及びロータリ入力軸にグリースを適量塗布してください。



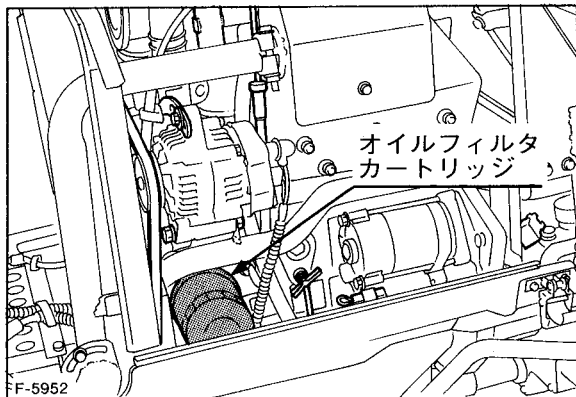
◆関節球へのグリースの塗布

リフトシリンダ・リフトロッド・ロアーリンク・トプリングの関節球の球面にシャーシグリースを塗布してください。



フィルタの交換と洗浄

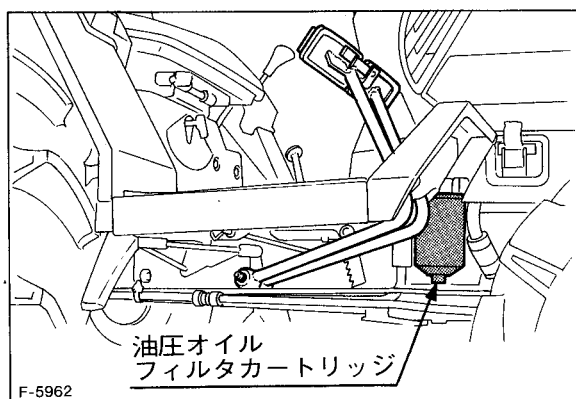
■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



- ① フィルタレンチで取外します。
- ② 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
- ③ エンジンオイルを規定量補給します。
- ④ エンジンを約5分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか確認してから止めます。
- ⑤ 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していればエンジンオイルを補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

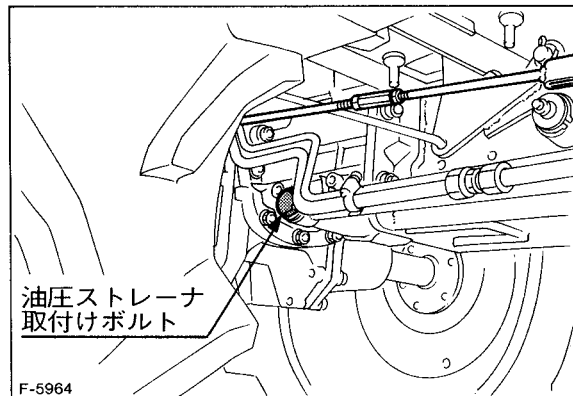
- ① フィルタレンチで取外します。



- ② 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
- ③ 約2分間運転し、作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

■油圧ストレーナの清掃

付属のスパナで取外し、洗浄します。

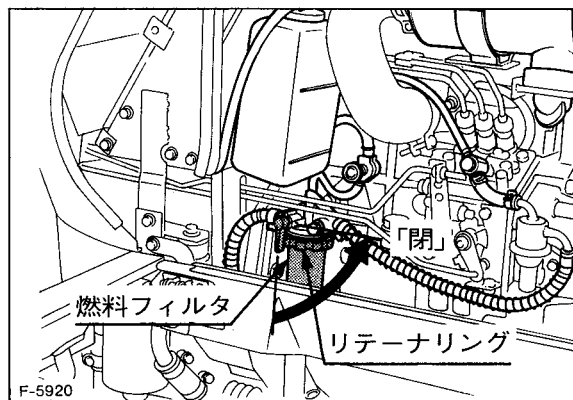


■燃料フィルタエレメントの交換

- ① 燃料フィルタのコックを閉じてください。
- ② カップ上部のリテーナリングを回してカップを外し、カップ内部を軽油で洗浄します。
- ③ 新しいフィルタエレメントと交換します。

注意

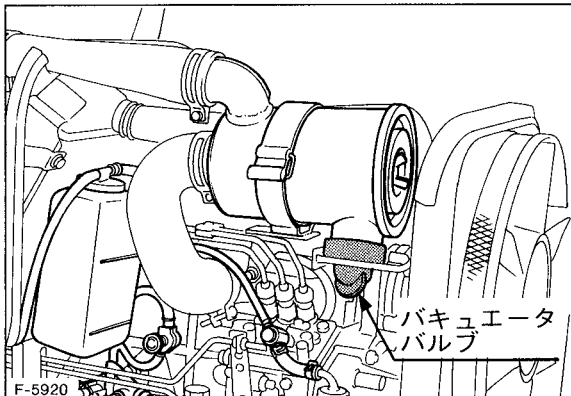
- (1) 組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
- (2) エレメントを交換後は、必ずエア抜きをしてください。



■エアークリーナエレメント

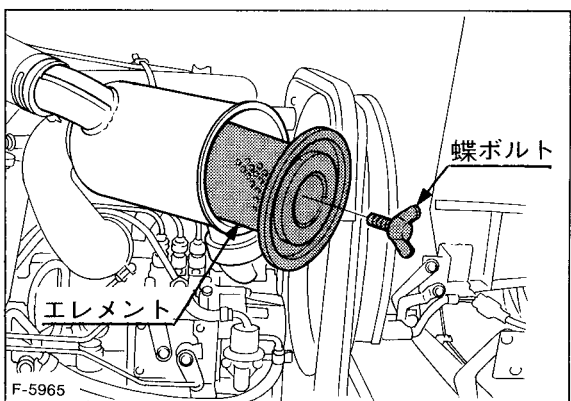
◆バキューータバルブの清掃

バキューータバルブを開き、ゴミを取除いてください。水分があるときは、エアークリーナを掃除してください。



◆エレメントの清掃

- ① バンドを外し、エアークリーナを少し持ち上げます。
- ② 蝶ボルトを外し、エレメントを取外します。
- ③ エレメントの清掃は、エレメントの内側から空気を吹付けるか、又は手で軽く振ってゴミを取除いてください。



◆エレメントの交換

エレメントの交換は、1年間使用後又は6回掃除ごとに交換してください。

注意

- (1) 乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用してはいけません。
- (2) エレメントは、清掃・交換のとき以外はさわらないでください。

各部の点検・調整

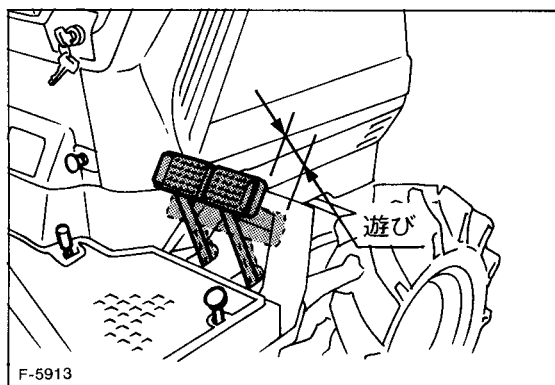
■ブレーキペダル

安全ポイント

- (1) ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
- (2) 調整時左右のペダルの遊び量を必ず同じ(差が5mm以内)にしてください。同じでないときブレーキが片ぎきになります。
▶ ブレーキが片ぎきになると……
傷害事故を引起すことがあります。

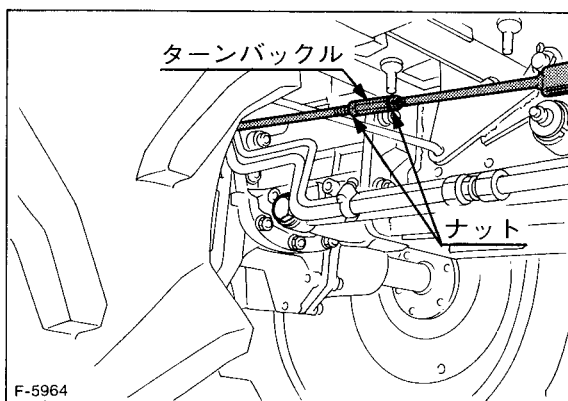
◆点検

左右のペダルの遊び量が20~30mmあるか確認してください。



◆調整

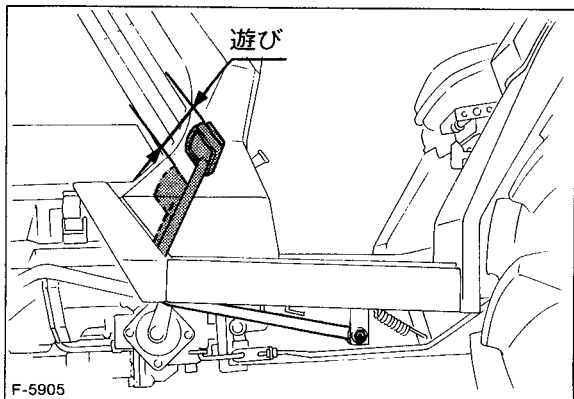
- ① 駐車ブレーキを解除します。
- ② ナットをゆるめ、ターンバックルを回して、ペダル遊び量が左右とも20~30mmになるよう、また段差が5mm以内になるように調整します。
- ③ 調整後はナットを確実に締付けます。
- ④ 駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。



■クラッチペダル

◆点検

ペダルの遊び量が20～30mmあるか確認してください。



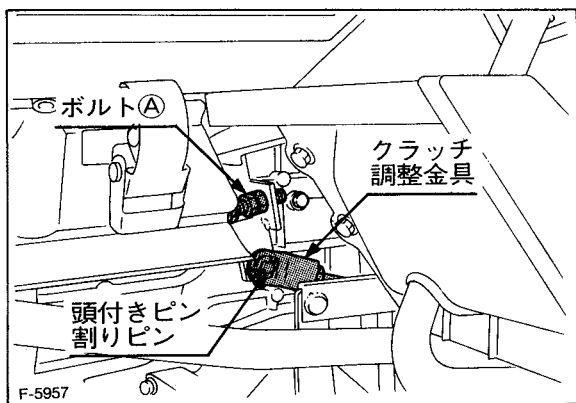
注意

●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起し損傷につながります。

◆調整

頭付きピンを外し、クラッチ調整金具を回して、ペダルの遊びを調整します。

調整後は割りピンを確実に組付けておいてください。

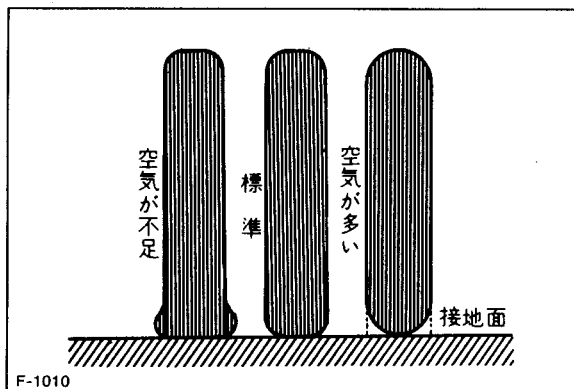


注意

●ボルトAは、クラッチペダルの最大踏み量を規制して、クラッチのダイヤフラムのオーバーストロークを防ぐもので、工場出荷時に調節して固定ロックしてありますので、さわらないようにお願いします。

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎの通りです。



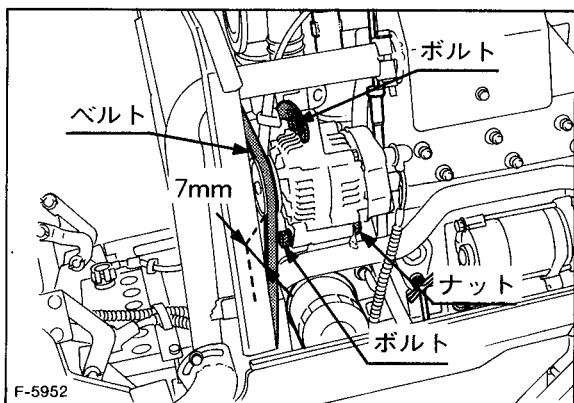
◆標準空気圧

		空気圧 (kg f/cm ²)
前	輪	2.0
後	輪	1.6

■ファンベルトの張り具合

◆点検

ベルトの中央部を指先で押えて、約7mm程度たわむか確認してください。



注意

●ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

◆調整

- ①オルタネータを取付けているナットとボルトをゆるめます。
- ②オルタネータを動かし、ベルトの張りが約7mmたわむ程度に調整します。
- ③調整後はナットとボルトを確実に締付けます。
- ④ベルトにき裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。

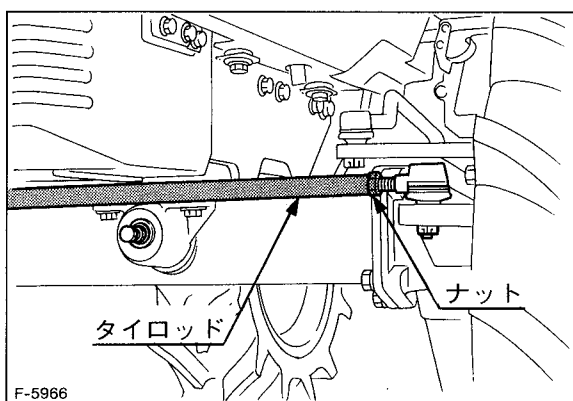
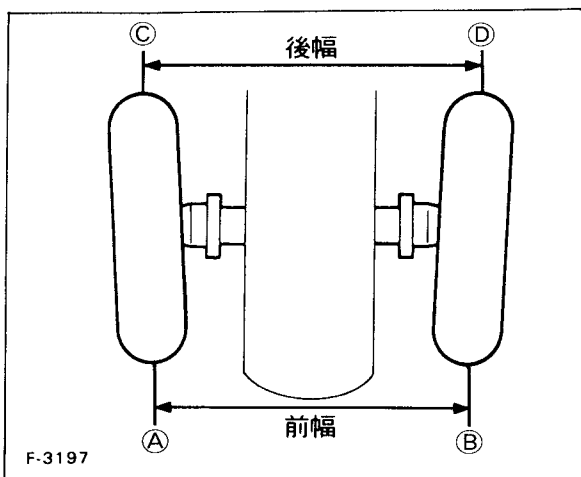
■トーイン

注意

- トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

◆点検

前輪の前幅(AB)と後幅(CD)を測り、 $CD - AB = 0 \sim 10\text{mm}$ になっているかを調べます。



◆調整

ナットをゆるめ、タイロッドを回して $CD - AB = 0 \sim 10\text{mm}$ になるように調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。

■前車軸支持部

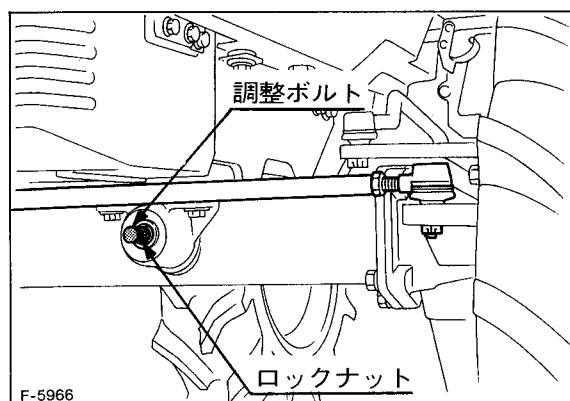
前車軸支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し、ガタがあれば調整します。

◆調整

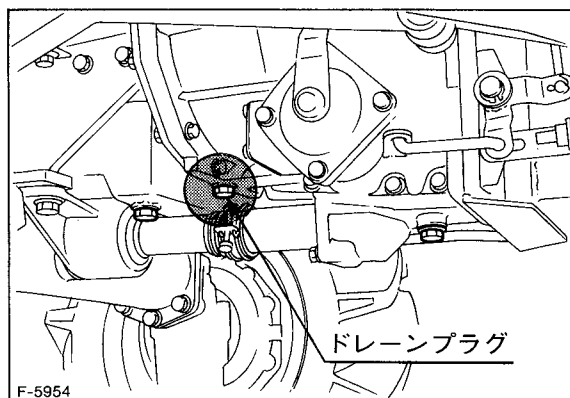
ロックナットをゆるめ、調整ボルトを締込み、ガタを調整します。



■クラッチハウジングの水抜き

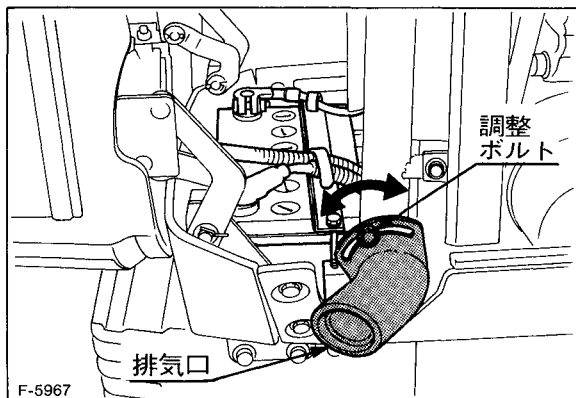
代かき作業・洗車・雨中作業などで、クラッチハウジングに多量の水がかかった場合、又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレインプラグを外し、水の浸入がないことを確認してください。

もし水が入っていれば、完全に抜いて内部をよく乾燥してください。



■排気口の調整

調整ボルトをゆるめ、排気口を任意の位置に回動し、調整ボルトを締付けてください。



■排気ガスの色

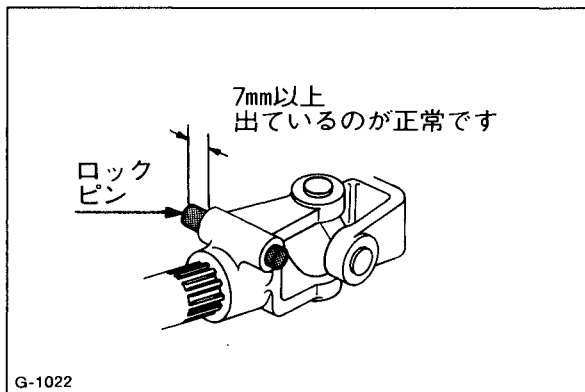
無 色……正常

黒 色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼です。

青白色……冷機時アイドリング運転では、青白く見えることがあります。異常ではありません。

■ユニバーサルジョイントの点検

ロックピンが正確にみぞにはまったかどうかの確認は、ピンの頭が「7mm以上」出ているかどうかを調べます。



■シールの組替え

整備などの目的でギヤケース、チェーンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴムキャップ、パッキン等と交換してください。オイルもれの原因となります。

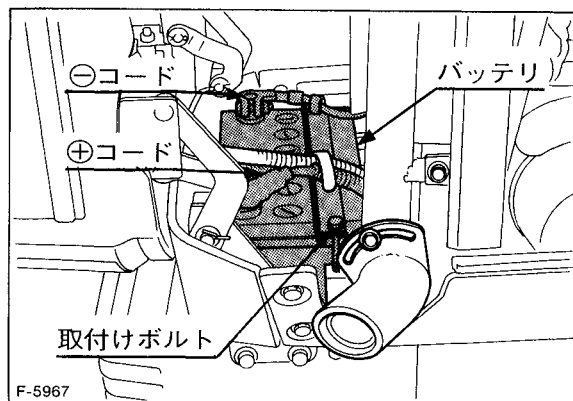
電気系統について

安全ポイント

- (1) バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
▶付着したまま放置すると……
希硫酸によって、ヤケドすることがあります。
- (2) バッテリーの点検及び取外し時には、エンジンを停止し、メインスイッチを「OFF」にしてください。

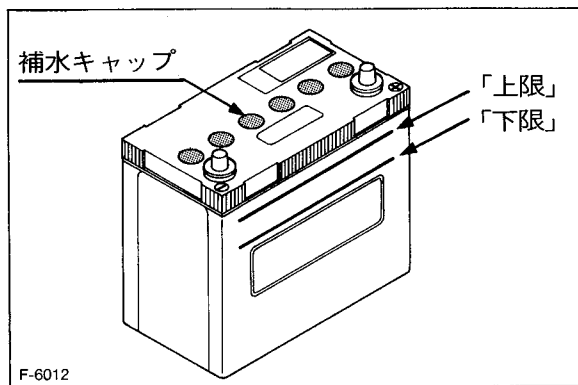
■バッテリーの取付け、取外し

- ① バッテリー⊖コードを外し、左右の取付けボルトをゆるめます。
- ② バッテリー⊕コードを外し、バッテリーを取外します。
- ③ 取付けるときは、必ず⊕側から取付けます。
逆にすると、工具が当たった場合にショートします。



■バッテリー液の点検

バッテリーはMF(メンテナンスフリー)バッテリーを使用していますので従来品に比べ、液の減り度合がきわめて少なくなっていますが側面に2本の線(レベル)があり、その間に液面があればよく、少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。



F-6012

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリーの補水のしかた

- (1) バッテリー上フタの補水キャップを外します。マイナスドライバを補水キャップの溝に入れて回すとキャップが外れます。
- (2) 6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
- (3) キャップを元の穴にねじ込みます。

注意

- (1) バッテリー液が不足するとバッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
- (2) バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
- (3) バッテリーにコードを接続するときは、⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリーと電気系統が故障します。
- (4) バッテリーからコードを外すときは⊖側、取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- (5) 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。
コードの接続をまちがえないように注意してください。
- (6) 新品のバッテリーと交換する場合には必ず指定した型式(50B24L-MF)のバッテリーを使用してください。
- (7) バッテリーを外し、再度取付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

■ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの点検・交換

安全ポイント

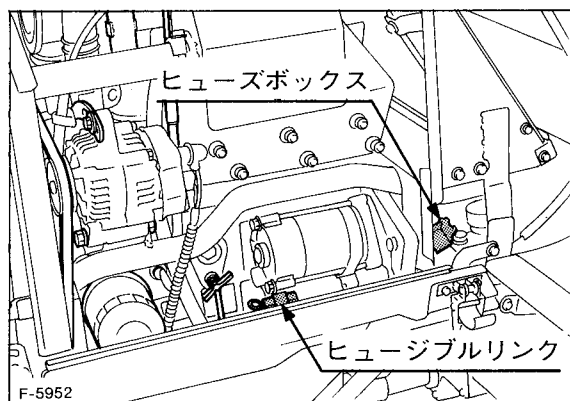
- (1) ワイヤハーネス及びバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートを起すので必ず点検してください。
- (2) バッテリー、配線及びマフラやエンジン周辺部にワラズ、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの被覆は各部の角に接触、ネズミのかじりなどにより、損傷したり自然劣化することがありますので、下記の項目について定期的に点検してください。

- (1) ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
- (2) ターミナル、ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
- (3) 各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

- ① ヒューズボックスのふたを外します。



F-5952

- ② 切れたヒューズを外します。
- ③ 同容量のヒューズと取換えます。

注意

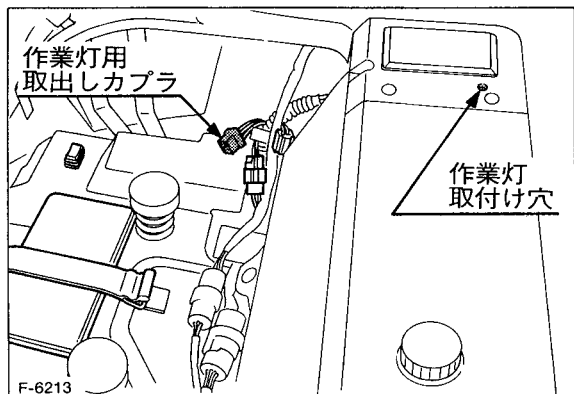
- ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、販売店か農協で点検・修理してください。

■ヒューズブルリンクの交換

ヒューズブルリンクは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べてください。また決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。

■作業灯の使い方(別途購入品)

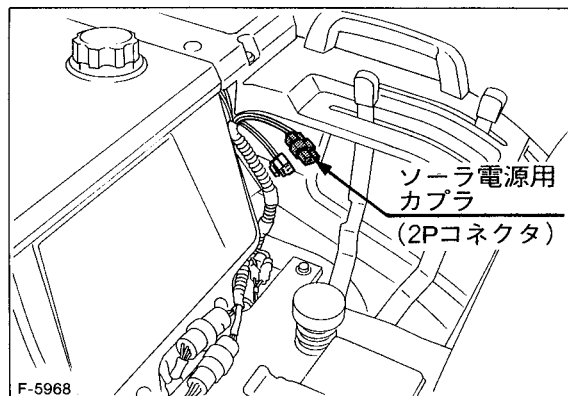
作業灯は純正部品(品番:96314-15401)を使用してください。



注意

- 作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
どうしても使用したい場合は、販売店・農協・弊社支店又は(株)クボタアグリにご相談ください。

■ソーラ電源(別途購入品)



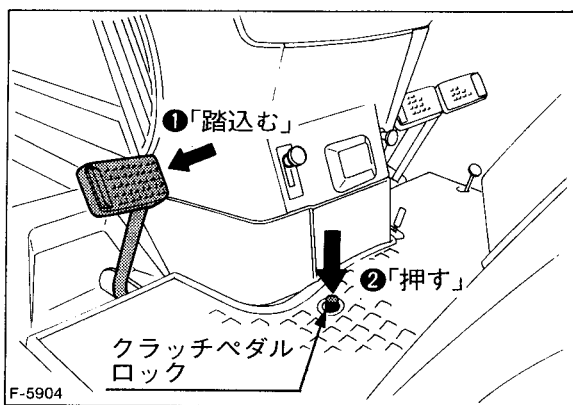
長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納しましょう。

- (1)不具合箇所は整備してください。
- (2)エンジンオイルを交換し、2000回転/分以上で10～15分間運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。
- (3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
- (4)車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
- (5)燃料コックを「閉」にしておいてください。
- (6)冷却水は抜いておいてください。
- (7)クラッチペダルは、クラッチを踏込んだ状態で「クラッチペダルロック」を掛けてください。
クラッチ板のさび付きを防止します。

◆クラッチ「切」保持の方法

- ①クラッチペダルをいっぱい踏込んでから、ロックボタンを手で押下げます。
- ②押下げたまま、クラッチペダルから足を離せば「切」の状態で保持されます。
- ③使用するときには、クラッチペダルをいっぱい踏込めばロックが解除されます。



- (8)クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- (9)タイヤの空気圧は、標準より高いめにしてください。
- (10)バッテリーを車体から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
- (11)作業機は外すか地面に降ろした状態にしてください。
- (12)後輪の前後に車止めをしておいてください。
- (13)各部の配線・バッテリーコード・燃料配管などの、キレツ・被覆の破れ、コードクランプの外れは、確実に点検・整備してください。
- (14)格納中バッテリーは、1カ月に1回完全充電するようにしましょう。
- (15)格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。

安全ポイント

- シートをかける場合は、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
▶これを守らないと……
火災を起す原因になります。

注意

- 洗車するときはエンジンを止めてください。もしエンジンをかけたまま洗車するときは、エアーリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入るとエンジンを破損することがあります。

エンジンの不調と処置

万一エンジンの調子が悪い場合は、次表により診断し、処置をしてください。

現 象	原 因	処 置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料タンクを点検し、沈澱している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に、空気や水が混入している。	<ul style="list-style-type: none"> ● パイプ及び締付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● エアー抜きをする。(41ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	<ul style="list-style-type: none"> ● ラジエータに熱湯をそそぐ。 ● 気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリーがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	<ul style="list-style-type: none"> ● バッテリーを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料を補給する。
	(2)エアークリーナーの目詰まり。	<ul style="list-style-type: none"> ● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料切れ	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	<ul style="list-style-type: none"> ● 正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	<ul style="list-style-type: none"> ● ボンネット密閉の点検 (左右のボンネットフックレバーが確実にロックされているか点検する。) ● 冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ● ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。

☆原因や処置のしかたがわからない場合は、お買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

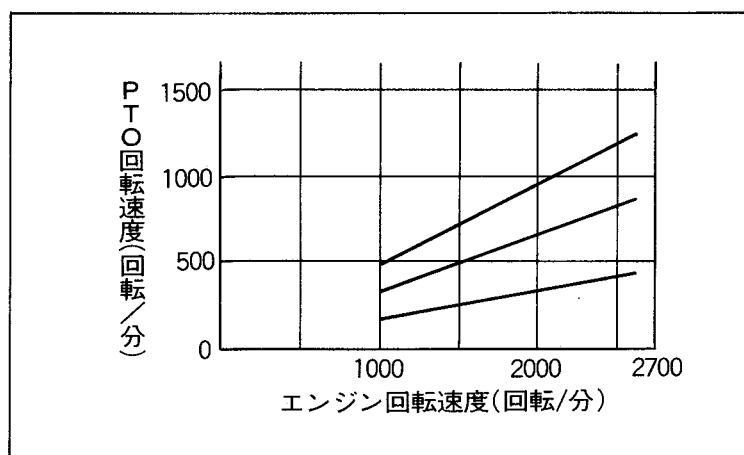
形 式	A-15	A-15K	A-17	A-17K	A-19	A-19K	
駆 動 方 式	四 輪 駆 動						
機 体 寸 法	全 長(mm)	2230		2260	2250	2280	2250
		2535(ロアーリンク先端標準3P)					
	全 幅(mm)	1050					
	全 高(mm)	1245	1155	1260	1170	1270	1170
軸 距(mm)	1350						
法 輪	前 輪(mm)	820	860	820	860	820	860
	距 後 輪(mm)	810, 900	820, 910	810, 900	820, 910	810, 900	820, 910
	最低地上高(mm)	300	215	310	240	310	240
重 量(kg)	650	690	660	700	670	700	
エ ン ジ ン	名 称	クボタD905		クボタD1005		クボタD1105	
	形 式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル(NewTVCS)					
	総排気量(cc)	898		1001		1123	
	出力/回転速度 (PS/rpm)	15.5/2600		17.0/2600		18.5/2600	
	使用燃料	クボタディーゼル重油, 又はディーゼル軽油					
	燃料タンク容量(l)	17					
	始動方式	セルモータ式					
	バ ッ テ リ	50B24L-MF(12V・45Ah)					
タイヤ	前 輪	5.00-12		6-12	5.00-12	6-12	5.00-12
	後 輪	8-16		8-18		8.3-20	8-18
車 体	クラッチ方式	乾式単板(シングル)					
	制 動 装 置	一系統左右独立(連結装置付), 湿式ディスクブレーキ(機械式)					
	かじ取り方式	ボールスクリュ式					
	差 動 方 式	4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)					
変 速 方 式	選択かみ合式・常時かみ合式併用						
変 速 段 数(段)	前進6, 後進2						
走 行 速 度 (km/h)	前 進	0.9~12.0		1.0~12.9	0.9~12.0	1.1~13.7	0.9~12.0
	後 進	1.3~5.6		1.4~6.0	1.3~5.6	1.5~6.4	1.3~5.6
最 小 旋 回 半 径 (ブレーキ使用時)(m)	1.8						
P T O	回転/エンジン 速度/回転速度 (rpm)	453, 799, 1194/2600					
	軸 寸 法(mm)	JIS 35					
作 業 降 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール					
	装 着 方 式	3点リンク JIS O形					

■走行速度表

(km/h)

副変速 レバー	主変速 レバー	A-15, A-15K, A-17K, A-19K		A-17		A-19	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進
低	1	0.94		1.01		1.07	
	2	1.65	1.31	1.78	1.41	1.90	1.50
	3	2.66		2.86		3.05	
高	1	3.98		4.29		4.57	
	2	7.03	5.58	7.57	6.00	8.06	6.39
	3	12.00		12.88		13.72	

■PTO回転速度表



■ロータリの主要諸元

形 式	RSP10	RSP11	RSP12	RSP13	RSP15	RKP10	RKP12	
駆 動 方 式	サイドドライブ					センタドライブ		
機 体 寸 法	全 長(mm)		1460			1400		
	全 幅(mm)		1195	1295	1395	1495	1695	1135 1330
	全 高(mm)		925			910		
重 量(kg)	145 (S)155	150 (S)160	155 (S)165	160 (S)170	175 (S)185	150 (S)160	160 (S)170	
適 応 ト ラ ク タ (PS)	A-15, A-17, A-19 (15.5, 17, 18.5)							
装 着 装 備 の 種 類	特殊3点リンク							
標 準 耕 幅(mm)	1020	1120	1220	1320	1520	990	1230	
標 準 耕 深(cm)	12							
標 準 作 業 速 度(km/h)	0.9~4.6							
入 力 軸 回 転 数(rpm)	453~1194							
変 速 の 有 無	無							
耕 う ん 軸 回 転 速 度(rpm)	154, 272, 407					151, 266, 398		
耕 う ん 爪 取 付 方 法	ホルダタイプ							
耕 う ん 爪 の 種 類	321号R, L各11本 322号R, L各1本	321号R, L各12本 322号R, L各1本	321号R, L各13本 322号R, L各1本	321号R, L各14本 322号R, L各1本	321号R, L各16本 322号R, L各1本	321号R, L各10本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各12本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	
耕 う ん 爪 の 外 径(cm)	45							
耕 深 調 節 機 構	後方双尾輪式, モンローマチックオート式【MA仕様】							
耕 う ん 作 業 能 率(分/10a)	22~66	20~60	19~55	17~51	15~44	23~68	18~54	

注1. 機体寸法及び重量は, MAYB仕様。

2. (S)はスーパージョイント付き「S仕様」。

標準付属品

品名	数量/台	備考	品名	数量/台	備考
10-12スパナ	1		ヒューズ	2種	10アンペア, 15アンペア
12-14スパナ	1		メインスイッチキーアッシ	1	
14-17スパナ	1		取扱説明書	1	
19-22スパナ	1		サービスブック	1	
21-26スパナ	1		納入品安全説明書	1	
10-12ボックススパナ	1		安全注意ポスタ	1	
プライヤ	1		PTO軸カバー	1	
グリースガン	1		ボルト	2	} PTO軸カバー 取付け用
油差し	1		座金	2	
ロート	1				

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

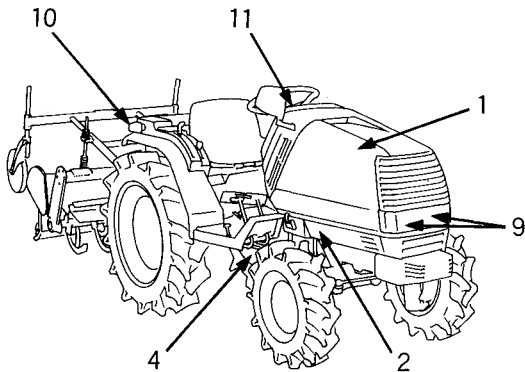
■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル
日本石油	クボタオイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタオイル M80B
コスモ石油		
共同石油		
昭和シェル石油		

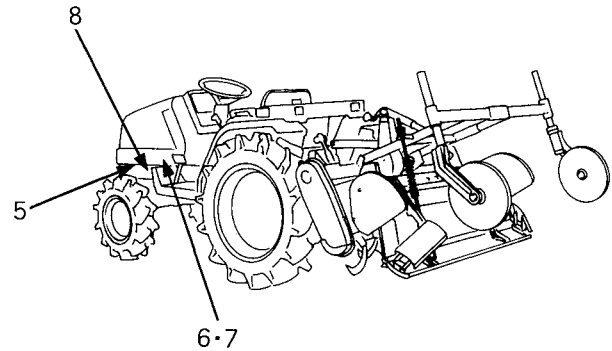
■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
共同石油	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホイールベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

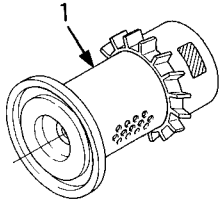
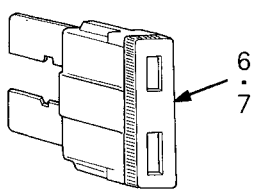
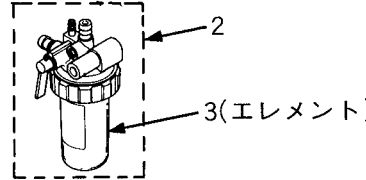
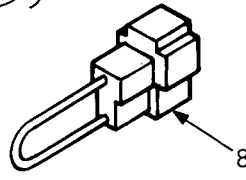
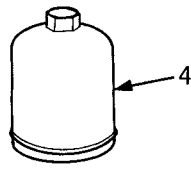
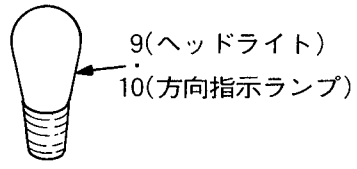
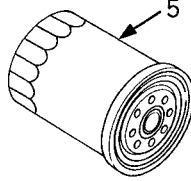
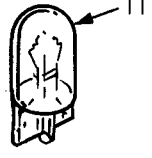
主な消耗部品一覧表



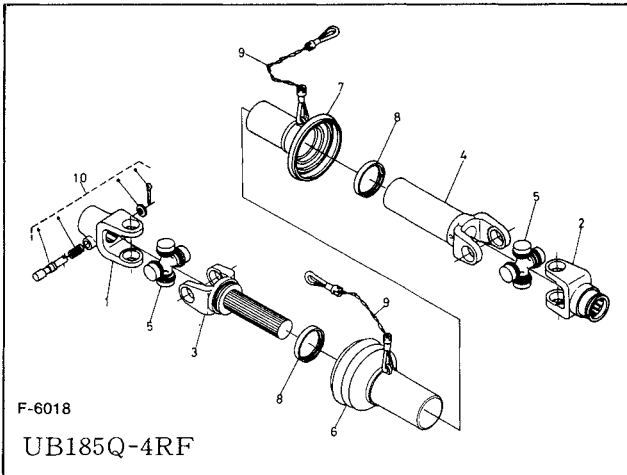
F-5969



F-5970

<p>エアークリーナ エレメント</p>  <p>F-5272</p>	<p>ヒューズ</p>  <p>F-4757</p>
<p>燃料フィルタ</p>  <p>F-5272</p>	<p>ヒュージブルリンク</p>  <p>F-6013</p>
<p>油圧オイルフィルタ カートリッジ</p>  <p>F-5273</p>	<p>電球</p>  <p>F-4759</p>
<p>エンジンオイルフィルタ カートリッジ</p>  <p>F-4756</p>	<p>イージーチェッカ用ランプ バッテリチャージランプ エンジンオイルランプ グローランプ モンローマチック表示ランプ ポンパアップ表示ランプ オート耕うん表示ランプ</p> <p>共通</p>  <p>F-5086</p>

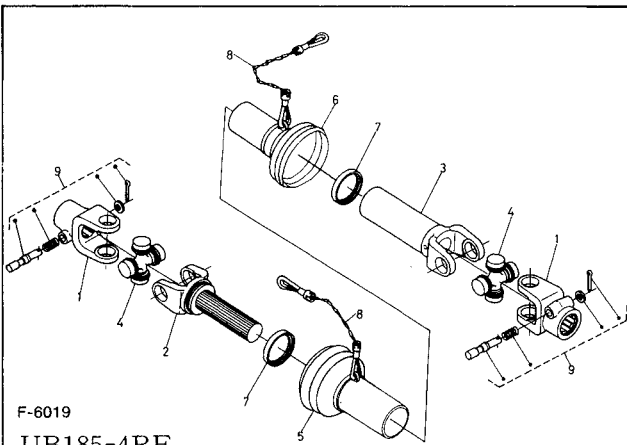
図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアークリーナエレメントアッシ	52300-2578-0	7	ヒューズ15A	35820-7556-0
2	フューエルフィルタアッシ	15531-4301-0	8	ヒュージブルリンク	67111-5519-0
3	フィルタエレメント	15231-4356-3	9	デンキユウ	67950-5417-0
4	油圧オイルフィルタカートリッジ	67950-3771-4	10	デンキユウ	37410-5272-0
5	エンジンオイルフィルタカートリッジ	15241-3209-0	11	ランプ	38240-3147-0
6	ヒューズ10A	36730-7555-0			



F-6018

UB185Q-4RF

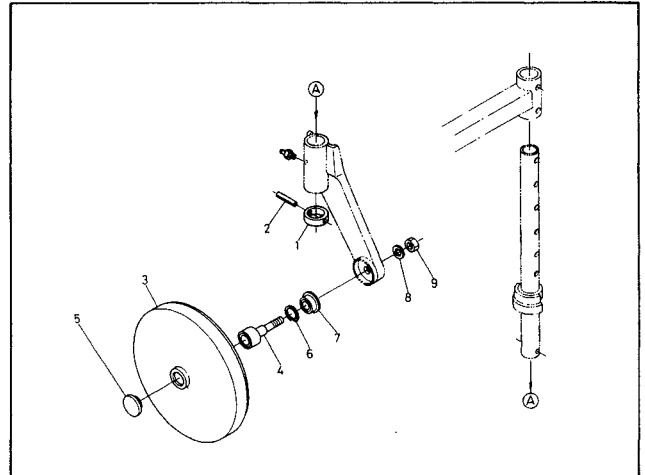
図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	70881-5811-3	1
1	ヨーク 1	70880-5812-0	1
2	ヨーク 2	70870-4312-0	1
3	シャフトヨーク	70880-5813-0	1
4	スリーブヨーク	79105-0583-0	1
5	スパイダアッシ	79190-3125-0	2
6	セーフティカバー-S	70880-5814-2	1
7	セーフティカバー-L	70881-5815-0	1
8	スライドリング	70870-4317-0	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-0	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-0	1



F-6019

UB185-4RF

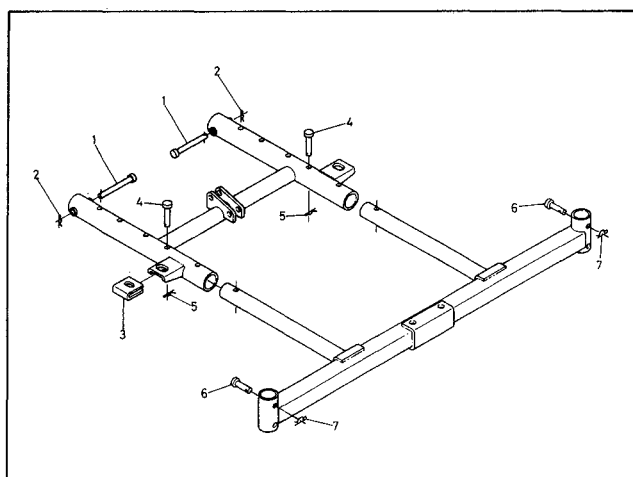
図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	70880-5811-2	1
1	ヨーク 1	70880-5812-0	2
2	シャフトヨーク	70880-5813-0	1
3	スリーブヨーク	79105-0583-0	1
4	スパイダアッシ	79190-3125-0	2
5	セーフティカバー-S	70880-5814-2	1
6	セーフティカバー-L	70880-5815-2	1
7	スライドリング	70870-4317-0	2
8	チェーンアッシ	70815-5822-0	2
9	ロックピンアッシ	70678-5822-0	2



F-6020

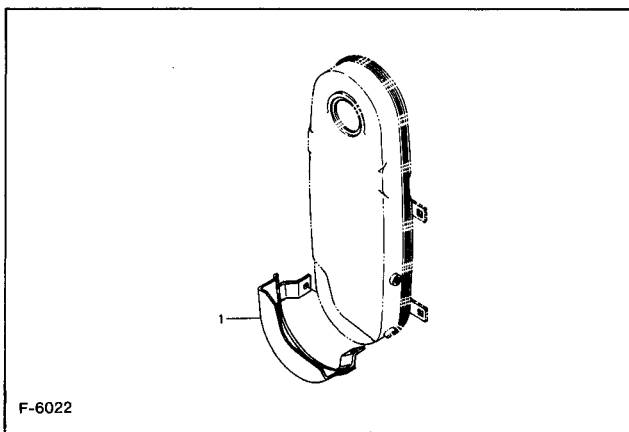
図番	品名	品番	個数
1	カラー	79153-3548-2	1
2	スプリングピン	05411-00650	1
3	後 2 輪310	79153-7551-2	1
4	後 2 輪軸アッシ	79153-3552-0	1
5	シールキャップ	79163-3549-0	1
6	穴サークリップ	04611-00370	1
7	オイルシール	79153-3553-2	1
8	バネ座金	04512-50160	1
9	ナット	02174-50160	1

■サイドドライブ仕様



F-6021

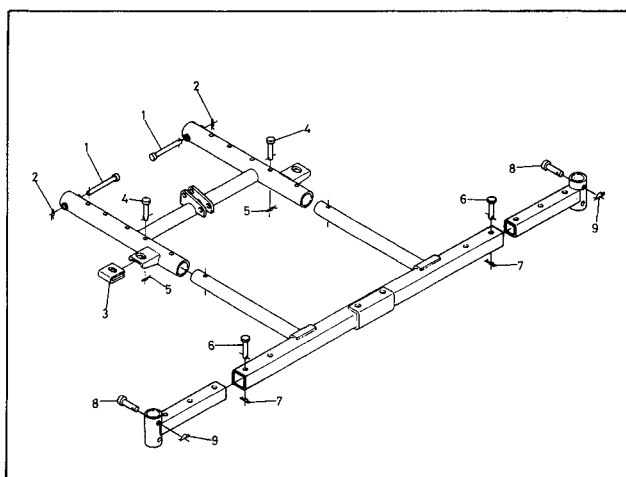
図番	品名	品番	個数
1	頭付きピン	05122-5148-5	2
2	スナップピン	05525-51400	2
3	防音クッション	70172-5712-0	2
4	頭付きピン	05122-51260	2
5	スナップピン	05516-51200	2
6	頭付きピン	05122-51055	4
7	スナップピン	05516-51000	4



F-6022

図番	品名	品番	個数
1	補護カバー	79105-3215-2	1

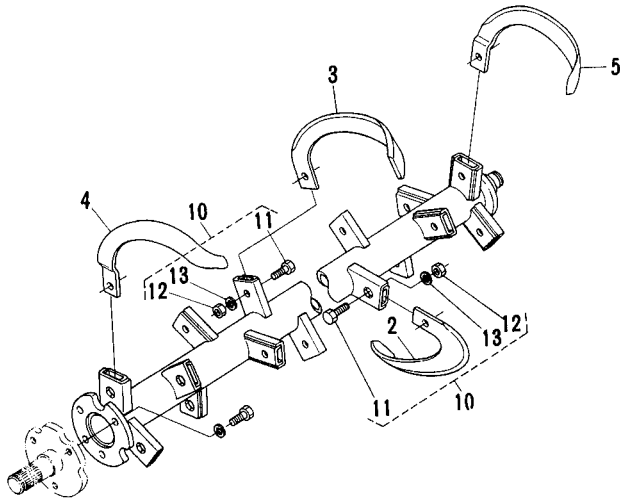
■センタドライブ仕様



F-6023

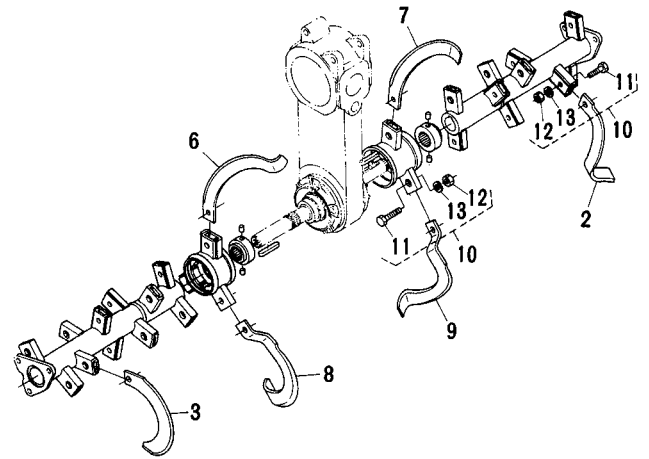
図番	品名	品番	個数
1	頭付きピン	05122-5148-5	2
2	スナップピン	05525-51400	2
3	防音クッション	70172-5712-0	2
4	頭付きピン	05122-51260	2
5	スナップピン	05516-51200	2
6	頭付きピン	05112-51260	4
7	スナップピン	05516-51200	4
8	頭付きピン	05122-51055	4
9	スナップピン	05516-51000	4

■サイドドライブ仕様



F-6024

■センタドライブ仕様



F-6025

図番	品名	品番	個数							備考
			RSP10	RSP11	RSP12	RSP13	RSP15	RKP10	RKP12	
1	なた爪アッシ	70170-5754-0	1	—	—	—	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	70171-5754-0	—	1	—	—	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	70172-5754-0	—	—	1	—	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	96181-9825-0	—	—	—	1	—	—	—	②～⑤ 水月産業
1	なた爪アッシ	96181-9825-6	—	—	—	1	—	—	—	②～⑤ 小橋工業
1	なた爪アッシ	70175-5754-0	—	—	—	—	1	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	96181-9831-6	—	—	—	—	—	1	—	②, ③, ⑥～⑨
1	なた爪アッシ	70180-5754-0	—	—	—	—	—	—	1	②, ③, ⑥～⑨
2	321号耕うん爪左	96181-1221-0	11	12	13	14	16	10	12	
3	321号耕うん爪右	96181-1222-0	11	12	13	14	16	10	12	
4	322号増幅爪左	79140-6261-0	1	1	1	1	1	—	—	
5	322号増幅爪右	79140-6262-0	1	1	1	1	1	—	—	
6	533号なた爪左	70101-5551-3	—	—	—	—	—	2	2	
7	533号なた爪右	70101-5552-3	—	—	—	—	—	2	2	
8	534号変形爪左	70101-5553-3	—	—	—	—	—	1	1	
9	534号変形爪右	70101-5554-3	—	—	—	—	—	1	1	
10	爪取付け部品アッシ	70170-5755-0	1	—	—	—	—	—	—	⑪～⑬
10	爪取付け部品アッシ	70171-5755-0	—	1	—	—	—	1	—	⑪～⑬
10	爪取付け部品アッシ	70172-5755-0	—	—	1	—	—	—	—	⑪～⑬
10	爪取付け部品アッシ	70173-5755-0	—	—	—	1	—	—	1	⑪～⑬
10	爪取付け部品アッシ	70175-5755-0	—	—	—	—	1	—	—	⑪～⑬
11	ボルト	32142-5595-2	24	26	28	30	34	26	30	
12	爪取付けナット	64135-9519-3	24	26	28	30	34	26	30	
13	バネ座金	04512-50100	24	26	28	30	34	26	30	

アタッチメント一覧表

◆トラクタ

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適 応 ト ラ ク タ						
					A-15 A-15K	A-15 大径 タイヤ A-17K A-19K	A-17	A-17 大径 タイヤ	A-19	A-19 大径 タイヤ	
補 助 車 輪 関 係	96023 -07100	P15 反転ストレーク	外径 74.79cm 幅 15cm	5 セット / 台	96023-06400 8-16ストレーク取付け台	○					
			外径 79.84cm 幅 15cm		96023-06500 8-18ストレーク取付け台		○	○			
			外径 84.89cm 幅 15cm		96023-06600 8.3-20ストレーク取付け台				○	○	
			外径 89.94cm 幅 15cm		96023-08400 8.3-22ストレーク取付け台					○	
	96023 -07200	P20 反転ストレーク	外径 76.81cm 幅 20cm	5 セット / 台	96023-06400 8-16ストレーク取付け台	○					
			外径 81.86cm 幅 20cm		96023-06500 8-18ストレーク取付け台		○	○			
			外径 86.91cm 幅 20cm		96023-06600 8.3-20ストレーク取付け台				○	○	
			外径 91.96cm 幅 20cm		96023-08400 8.3-22ストレーク取付け台					○	
	96023 -07300	P30 反転ストレーク	外径 81.86cm 幅 30cm	5 セット / 台	96023-06400 8-16ストレーク取付け台	○					
			外径 86.91cm 幅 30cm		96023-06500 8-18ストレーク取付け台		○	○			
			外径 91.96cm 幅 30cm		96023-06600 8.3-20ストレーク取付け台				○	○	
			外径 96.10cm 幅 30cm		96023-08400 8.3-22ストレーク取付け台					○	
	96023 -06400	8-16 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用		○						
	96023 -06500	8-18 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用	P15, P20, P30 の反転ストレーク を任意選択		○	○				
	96023 -06600	8.3-20 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用					○	○		
	96023 -08400	8.3-22 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用						○		
V仕様(六角車軸)のみ下記を使用											
96023 -07400	8-16 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用	P15, P20, P30 の反転ストレーク を任意選択	○							
96023 -05400	8-18 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用			○	○					
ウ エ イ ト 関 係	96312 -20140	8-16 ホイールウエイトアッシ	重量23kg×2個 (後輪用)		○	○	○				
	96312 -28100	8.3-22 ホイールウエイトアッシ	重量28kg×2個 (後輪用)				○	○	○		
	96315 -10510	前部ウエイト 本体アッシ	重量25kg 使用個数1個		○	○	○	○	○		
	96315 -15400	B ₁ -15 パンパウエイトアッシ	重量40kg 使用個数1個		○	○	○	○	○		

◆トラクタ

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適 応 ト ラ ク タ					
					A-15 A-15K	A-15 大径 タイヤ A-17K A-19K	A-17	A-17 大径 タイヤ	A-19	A-19 大径 タイヤ
その の 他	96316 -27300	B1400M ヒッチアッシ	ヒッチピン径 2.4cm		○	○	○	○	○	○
	96316 -27200	B1400 延長ヒッチアッシ	延長11cm ヒッチピン径2.4cm	96316-27301 B1400Mヒッチアッシ	○	○	○	○	○	○
	96397 -15100	B1500 洗車ポンプアッシ	吐出量55ℓ/分		○	○	○	○	○	○
	96314 -15400	B ₁ -15 作業灯アッシ	12V15W		○	○	○	○	○	○
	96314 -47800	A-15 折りたたみ日よけアッシ	全高 A-15, 180cm A-17, 183cm A-19, 185cm		○	○	○	○	○	○
	96315 -46100	SF-A15 安全フレームアッシ	全高 A-19, 191.5cm		○	○	○	○	○	○
	96314 -48500	A-15 レインガードキャビン			○	○	○	○	○	○
	96314 -48601	クリヤウインドアッシ		96314-48500 レインガードキャビン	○	○	○	○	○	○

◆ロータリ

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 ロ ー タ リ						
					RSP 10	RSP 11	RSP 12	RSP 13	RSP 15	RKP 10	RKP 12
耕 う ん	70461- 5555-0	爪取付け部品1	ボルト・ナット バネ座金 各1個	—	○ 24	○ 26	○ 28	○ 30	○ 34	○ 26	○ 30
	96195- 0630-0	200延長 爪軸アッシ10	左右各10cm 延長	—						○	
	96195- 0640-0	400延長 爪軸アッシ	左右各20cm 延長	—						○	
整 地	96195- 0650-0	200延長 爪軸アッシ12	左右各10cm 延長	—							○
	99742- 4270-0	代かき セットⅠ(02)	整地幅125cm 延長各60cm付	前部ウエイト 本体アッシ(25kg) (96315-1051-0)			○			Ⓜ	○
	99752- 4270-0	代かき セットⅡ(02)	整地幅145cm 延長各60cm付				○			Ⓜ	Ⓜ
	99762- 4270-0	代かき セットⅢ(02)	整地幅165cm 延長各60cm付					○			
	99772- 4470-0	延長代かき 整地板(02)	延長幅 左右各20cm	代かきセット Ⅰ(02)Ⅱ(02)Ⅲ(02)			○	○	○	ⓂⓂ	○Ⓜ
	96272- 2570-0	くし付整地 カバー12					○			Ⓜ	○
	96272- 2770-0	くし付整地 カバー13						○			
96313- 3720-0	折たたみ整地部	延長整地幅 左右各25cm		○	○	○	○	○	○	○	
う ね た て	99042- 1370-0	4号 うねたて器(03)	溝幅12cm 羽根長さ 85.4cm	うねたて金具(03) (99042-1770-0)	○	○	○	○	○	○	○
	99042- 1470-0	5号 うねたて器(03)	溝幅15cm 羽根長さ 86.5cm		○	○	○	○	○	○	○
	99042- 1170-0	7号 うねたて器(03)	溝幅21cm 羽根長さ92cm		○	○	○	○	○	○	○
	99042- 1770-0	うねたて金具(03)		4号・5号・7号 うねたて器(03)	○	○	○	○	○	○	○
	99042- 7100-0	片培土器Ⅰアッシ	溝幅16cm		○	○	○	○	○	○	○
	96230- 8550-0	ディスク片培土器 (アステ)			○	○	○	○	○		

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 口 ー タ リ						
					RSP 10	RSP 11	RSP 12	RSP 13	RSP 15	RKPR 10	RKPR 12
マ ル チ ・ 整 形 板	96280-3130-0	平うねマルチアッシ (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし うね幅 80~120cm うね高さ 20~30cm フィルム幅 90~150cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B ₁ -15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-5130-0	平高うねマルチアッシ (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし うね幅 80~120cm うね高さ 15~30cm フィルム幅 110~150cm	• 高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-7150-0	小うねマルチアッシ (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし うね幅 47~55cm うね高さ 27~33cm フィルム幅 95~110cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B ₁ -15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 • マルチセンタ用ヒッチ 99041-8890-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-2350-0	高うねマルチアッシ (ヒッチなし)	プラウ爪3対付, リヤカバーなし うね幅 55~76cm うね高さ 33~38cm フィルム幅 110~135cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B ₁ -15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 • 高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-4120-0	2畦マルチアッシ (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし うね幅 47~50cm うね高さ 27~30cm うね間隔 75~90cm フィルム幅 95~110cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B ₁ -15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 • 2畦マルチ用ヒッチ 96280-4122-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-5210-0	汎用平高うねマルチ (ヒッチなし)	プラウ爪なし, リヤカバー付 フィルム幅 95~180cm	• 高うねマルチ用 ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-5131-0	平高うね整形板 (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B ₁ -15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 • 高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-7151-0	小うね整形板 (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし うね幅 47~55cm うね高さ 27~33cm	• マルチセンタ用 ヒッチ 99041-8890-0	○	○	○	○	○	○	○
	96280-2352-0	高うね整形板 (ヒッチなし)	プラウ爪3対付, リヤカバーなし うね幅 55~76cm うね高さ 33~38cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B ₁ -15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 • 高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 口 ー タ リ							
					RSP 10	RSP 11	RSP 12	RSP 13	RSP 15	RKP 10	RKP 12	
マ ル チ ・ 整 形 板	96280-4121-0	2 畦整形板 (ヒッチなし)	プラウ爪, リヤカバーなし うね幅 47~50cm うね高さ 27~30cm うね間隔 75~90cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B1-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 • 2 畦マルチ用ヒッチ 96280-4122-0	○	○	○	○	○	○	○	○
	96280-5211-0	汎用平高うね整形板	プラウ爪なし, リヤカバー付	• 高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○	○
	96280-2351-0	高うねマルチ用ヒッチ		• 平うね, 平高うね, 高うねマルチアッシ • 汎用平高うねマルチ • 平高うね, 高うね, 汎用平高うね整形板	○	○	○	○	○	○	○	○
	96280-4122-0	2 畦マルチ用ヒッチ		• 2 畦マルチアッシ • 2 畦整形板	○	○	○	○	○	○	○	○
	99041-8890-0	マルチ センタ用ヒッチ		• 小うねマルチアッシ • 小うね整形板	○	○	○	○	○	○	○	○
	96198-0811-0	プラウ爪(右)			○	○	○	○	○	○	○	○
	96198-0812-0	プラウ爪(左)			○	○	○	○	○	○	○	○

アタッチメントの装着により前後バランスが悪くなった場合、下記ウエイトを装着してください。

品 名	重量(kg)	品 番
前部ウエイト本体アッシ	25	96315-1051-0
B1-15バンパーウエイトアッシ	40	96315-1540-0
B1600DT前輪ウエイトアッシ	36	96312-2840-0

㊟：「200延長爪軸アッシ」装着時を示します。

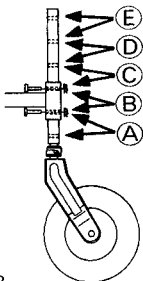
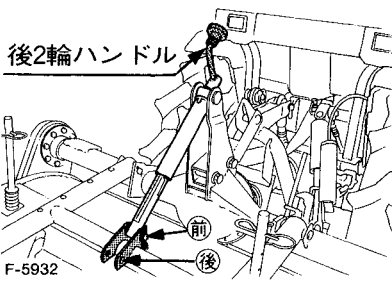
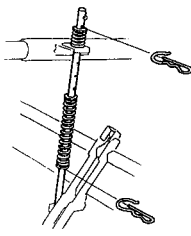
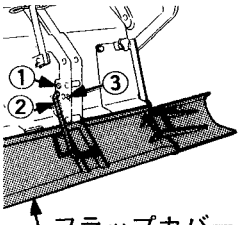
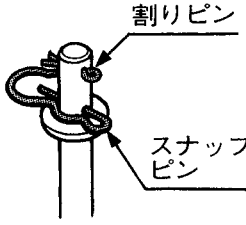
㊞：「400延長爪軸アッシ」装着時を示します。

○印下の数字は1台分の個数を示します。

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		操作方法	操作調整箇所		
			オート耕深調節スイッチ	オート切換えスイッチ	コントロールレバー
浅起し (5~8cm)	オート 【MA仕様】				
	ポジション コントロール				
一般耕うん (8~15cm)	オート 【MA仕様】				
	ポジション コントロール				
深起し (15cm以上)	オート 【MA仕様】				
	ポジション コントロール				
代かき (10~12cm)	一般 ほ場	オート 【MA仕様】			
	湿田 ほ場	オート 【MA仕様】			
	一般 湿田	ポジション コントロール			
畝立て	ポジション コントロール				

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合わせて適宜調整してください。

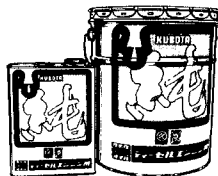
操 作 調 整 箇 所						
 F-5972	 F-5932	 F-5971	 F-5923			
後 2 輪 上 下 調 整	後 2 輪 ネジ 前 後 調 整	後 2 輪 ハンドル	スナップピン	フラップカバー		
後 2 輪を 外します	<p>①の位置 (より深起しを するときは ②の位置)</p>	—	<p>●上方のスナップピン 割りピンの下 の穴にセット</p> 	③の位置		
②又は③の位置		希望耕深に なるよう調整		②の位置		
後 2 輪を 外します		—		①の位置		
②の位置		希望耕深に なるよう調整		③又は②の位置		
後 2 輪を 外します		—		<p>●下方のスナップピン 接地圧条件に 合せてセット (押付け力を強く すると、均平・ 整地に効果があ ります。)</p>	③の位置	
②又は①の位置		希望耕深に なるよう調整			③又は②の位置	
後 2 輪を 外します		—		希望耕深に なるよう調整	●カバールを上げス ナップピンでセッ ト	フラップカバー を外します
②～⑤の位置		希望耕深に なるよう調整		希望耕深に なるよう調整		
後 2 輪を 外します		—		希望耕深に なるよう調整		

オイルは **クボタ純オイル** をお使いください。

● オイルはトラクタの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

■ エンジンには、

クボタ純オイル D 30, 又は
ディーゼルエンジン用 D 10W 30



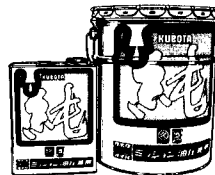
Z-1002 4 ℓ 20 ℓ

■ トラクタ本体には、

クボタ純オイル

ミッション用

M80 B



Z-1003 4 ℓ 20 ℓ

■ グリースアップには、

クボタスペアグリース

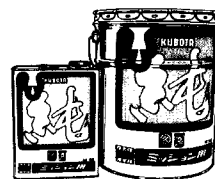


Z-1005 60 100 400

■ ロータリなどには、

クボタ純オイル M 90

ミッション用



Z-1004 4 ℓ 20 ℓ

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。

お買い求めは、販売店・農協またはコスモ石油・日本石油・共同石油・昭和シェル石油のスタンドにご用命ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
東 京 本 支 店	社：東京都中央区日本橋室町3丁目1番3号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 店	社：札幌市中央区北3条西3丁目1番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東 北 支 店	社：仙台市青葉区本町2丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中 部 支 店	社：名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九 州 支 店	社：福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札 幌 支 店	店：札幌市西区西町北16丁目1番1号	〒063	電(011)	662-2121
仙 台 支 店	店：名取市田高字原182番地の1	〒981-12	電(022)	384-5151
東 京 支 店	店：浦和市西堀5丁目2番36号	〒338	電(048)	862-1121
大 阪 支 店	店：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
岡 山 支 店	店：岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福 岡 支 店	店：福岡市東区和白丘2丁目2番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺 製 造 所	所：堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	場：宇都宮市平出工業団地22番地2	〒321	電(0286)	61-1111
筑 波 工 場	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚 方 製 造 所	所：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1121
堺 部 品 セ ン タ ー	ー：堺市築港新町3丁8番	〒592	電(0722)	45-8601
宇 都 宮 部 品 セ ン タ ー	ー：宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
北 海 道 部 品 セ ン タ ー	ー：北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)	376-2335
筑 波 部 品 セ ン タ ー	ー：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚 方 部 品 セ ン タ ー	ー：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1797
株式会社クボタアグリ東北				
	秋 田事業所：秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
	仙 台事業所：宮城県名取市田高字原182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
	東 京事業所：浦和市西堀5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
	新 潟事業所：新潟市上所上1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
	金 沢事業所：石川県松任市下柏野町956-1	〒924	電(0762)	75-1121
	名 古 屋事業所：愛知県一宮市観音町1-1	〒491	電(0586)	24-5111
	大 阪事業所：大阪市浪速区敷津東1-2-47	〒556	電(06)	648-2111
株式会社クボタアグリ中四国				
	米 子事業所：米子市米原570	〒683	電(0859)	33-5011
	岡 山事業所：岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
	高 松事業所：香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
	福 岡事業所：福岡市東区和白丘2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
	熊 本事業所：熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1	〒861-41	電(096)	357-6181